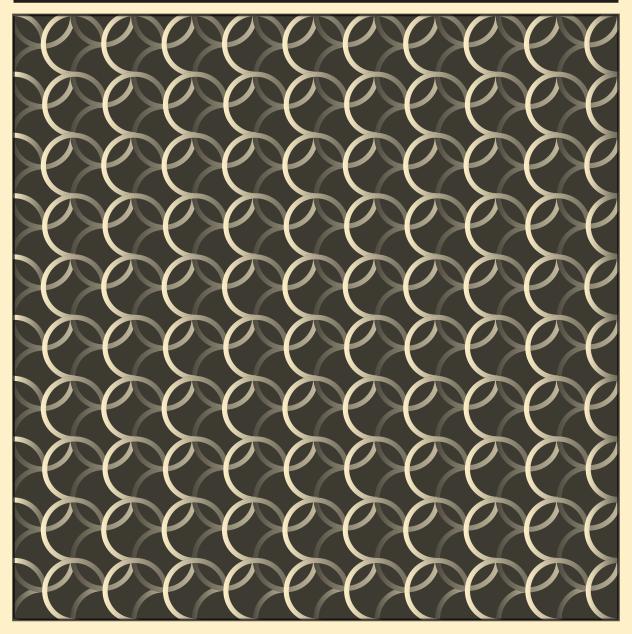
シラバス

免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

科目の授業内容は、目次で検索してください。

目次の科目は、各課程別の授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

曜日時限・教室も記載されていますが、変更になる場合があるので、教務課前掲示板で確認してください。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので、注意してください。

②目次の「備考」の表記

〈略称説明〉

外: 外国語学部養: 国際教養学部経: 経済学部法: 法学部独: ドイツ語学科済: 経済学科律: 法律学科

交: 交流文化学科

③履修開始学年•学期

目次の「学年-学期」欄に記載されています。

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

03年度以降・・・2003~2017年度入学者 07年度以降・・・2007~2017年度入学者 08年度以降・・・2008~2017年度入学者 09年度以前・・・2003~2009年度入学者 09年度以降・・・2009~2017年度入学者 10年度以降・・・2010~2017年度入学者 12年度以前・・・2003~2012年度入学者 12年度以降・・・2012~2017年度入学者 13年度以降・・・2013年度以降入学者

- ②入学年度に対応した科目名
- ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。 授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

- ⑤到達目標
- ⑥事前・事後学修の内容
- ⑦授業で使用するテキスト、参考文献
- ⑧評価方法

3. 注意事項

①履修科目

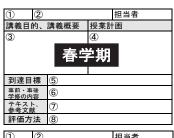
入学年度や学部学科により、履修する科目及び科目名が異なります。 免許科目の履修に際しては、「履修の手引(免許課程)」で履修科目を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。定員および備考欄を確認してください。 備考欄に<u>"抽選"と記載されている科目は、抽選結果を必ず確認</u>してください。

③時間割コード・教室

履修上の注意点については、時間割冊子にまとめられていますので、確認してください。 免許科目については、時間割コード・教室もシラバス冊子目次に掲載されています。





2017年度 免許及び資格課程 年間行事予定表

凡例【教職】:教職課程、【介護】:介護等体験、【教実】:教育実習、【司書】:司書課程、【司教】:司書教諭

/ 4/	. I.	21,012	教職課程、【介護】:介護等体験、	40,71.40,67,67,67,67,67,67,67,67,67,67,67,67,67,]] · · ·] 目 M/正、【 · ·] 47	11 E 4VIIII	I
	No.	区分	行事	対象	日付	時間	教室、備考等
	1		教職課程ガイダンス	全学部	4月4日(火)	12:30~13:30	E-102:外国語学部·国際教養学部 E-101:経済学部·法学部
1	2	【教職】	教職課程登録(課程費納付)	登録希望者のみ	4月4日(火)~10日(月)	9:00~18:30	「免許課程シラバス」配付。 証明書自動発行機で納付。申請書は提出不要。
学 年	3		「教職課程ファイル」配付	教職課程登録者	「教職論」授業時		担当教員から配付日を連絡。履修していない場合は、配付方法を参 務課免許課程掲示板で確認。
	4		司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月7日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。
	5	【司教】	司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月29日(水)	11:15~12:15	E-101、「履修の手引」持参のこと。
	6	【教職】 【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(水)	12:30~13:30	E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。 「免許課程シラバス」配付。
	7	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教諭課程、 司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月29日(水)~4月10日	(月)	証明書自動発行機で納付。教職課程のみ面接用紙および申請書を提出すること。
2	8		介護等体験申込ガイダンス	2018年度体験予定者	10月10日(火) 10月12日(木)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2018年度の実習不可。
学年	9		介護等体験実習費用納付 実習希望調査	2018年度体験予定者	10月11日(水) ~31日(火)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。
	10	【介護】	麻疹・風疹抗体検査申込手続き	2018年度体験予定者	10月上旬~11月上旬(子	予定)	証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)
	11		介護等体験(5日間)申込み	2018年度体験予定者	12月1日(金) ~20日(水)	9:00~17:00 十のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。 詳細は教務課免許課程係掲示版で確認。
	12		司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月7日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。
	13		司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月29日(水)	11:15~12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。
	14	【司教】	教職課程・司書教論課程ガイダンス (介護等体験(2日間)関連説明、教員採 用試験に向けてを含む)	全学部	3月29日(水)	15:00~16:30	E-102、「教職課程ファイル」特参のこと。 「教育実習の指針」「免許課程シラバス」配付。介護等体験(2日間) 関連手続き資料配付。
	15	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教論課程、 司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月29日(水)~4月10日	(月)	証明書自動発行機で納付。 面接用紙および申請書を提出すること。
	16		介護等体験(2日間)申込み	2017年度体験予定者	3月下旬~4月上旬	9:30~16:30 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。 詳細は教務課免許課程係掲示版で確認。
	17		介護等体験開始ガイダンス	2017年度体験予定者	4月18日(火) 4月20日(木)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2017年度の実習不可。
	18	【介護】		2017年5月~7月 介護体験予定者	5月9日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可 欠席した場合は2017年度の実習不可。
	19		介護等体験直前ガイダンス (5日間もしくは2日間いずれか早い日程	2017年8月~10月 介護体験予定者	7月4日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可 欠席した場合は2017年度の実習不可。
	20		に合わせて出席すること)	2017年11月以降 介護体験予定者	10月3日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可
9	21		教育実習校開拓	2018年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降	速やかに	欠席した場合は2017年度の実習不可。 各自が自主的に実習校を開拓
学年	22		「教育実習依賴状交付願」 「教育実習者登録票」	2018年度教育実習予定者	5月8日(月)以降開拓 できた者から随時	月~金 9:00~17:00	(遅くとも4月中に開拓を開始すること) 必要書類を教務課免許課程係に提出。 (「疾語」については、英語資格の要件を満たしていること)
	23		「麻疹・風疹抗体検査結果」 提出 「教育実習依頼状」交付	2018年度教育実習予定者	5月22日(月)以降	9:00~17:00	教務課免許課程係で受取。
	24	【教実】	「教育実習依頼状」を実習校に持参	2018年度教育実習予定者	5月22日(月)以降随時	土のみ12:00まで	交付は提出週の翌々週(月)以降9:00~17:00、土は12:00まで。 交付後、速やかに実習校に提出すること。
	25		(正式依頼) 教育実習校(中学校)斡旋願提出	2018年度教育実習予定者	9月25日(月)	9:00~17:00	必要書類を教務課免許課程係に提出。
	Н		(未開拓者) 教育実習校(中学校)斡旋者		~10月6日(金)	土のみ12:00まで	
	26		選考試験		10月12日(木)	11:30~12:30	教職・司書相談室(中央棟1階)
	27		麻疹・風疹抗体検査申込手続き	2018年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	10月上旬~11月上旬(予	予定)	証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)
	28		司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月7日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可
	29	【教実】	風疹·麻疹抗体検査提出期限	2017年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	検査結果交付日 ~2018年1月19日(金)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	抗体検査結果を確認し、抗体がある場合は、検査結果用紙のコピーを教務課免許課程係に提出。抗体がない場合は、予防(ワクチン) 核種の上、抗体検査結果用紙と予防接種を受けた証明書をコピーして、教務課免許課程係に提出。
	30	【教職】【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2017年度教育実習を 行わない者	3月29日(水)	15:00~16:00	E-102、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」を持参のこと。 「免許課程シラバス」配付。 カイタンス終了後、介護等体験(2日間)関連説明・資料配付。
	31		教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2017年度教育実習予定者	3月29日(水)	15:00~16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」持参のこと。 「教育実習日誌」・「免許課程シラバス」配付。 ガイダンス終了後、介護等体験を実施する学生は介護等体験(2日 開刊、お客」では、全によるに
	32		教育実習オリエンテーション	2017年度教育実習予定者	3月30日(木)	9:00~16:30	間)関連説明・資料配付を行う。 「教育実習日誌」オリエンテーションのページ参照。
	33		教育実習期間報告書の提出	2017年度教育実習予定者	4月13日(木)まで	9:30~17:00	教務課免許課程係に提出。
	34 35	[±4.00-1	教育実習校との打合せ 教育実習指導教員発表	2017年度教育実習予定者 2017年度教育実習予定者	実習開始2~3週間前 5月8日(月)	10:30~	各自実習校に確認。 教務課免許課程掲示板で確認。実習直前の者は窓口にて確認。
	36	【教実】	「教育実習訪問指導教員事前面談用紙」提出	2017年度教育実習予定者 (該当者のみ)	各自の教育実習開始7日		指導教員と訪問指導日程等を打合せし、 指定用紙を教務課免許課程係に提出。
4	37		教育実習事前指導面接	2017年度教育実習予定者	各自の教育実習 開始7日前まで	11:30~13:00	教職・司書相談室(中央棟1階) 5~6月は面接予定者が多いため、早めに事前指導面接を受け、 実習に備えること。
学年	38		教育実習(中学校さなける第一学校)	2017年度教育実習予定者	日程は実習校によって異	L なる	アロー面でもこの
	39		(中学校または高等学校) 教育実習日誌提出	2017年度教育実習予定者	期日・提出方法は、「教服	微実践演習(中·高)	」の授業内及び教務課免許課程掲示板で指示する。
	40		教育職員採用試験面接対策講座	教育職員採用試験 受験希望者	8月上旬(予定)	学内指定教室	日程が決定次第、教務課免許課程掲示板で告知する。
	41	【教職】	教育職員免許状一括申請説明会 (書類配付)	全学部	10月5日(木)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。
	42		教育職員免許状一括申請受付 (手数料納付·書類提出)	全学部	10月6日(金)~31日(火)	必要書類を揃え、教務課免許課程係に提出。
	43	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教諭課程修了者発表司書課程修了者発表	全学部	2018年3月3日(土)	10:30~	大学掲示板(学生センター前)
	44		教育実習日誌返却	全学部	2018年3月3日(土)以降	<u> </u>	教務課免許課程係
	45		「司書教諭課程修了証」申請受付	司書教諭課程修了者	2018年3月3日(土)~20	日(火)	教務課免許課程係
	47	【司書】	教育職員免許状授与(一括申請者) 司書課程修了書授与	全学部	2018年3月20日(火)		卒業式当日(学位記と一緒に交付)
_			こついては、変更になる場合があるので、	D4 04 F 41 75 50 5 5 5 50 70 10 -			

教職・司書相談室について

獨協大学では、教職・司書・司書教諭課程履修者をサポートするため、 教職・司書相談室(中央棟1階)を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が 用意されています。開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。学科・学年を問わず広く開放されており、事前の予約は必要ありませんので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの<u>履修に</u> 関する質問は、教務課免許課程係(東棟1階)にご相談ください。

〇開室時間:月~金 9:00~17:00

生 9:00~13:00

〇場 所:中央棟1階

〇個別面談:春学期 2017年4月6日(木)~2017年7月19日(水)

秋学期 2017年9月25日(月)~2018年1月20日(土)

課程	曜日	面談時間	担当教員
	月	11 : 30~13 : 00	桑原 憲一
	火	11 : 30~13 : 00	J. J. ダゲン
 教職	水	11 : 30~13 : 00	岩崎 充益
子人相以	木	12:45~14:15	安井 一郎
	金	11 : 30~13 : 00	小島 優生
	土	11 : 30~13 : 00	及川 良一
司書・司書教諭	火	11 : 30~13 : 00	福田 求

注)担当教員の都合により、休講になる場合があります。相談室入口 の掲示で確認してください。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教職に関する科目≫

	スペープープープープープープープープープープープープープープープープープープープ	○関する科日 ≫ 科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1		教職論	2	春	月3	桑原 憲一	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火4	萩原 真美	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原 憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論	2	春	火3	萩原 真美	E-303	_	再履修者用 養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火3	萩原 真美	W-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火4	萩原 真美	W-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村 肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06908	教職心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	_	交は履修不可、養は自学 科科目で履修	3
1-1	06910	教職心理学	2	春	金4	利根川 明子	A-306	_	交は履修不可、養は自学 科科目で履修	3
1-1	06909	教職心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	ı	交は履修不可、養は自学 科科目で履修	3
1-1	06911	教職心理学	2	秋	金4	利根川 明子	A-306	-	交は履修不可、養は自学 科科目で履修	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19844	教育心理学	2	春	金4	利根川 明子	A-306	_	交のみ履修可	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	金4	利根川 明子	A-306	_	交のみ履修可	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原 憲一	E-206	ı	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	木4	小島 優生	W-413	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木4	小島 優生	W-315	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原 憲一	6-101	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井 一郎	W-202	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原 憲一	W-201	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法 I	2	春	火1	金井 満	W-415	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	火1	金井 満	W-415	_		6
3-5	21669	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	25	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21674	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21668	英語科教科教育法 I	2	春	火5	E. 本橋	A-403	25	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21672	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21667	英語科教科教育法 I	2	春	水1	J. J. ダゲン	E-314	25	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21673	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	E-314	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21670	英語科教科教育法 I	2	春	木1	羽山 恵	A-407	25	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21671	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	木1	羽山 恵	A-407	20	春・秋セット履修、先着順	9

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	22937	英語科教科教育法 I	2	春	火1	羽山 恵	A-408	_	再履修者用 交のみ履修可	8
2-3	14259	英語科教科教育法 I	2	秋	火1	浅岡 千利世	E-310	_	交のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 I	2	秋	土2	日野 克美	E-204	-	交のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	25	交のみ履修可、	9
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23709	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	火5	E. 本橋	A-403	25	交のみ履修可、	9
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J. ダゲン	E-314	25	交のみ履修可、	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	E-314	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山 恵	A-407	25	交のみ履修可、	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山 恵	A-407	20	春・秋セット履修、先着順	9
2-3	14024	英語科教科教育法 I	2	秋	水1	安間 一雄	A-408	_	養・経・法のみ履修可	8
3-5	14025	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水2	臼井 芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井 芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	06932	フランス語科教科教育法 I	2	春	木1	中村 公子	6-305	_		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村 公子	6-305	_		11
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本 弘章	E-312	_		13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
2-3	06939	地理·歴史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木 孝	W-314	_		15
3-5	06940	地理•歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本 弘章	E-312	_		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田 康範	E-312	_		17
3-5	06937	公民科教育法 I	2	春	土4	及川 良一	W-204	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川 良一	W-204	_		18
3-5	06942	情報科教育法I	2	春	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
3-5	13333	教科教育法特論 I (ドイツ語)	2	春	金4	上田 浩二	A-404	_	独以外履修可	7
3-5	06944	教科教育法特論 I (英語)	2	春	火1	羽山 恵	A-408	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14258	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	火1	浅岡 千利世	E-310	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14257	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	土2	日野 克美	E-204	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14260	教科教育法特論 I (フランス語)	2	春	木2	中村 公子	6-305	_	仏以外履修可	12

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5	09110	教科教育法特論 I (社会)	2	秋	水1	安井	一郎	W-311	_	外・養のみ履修可	20
3-5	13334	教科教育法特論 Ⅱ(ドイツ語)	2	秋	金4	上田	浩二	A-404	_	独以外履修可	7
3-5	09111	教科教育法特論 Ⅱ(英語)	2	春	月2	浅岡	千利世	E-308	_	独・仏のみ履修可	10
3-5	19419	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	金4	齋藤	雪絵	W-423	_	養・経・法のみ履修可	10
3-5	14261	教科教育法特論Ⅱ(フランス語)	2	秋	木2	中村	公子	6-305	_	仏以外履修可	12
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井	一郎	W-202	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井	一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	水2	小島	優生	4-108	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06952	特別活動	2	春	土3	及川	良一	W-204	_	独・英・仏・言・経・律・国 のみ履修可	22
2-3	06950	特別活動	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	_	独・英・仏・言・経・律・国 のみ履修可	22
2-3	06953	特別活動	2	秋	土3	及川	良一	W-204	_	独・英・仏・言・経・律・国 のみ履修可	22
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川	良一	W-204	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川	良一	W-204	_	交・総のみ履修可	22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田	喜義	E-416	_		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	水1	安井	一郎	W-205	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田	喜義	E-416	_		23
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原	憲一	6-101	_		24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川	良一	W-204	_		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川	良一	W-204	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	金2	山本	良	W-205	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木	乙史	E-312	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	金2	山本	良	W-205	_	養は自学科科目で履修	25
3-6	06975	教育実習論(事前・事後指導)	2	春	木3	小島	優生	E-313	25	特段の事情がある者のみ履修可 免許課程係に申し出ること	26
3-6	06977	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月2	安井	一郎	W-310	25	先着順	26
3-6	06976	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月3	安井	一郎	W-315	25	先着順	26
3-6	06979	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水1	岩崎	充益	W-309	25	先着順	26
3-6	06978	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水4	岩崎	充益	W-309	25	先着順	26
3-6	21839	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	木2	川村	肇	W-307	25	先着順	26
3-6	06974	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	木3	小島	優生	E-313	25	先着順	26
4-7	07608	教育実習 I	2	集中	_	教職	課程	_	_		-
4-7	07609	教育実習Ⅱ	2	集中	-	教職	課程	-	-		-
4-8	14262	教職実践演習(中•高)	2	春	木3	小島	優生	E-313	25	特段の事情がある者のみ履修可 免許課程係に申し出ること	27

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
4-8	22250	教職実践演習(中•高)	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	25	先着順	27
4-8	22248	教職実践演習(中•高)	2	秋	月4	安井 一郎	W-310	25	先着順	27
4-8	22252	教職実践演習(中•高)	2	秋	火4	桑原 憲一	W-201	25	先着順	27
4-8	22249	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	安井 一郎	W-301	25	先着順	27
4-8	22251	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	川村 肇	W-307	25	先着順	27
4-8	22253	教職実践演習(中•高)	2	秋	木3	小島 優生	E-313	25	先着順	27

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

学年-	ジャング 時間割	人は教職に関する科			I				定員		
学期	コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	当教員	教室	是貝	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上	靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者のみ履修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上	靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者のみ履修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上	靖代	A-308	-	司書教諭課程登録者のみ履 修可	29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上	靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者のみ履 修可	30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田	求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録者 のみ履修可	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田	求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録者 のみ履修可	31
2-3	22670	生涯学習概論	2	秋	火4	阪本	陽子	W-204	_	司書課程登録者のみ履修可	65
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井	一郎	W-202	_	高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井	一郎	E-304	_	高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	水2	小島	優生	4-108	_	高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	夏季集中	保科	寧子	A-306	_	中学校1種免許状に対して は「教科又は教職に関する 科目」必修科目として適用	32
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金2	中條	共子	W-203	_	中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」必修科目として適用	33
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	_	未定		_	_		_
2-3		介護ボランティアの理論と実践	2	秋	_	2017年	度不開講	-	_		_
*/ 11	122 A + B -	を確認すること									

[※] 抽選結果を確認すること。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教科に関する科目≫

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説 I	2	春	月4	會田原	隶範	E-312	_		34
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田原	隶範	E-312	_		34
1-1	06984	外国史概説 I	2	秋	金5	兼田(信一郎	E-201	_		35
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金5	久慈 🕏	栄志	E-202	_		36
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本 引	弘章	E-312	_		37
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本 引	弘章	E-312	_		37
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本 5	弘章	E-312	_		38
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本 引	弘章	E-312	_		38
2-3	07023	法律学概説 I	2	秋	水1	湯川	益英	W-312	_	経·法履修不可	39
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	周 劍龍	龍	E-311	_	経·法履修不可	39
2-3	07025	政治学概説 I	2	春	火2	杉田	孝夫	E-416	_	経·法履修不可	40
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	火2	杉田	孝夫	W-424	_	経·法履修不可	40
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	土1	岡村 🖻	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	41
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村 🕏	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	41
2-3	07029	哲学概説I	2	春	火5	河口 亻	伸	6-303	_		42
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口 亻	伸	6-303	_		42
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	木3	林 永弘	強	4-403	300	養は自学科科目で履修	43
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ	2	秋	木3	林 永弘	強	W-101	300	養は自学科科目で履修	43
2-3	07033	宗教学概説 I	2	春	木5	河口 亻	伸	6-303	_		44
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口 亻	伸	6-303	_		44
1-1	07104	心理学概説 I	2	春	木2	田口 別	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	45
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口 別	雅徳	W-202	100	養は自学科科目で履修	45

[※] 抽選結果を確認すること。

2008〜2012年度入学者対象 「教科に関する科目」の全学共通授業科目対応表

以下の「教科に関する科目」の履修は、対応する全学共通授業科目を履修登録してください。

時間割コード等は、所属学科の『2017年度授業時間割表』の「曜日・時限別時間割」のページを参照してください。

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)		-	2017年度不開講
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	-	-	2017年度不開講
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	春	火3	渡部 富栄
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	秋	火3	渡部 富栄
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と 社会)	春	水2	新井 孝重
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪党」 と民衆)	秋	水2	新井 孝重
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	春	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木3	熊谷 哲也
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷 哲也
経∙法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(中国史a)	春	木4	張 士陽
経∙法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(中国史b)	秋	木4	張 士陽
養・経・法	社会・地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史 1)	春	木3	上村 敏郎
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史 2)	秋	木3	上村 敏郎
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	木3	佐藤 唯行
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	木3	佐藤 唯行
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1 (教育の歴史1)	歴史と文化1(教育の歴史1)	-	I	2017年度不開講
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1(教育の歴史2)	歴史と文化1(教育の歴史2)	1	I	2017年度不開講
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1(日本思想史1)	歴史と文化1(日本思想史1)	春	木2	芹口 真結子
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1(日本思想史2)	歴史と文化1(日本思想史2)	秋	木2	矢森 小映子
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1 (文化史入門)	歴史と文化1(文化史入門)	春	木2	古川 堅治
法	社会·地歴	ことばと思想1 (社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古 代から近世まで)	春	水2	犬塚 悠
法	社会·地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	秋	水2	犬塚 悠
養•法	社会·地歴	ことばと思想1 (社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的 社会像の黎明期)	春	火4	市川 達人
養•法	社会·地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的 社会像の確立期)	秋	火4	市川 達人
養・経・法	社会·地歴	現代社会1 (地理学1)	現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	春	水2	秋本 弘章
養・経・法	社会·地歴	現代社会1 (地理学2)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋	水2	秋本 弘章
法(総)	社会·地歴	現代社会1(地誌学1)	現代社会1(地誌学1)(ヨ―ロッパ地域 論)	-	-	2017年度不開講
法(総)	社会・地歴	現代社会1(地誌学2)	現代社会1(地誌学2)(ドイツ地域論)	-	-	2017年度不開講

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
養・法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(はじめての経済学)	春	金3	小林 進
養・法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済 学)	秋	金3	小林 進
養・経	社会·公民	現代社会1(国際法1)	現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	春	月5	井上 秀典
養•経	社会·公民	現代社会1(国際法2)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考える)	秋	月5	井上 秀典
養	社会·公民	現代社会1(民法1)	現代社会1(民法1)	春	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(民法2)	現代社会1(民法2)	秋	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	火2	加藤 一彦
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	火2	加藤 一彦
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	火5	L.ペドリサ

2012年度以前入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法に 定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	全学共通授業科目	現代社会1(日本国憲法)	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
口本国思広	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
	所属によって異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	所属によって異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教職に関する科目≫

	時間割コード	<u>〜 美 9 '〇 14 日 ///</u> 科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原 憲一	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火4	萩原 真美	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原 憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論	2	春	火3	萩原 真美	E-303	_	再履修者用 養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火3	萩原 真美	W-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火4	萩原 真美	W-202	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村 肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	ı	養は自学科科目で履修	3
1-1	19844	教育心理学	2	春	金4	利根川 明子	A-306	-	養は自学科科目で履修	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	_	養は自学科科目で履修	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	金4	利根川 明子	A-306	_	養は自学科科目で履修	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原 憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	木4	小島 優生	W-413	1	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木4	小島 優生	W-315	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原 憲一	6-101	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井 一郎	W-202	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原 憲一	W-201	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法 I	2	春	火1	金井 満	W-415	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	火1	金井 満	W-415	_		6
3-5	24067	ドイツ語科教科教育法皿	2	春	金4	上田 浩二	A-404	_		7
3-5	24068	ドイツ語科教科教育法Ⅳ	2	秋	金4	上田 浩二	A-404	_		7
2-3	22937	英語科教科教育法I	2	春	火1	羽山 恵	A-408	_	再履修者用 外のみ履修可	8
2-3	14259	英語科教科教育法 I	2	秋	火1	浅岡 千利世	E-310	_	外のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 [2	秋	土2	日野 克美	E-204	_	外のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	25	外のみ履修可、	9
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23709	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	火5	E. 本橋	A-403	25	外のみ履修可、	9
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J. ダゲン	E-314	25	外のみ履修可、	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	E-314	20	春・秋セット履修、先着順	9

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山	恵	A-407	25	外のみ履修可、	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山	恵	A-407	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	24081	英語科教科教育法IV	2	春	月2	浅岡	千利世	E-308	_	外のみ履修可	10
2-3	14024	英語科教科教育法 I	2	秋	水1	安間	一雄	A-408	_	養・経・法のみ履修可	8
3-5	14025	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	水2	臼井	芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可 先着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	金2	齋藤	雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可 先着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井	芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可 先着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤	雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可 先着順	9
3-5	24357	英語科教科教育法Ⅳ	2	春	金4	齋藤	雪絵	W-423	_	養・経・法のみ履修可	10
3-5	06932	フランス語科教科教育法 [2	春	木1	中村	公子	6-305	ı		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村	公子	6-305	-		11
3-5	24070	フランス語科教科教育法皿	2	春	木2	中村	公子	6-305	-		12
3-5	24071	フランス語科教科教育法Ⅳ	2	秋	木2	中村	公子	6-305	_		12
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本	弘章	E-312	_		13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本	弘章	E-312	-		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本	弘章	E-312	-		14
2-3	06939	地理·歴史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木	孝	W-314	ı		15
3-5	06940	地理•歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本	弘章	E-312	ı		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田	康範	E-312	1		17
3-5	06937	公民科教育法I	2	春	土4	及川	良一	W-204	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川	良一	W-204	_		18
3-5	06942	情報科教育法I	2	春	月2	秋本	弘章	E-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本	弘章	E-411	_		19
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井	一郎	W-202	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井	一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	水2	小島	優生	4-108	-	中学校1種免許状は必修	21
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川	良一	W-204	-		22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	-		22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川	良一	W-204	-		22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田	喜義	E-416	-		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	水1	安井	一郎	W-205	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田	喜義	E-416	_		23

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教	0.000	教室	定員	備考	ページ
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原 憲	[-	6-101	_		24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 良	Į—	W-204	_		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 良	í—	W-204	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	金2	山本 良	Į	W-205	-	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木 乙	史	E-312	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	金2	山本 良	Į	W-205	_	養は自学科科目で履修	25
3-6	24076	教育実習指導	2	春	木3	小島 優	生	E-313	25	特段の事情がある者のみ履修可 免許課程係に申し出ること	26
3-6	24075	教育実習指導	2	秋	月2	安井 一	-郎	W-310	25	先着順	26
3-6	24074	教育実習指導	2	秋	月3	安井 一	-郎	W-315	25	先着順	26
3-6	24072	教育実習指導	2	秋	水1	岩崎 充	益	W-309	25	先着順	26
3-6	24073	教育実習指導	2	秋	水4	岩崎 充	益	W-309	25	先着順	26
3-6	24077	教育実習指導	2	秋	木2	川村 肇	<u> </u>	W-307	25	先着順	26
3-6	24079	教育実習指導	2	秋	木3	小島 優	生	E-313	25	先着順	26
4-7	07608	教育実習I	2	集中		教職課程	呈	-	_		-
4-7	07609	教育実習Ⅱ	2	集中		教職課程	呈	-	_		-
4-8	14262	教職実践演習(中•高)	2	春	木3	小島 優	生	E-313	25	特段の事情がある者のみ履修可 免許課程係に申し出ること	27
4-8	22250	教職実践演習(中•高)	2	秋	月1	秋本 弘	章	E-312	25	先着順	27
4-8	22248	教職実践演習(中•高)	2	秋	月4	安井 一	-郎	W-310	25	先着順	27
4-8	22252	教職実践演習(中•高)	2	秋	火4	桑原 憲	[-	W-201	25	先着順	27
4-8	22249	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	安井 一	-郎	W-301	25	先着順	27
4-8	22251	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	川村 肇	<u> </u>	W-307	25	先着順	27
4-8	22253	教職実践演習(中•高)	2	秋	木3	小島 優	生	E-313	25	先着順	27

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

<u></u>		Xに教職に関する科 → ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<u> </u>								
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上	靖代	A-409	_	司書教諭課程登録 者のみ履修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上	靖代	A-308	ı	司書教諭課程登録 者のみ履修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上	靖代	A-308	l	司書教諭課程登録 者のみ履修可	29
2-3	07020	 読書と豊かな人間性 	2	秋	金2	井上	靖代	A-409	ı	司書教諭課程登録 者のみ履修可	30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田	求	E-412	50	司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田	求	E-412	50	司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	22670	生涯学習概論	2	秋	火4	阪本	陽子	W-204	_	司書課程登録者の み履修可	65
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井	一郎	W-202	_	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井	一郎	E-304	-	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	水2	小島	優生	4-108	_	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	夏季集中	保科	寧子	A-306	I	中学校1種免許状に 対しては「教科又は 教職に関する科目」 必修科目として適用	32
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金2	中條	共子	W-203	_	中学校1種免許状に 対しては「教科又は 教職に関する科目」 必修科目として適用	33
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	_	未定		_	_		_
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	_	2017年	度不開講	_	_		_
3-5		教科教育法特論 I (国環経用)	2	秋	水1	安井	一郎	W-311	_	環のみ履修可、環以 外の学科生が履修 希望の場合、要窓口 相談	20

[※] 抽選結果を確認すること。

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教科に関する科目≫

		<u> </u>									
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説I	2	春	月4	會田	康範	E-312	_		34
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田	康範	E-312	_		34
1-1	06984	外国史概説I	2	秋	金5	兼田	信一郎	E-201	_		35
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金5	久慈	栄志	E-202	_		36
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本	弘章	E-312	_		37
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本	弘章	E-312	_		37
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本	弘章	E-312	_		38
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本	弘章	E-312	_		38
2-3	07023	法律学概説I	2	秋	水1	湯川	益英	W-312	_	経・法履修不可	39
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	周 劍	J龍	E-311	_	経・法履修不可	39
2-3	07025	政治学概説I	2	春	火2	杉田	孝夫	E-416	_	経・法履修不可	40
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	火2	杉田	孝夫	W-424	_	経・法履修不可	40
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	41
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	41
2-3	07029	哲学概説I	2	春	火5	河口	伸	6-303	_		42
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口	伸	6-303	_		42
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	木3	林永	:強	4-403	300	養は自学科科目で履修	43
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ	2	秋	木3	林永	:強	W-101	300	養は自学科科目で履修	43
2-3	07033	宗教学概説I	2	春	木5	河口	伸	6-303	_		44
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口	伸	6-303	_		44
1-1	07104	心理学概説I	2	春	木2	田口	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	45
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口	雅徳	W-202	100	養は自学科科目で履修	45
1-1	22810	東洋史 I (教職)	2	春	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可同一科目名で別教員の授	46
2-3	22812	東洋史 I (教職)	2	春	木4	張士	:陽	E-416	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	47
1-1	22811	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	46
2-3	22813	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木4	張士	:陽	E-416	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	47
1-1	22806	西洋史 I (教職)	2	春	木3	上村	敏郎	W-103	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	48
1-1	22808	西洋史 I (教職)	2	春	木3	佐藤	唯行	W-102	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	49
1-1	22807	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	上村	敏郎	W-103	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	48
1-1	22809	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	佐藤	唯行	W-102	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	49
										·	

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	22814	地理学 I (教職)	2	春	水2	秋本 弘章	E-312	300	養は履修不可	50
1-1	22815	地理学Ⅱ(教職)	2	秋	水2	秋本 弘章	E-312	300	養は履修不可	50
3-5	21603	地誌学 I (教職)	2	春	月2	犬井 正	E-312	_	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	52
3-5	18301	地誌学 I (教職)	2	春	月4	大竹 伸郎	W-101	_	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	51
3-5	21604	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	月2	犬井 正	E-312	_	養・経は履修不可	52
3-5	18302	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	月4	大竹 伸郎	W-101	_	同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許	51
1-1	21602	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	水3	浦部 浩之	W-206	_	課程係で別途手続き。	53
1-1	22820	国際法 I (教職)	2	春	月5	井上 秀典	W-103	300	経・法は履修不可	54
1-1	22821	国際法Ⅱ(教職)	2	秋	月5	井上 秀典	W-103	300	経・法は履修不可	54
1-1	22825	英語通訳(教職)	2	春	火3	渡部 富栄	E-515	50	外は履修不可	55
1-1	22826	英語通訳(教職)	2	秋	火3	渡部 富栄	E-309	50	外は履修不可	55
2-3	22828	英語圏の社会と思想a(教職)	2	春	ı	2017年度不開講	_	_		1
2-3	22827	英語圏の社会と思想b(教職)	2	秋	ı	2017年度不開講	_	_		1
1-1	22837	社会経済史a(教職)	2	春	水2	新井 孝重	W-206	300	養・経は履修不可	56
1-1	22838	社会経済史b(教職)	2	秋	水2	新井 孝重	W-206	300	養・経は履修不可	56
1-1	22839	社会思想史a(教職)	2	春	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19979	社会思想史a(教職)	2	春	水2	犬塚 悠	E-101	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	58
1-1	22840	社会思想史b(教職)	2	秋	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19980	社会思想史b(教職)	2	秋	水2	犬塚 悠	E-101	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	58
2-3	22845	外国経済史a(教職)	2	春	火1	御園生 眞	E-314	350	養・経・総は履修不可	59
2-3	22846	外国経済史b(教職)	2	秋	火1	御園生 眞	E-314	350	養・経・総は履修不可	59
2-3	22847	日本思想史a(教職)	2	春	木2	芹口 真結子	E-312	300	養・経・律・国は履修不可	60
2-3	22848	日本思想史b(教職)	2	秋	木2	矢森 小映子	E-312	300	養・経・律・国は履修不可	60
3-5	22843	経済学史a(教職)	2	春	木2	黒木 亮	E-308	350	養・経・総は履修不可	61
3-5	22844	経済学史b(教職)	2	秋	木2	黒木 亮	E-308	350	養・経・総は履修不可	61

[※] 抽選結果を確認すること。

2013~2017年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法施行規則 に定める科目			科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	各学部共通科目	日本国憲法	2単位	下表の時間割から、いずれか1科目 を登録すること。
	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	各学部共通科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業 科目「スポーツ・レクリエーション」を 参照の上、登録すること。
外国語 コミュニケーション	全学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目 	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	外国語学部 国際教養学部 経済学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	法学部	基礎科目	社会科学情報検索法	2単位×1	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	() (五子司)	各学部共通科目	コンピュータ入門a コンピュータ入門b	Z 卑心 X	下表の時間割から、いずれか1科目 を登録すること。

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※1	備考	ページ
1-1	22823	日本国憲法(教職)	2	春	火2	加藤 一彦	E-313	300	法履修不可	62
1-1	22824	日本国憲法(教職)	2	秋	火2	加藤 一彦	E-313	300	法履修不可	62
1-1	22822	日本国憲法(教職)	2	秋	火5	L. ペドリサ	W-206	300	法履修不可	63
1-1	06968	コンピュータ入門a(教職)	2	春	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	64
1-1	06969	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	64
1-1	06973	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	杉村 和枝	E-405	60	外•養•経履修不可	64
1-1	06971	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金5	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	64
1-1	% 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	64
1-1	% 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	64
1-1	% 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	杉村 和枝	E-414	60	外•養•経履修不可	64
1-1	※ 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金5	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	64

^{※1} 抽選結果を確認すること。

^{※2} 秋学期履修希望者は、履修登録期間内に教務課法学部係窓口にて別途手続(整理券必要)。

司書課程 授業科目

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3		生涯学習概論	2	秋	火4	阪本 陽子	W-204	_		65
2-3	22671	図書館概論	2	春	木4	井上 靖代	A-306	_		66
3-5	22951	図書館情報技術論	2	秋	月3	福田 求	E-412	15	先着順	67
3-5	22952	図書館情報技術論	2	秋	月4	福田 求	E-412	15	先着順	67
3-5	22953	図書館情報技術論	2	秋	火2	堀江 郁美	E-401	15	先着順	68
2-3	22672	図書館制度・経営論	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	_		69
2-3	22673	図書館サービス概論	2	春	木2	井上 靖代	A-308	_		70
3-5	22954	情報サービス論	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	71
3-5	22955	情報サービス論	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	71
2-3	22677	児童サービス論	2	秋	木2	井上 靖代	A-308	_		72
3-5	22956	情報サービス演習(前半)	1	春	水3	髙田 淳子	A-201	50	先着順	73
3-5	22957	情報サービス演習(後半)	1	秋	水3	髙田 淳子	A-201	30	春・秋セット履修	73
3-5	22958	情報サービス演習(前半)	1	春	水4	髙田 淳子	A-201	50	先着順	73
3-5	22959	情報サービス演習(後半)	1	秋	水4	髙田 淳子	A-201	50	春・秋セット履修	73
2-3	22674	図書館情報資源概論	2	春	木1	井上 靖代	A-308	_		74
2-3	22960	情報資源組織論	2	春	火5	小黒 浩司	W-204	_		75
3-5	22963	情報資源組織演習(前半)	1	春	月1	小黒 浩司	A-308	25	先着順	76
3-5	22962	情報資源組織演習(後半)	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308	20	春・秋セット履修	76
3-5	22961	情報資源組織演習(前半)	1	春	月2	小黒 浩司	A-308	25	先着順	76
3-5	22964	情報資源組織演習(後半)	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308	23	春・秋セット履修	76
3-5	22675	図書館基礎特論	2	秋	水2	井上 靖代	W-307	_		77
3-5	22676	図書館サービス特論	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	_		78
2-3	_	図書館情報資源特論_12以降	2	_		2017年度不開講	_			_
2-3	22678	図書·図書館史	2	春	火4	小黒 浩司	W-204	_		79
2-3	_	図書館施設論_12以降	2	_	_	2017年度不開講	_			_
4-7	_	図書館実習	2	_	_	2017年度不開講	_	_		_

司書教諭課程 授業科目

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_		28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	_		29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_		29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_		30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選※	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選※	31

※抽選科目は、抽選結果を確認すること。

03 年度以降		教職論		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概 要	5 7	授業計画		
関する科目でであるなりであるな知識や特別では、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、まればればればればればればればればればればればればればればればればればればれば	教がらない。またので題がありられるとをというのでは、からないでは、からないでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これ	及びテーマ】 競員免許法に規定された教職の意義等に 教職課程履修の基礎的・基本的な科目 れている。本講義においては、教職の概 のに、教職に必要不可欠な基礎的・基本 習得することを目的とする。 シープ討議や研究協議などを通して教職 分や服務、職務の内容や必要とされる資 性的な理解を深めていく。教員が直面 ついても取り上げ、教育に対する質の高 ける情熱や使命感の醸成を図っていく。	第12回:教員の 研修機 第13回:様々な: 他の付 第14回:様々な: 学校教 第15回:まとめ	る教師像とと明うない。 とり 目り をとり をとり をとり をとり をとり からに のまり をいる のの とり から の とり から	でである。 を関する。 を関する。 を対する。 を対する。 を対する。 を対する。 を対する。 を対する。 を考える(1) 教職の特質
到達目標) 意義、職務の内容など、教職に関する概 とができるようにする。	既括的知識を習得り	し、教職に就	く際の心構えをもち、これを
事前・事後 学修の内容		が学修)は提示された資料、テキストを訪 後学修)は授業レポートなど	きむ		
テキスト、 参考文献		テスト)講義毎に配布する資料 考文献)講義内容に応じて適宜紹介			
評価方法	課題し				

03年度以降	教職論		担当者	各担当教員				
講義目的、講義概	要	授業計画						
(半期完結科目の	ため、講義目的等は春学期と同じ)							
到達目標								
事前・事後 学修の内容								
テキスト、 参考文献								
評価方法								

03年度以降	教育原論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	- 要	授業計画		
(半期完結科目の†	ため、講義目的等は秋学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
B				

03 年度以降		教育原論		担当者	各担当教員
講義目的、講義	講義目的、講義概要				
議義的、議義做要 【授業の到達目標及びテーマ】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化し つつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方 の基礎を養う。 【授業の概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利 条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能 力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考 え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教 育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。		第1回:講義の進め方の説明 第2回:教育の意義 第3回:人間形成と学習 第4回:教育の思想と歴史(その1)近代教育思想のめばえ 第5回:教育の思想と歴史(その2) 神士の教育から人間の教育へ 第6回:教育の思想と歴史(その3)近代市民教育と国民教育 第7回:教育の思想と歴史(その4)日本の教育思想の歴史 第8回:教育の思想と歴史(その5)戦後の教育思想と教育問題 第9回:教育の思想と歴史(その6) 21世紀の教育思想と教育課題 第10回:学力問題と国際比較 第11回:能力と指導を考える一 習熟度別指導と発達の最近接領域説一 第12回:教育における競争と自由の問題を考える 第13回:子どもの権利条約の精神 第14回:子どもに固有の権利と人権との関係 第15回:子どもとはどういう存在か (系統発達と子どもの発見)			
		歴史や目的、内容、方法、制度について理解 解を提示できるようにする。	し、自身の学校観や	現在までの教	育改革について理論的に分析のう
		竹学修)提示された資料を事前に読んでく 後学修)講義を振り返り授業レポートを作			
	【テキスト】『ポケット版 子どもの権利ノート』(300円) 【参考文献】適宜紹介する。				
評価方法 期	期末試験に授業レポート等を加味して評価する。				

12 年度以前 13 年度以降				担当者	各担当教員		
講義目的、講	講義概要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		授業計画			
の学校では、	学にがし学 要学 発れける まなける まない ままる はずい はずい はずい はずい はずい はずい はずい はずい	いてこれまで行る生徒理解あるかを受講者を というでは、 というでは、 というでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	得られてきた知見が,今日 るいは生徒指導にいかに とともに検討する。受講生 育現場にたつ人間に必要と いて理解を深めてほしい。 側定・評価,(2)人格・ いう4つの領域がある。本 が割する。すなわち、1. 過程と学習への動機付け, て講義していく予定であ	第1回:教育心理学の領域とその歴史 第2回:教育測定と教育評価 (集計する。受講生 (東計する。受講生 (東計する。受講生 (東計する。受講生 (東部) 第5回:教育評価と学力問題 (第5回:学習の原理 (東京) 第6回:学習における動機付け (第7回:学習意欲と原因帰属 (第8回:学習意欲と目標理論 (第9回:学習意欲と教師の役割 (第9回:学習意欲と教師の役割 (第10回:発達期と発達課題 (第11回:心理アセスメントと発達障害 (第12回:学習管害の理解			
到達目標	l .		習、学校適応に関わる心理学 気で検討のうえ、見解を提続			現場において生じる諸問題に	
事前・事後 学修の内容			た各課の内容を参考文献を らく。また、各教員が授業 [*]			あっては授業内容を参考文献 指示した課題も含まれる。	
テキスト、 参考文献			よ資料を配付する。 こて適宜紹介する。				
評価方法	学期末	大の試験など!	こより、総合的に評価をおく	こなう			

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降	教育制度		担当者	各担当教員	
講義目的、講	義概要	5	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する関心・情熱や使命感の醸成を図っていく。		第1回:オリエンテーション 第2回:教育の制度化 第3回:学校教育制度の概要 第4回:学校教育制度の変遷 第5回:公教育と私教育 第6回:教育行財政 第7回:教育委員会制度 第8回:教育課程と学習指導要領 第9回:諸外国の教育制度 第10回:家庭教育の現状と課題 第11回:社会教育の現状と課題 第12回:教育改革の現状と課題(1)学校評価・人事評価 第13回:教育改革の現状と課題(2)学校選択制・小中高一 貫教育 第14回:教育改革の現状と課題(3)学校評議員・ 学校運営協議会 第15回:教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教育免許更新制度			
)教育制度に関する基礎的知識、および、 いいて諸外国や歴史との比較も行いながら	O 1 1 4 11 4 5 4 11 11 4		
事前・事後 学修の内容	(1,11,1,12,1,12,1,12,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1				
テキスト、 参考文献	(テキスト) 講義内で指示する (参考文献) 教育小六法、他は講義内で指示する。				
評価方法	期末詞	、 験に授業レポート等を加味して評価する	5.		

03 年度以降	教育制度		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概	要	授業計画	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ) ・					
到達目標					
事前・事後学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03 年度以降	教育課程論		担当者	各担当教員	
講義目的、講義	概要	Ē	授業計画		
議我日的、講我低安 【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容 をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関す る今日的課題について考察することを目的とする。 【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である 教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VT R教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		第1回:教育課程と学力問題 第2回:教育課程とは何か 第3回:日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス 第4回:日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程 第5回:教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム 第6回:教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム 第7回:教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法 第8回:学習指導要領と教育課程(1)昭和20年代 第9回:学習指導要領と教育課程(2)昭和30·40年代 第10回:学習指導要領と教育課程(3)昭和50·60年代 第11回:学習指導要領と教育課程(4)平成1·10年代 第12回:現行学習指導要領の検討(1)改訂の経緯と概要 第13回:現行学習指導要領の検討(2)実践課題 第14回:教育課程と評価 第15回:次期学習指導要領の課題		で育課程編成のプロセス で習指導要領と教育課程 と方法(1)経験カリキュラム と方法(2)教科カリキュラム と方法(3)教育課程構成法 課程(1)昭和20年代 課程(2)昭和30-40年代 育課程(3)昭和50-60年代 育課程(4)平成1-10年代 の検討 (1)改訂の経緯と概要 の検討 (2)実践課題	
		程と学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ 、よりよい教育課程の在り方や編成につ			
7 10 7 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。 その他は、講義の中で紹介する。				
評価方法 平	常点	〔(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	%)、総合点 6	0 点以上合格。

03年度以降	教育課程論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概	· 要	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降 ドイツ語科教科教育法I 担当者 金井 満 講義目的、講義概要 授業計画 1. オリエンテーション ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法 2. ドイツ語基礎知識確認試験 の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標と 3. 試験の解答と解説による基礎知識の確認1 (文法事項中心) する。基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得し 4. 試験の解答と解説による基礎知識の確認 2 (書き換え問題中心) てきた文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行 5. 試験の解答と解説による基礎知識の確認 3 (独作文中心) うのに必要だと思われるドイツ語に関わる一般的知識を 6. 教壇実習の割り振りについて(基礎知識の一番弱い項目を中心に) も含めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代 7. 代表的な外国語教授法について1 (発表形式) 表的な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、 8. 代表的な外国語教授法について 2 (発表形式) その長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実 9. 教授法についてのディスカッション 際に作成してみたい。 10. 教壇実習 (アルファベットと発音を中心に) 11. 教壇実習(動詞の人称変化を中心に) 12. 教壇実習(格変化を中心に) 13. 教壇実習(人称代名詞の格変化を中心に) 14. 教壇実習(前置詞を中心に) 15. 総括 ドイツ語教育の歴史および現状と課題を理解し、また外国語学習・教育に関する基礎的理論を習得し、ド 到達目標 イツ語科指導に関して必要な事柄を分析のうえ、見解を提示できるようにする。 事前・事後

ドイツ語文法の基礎知識の事前習得と不得意分野の事後学習

吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年

教壇実習への取り組み

教壇実習への取り組み

参考文献

評価方法

-					
03 年度以降		ドイツ語科教科教育法Ⅱ		担当者	金井 満
講義目的、請	購義概要	5 5 5	授業計画		
講義目的、講義概要 ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。 ドイツ語科教育法Ⅱにおいては、複数回の模擬授業を通じて、ドイツ語を教えるという経験の獲得を目指したい。模擬授業の際には担当者の授業をビデオ撮影し、担当者自らが自分の授業を振り返り、さらに参加者全員で講評し合うことができるようにする。		11. 教壇実習(= 12. 教壇実習(= 13. 教壇実習(=	知識確認試験り振りについている。 知識をいるでは、 ののでは、 ののでは	って (を中心に) (:) いに) (:)	
到達目標	ドイツ語教育の歴史および現状と課題を理解し、また外国語学習・教育に関する基礎的理論を習得し、ド イツ語科指導に関して必要な事柄を分析のうえ、見解を提示できるようにする。				
事前・事後 学修の内容	- 「ドイツ海文法の耳歴知識の事前翌得と不得音分野の事為学翌 新恒宝翌の事前准備と改善				
テキスト、 参考文献	吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年				
評価方法	ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。 教壇主羽への取り組み				

ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。教授法に関する発表。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法Ⅲ		担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画		

【授業の到達目標及びテーマ】

外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大き なテーマとする。ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言 語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプ ローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何か を考え模索することを目標とする。

具体的には、テキストを毎回配布しそれを訳してもら い、その結果を全員でチェックしながら議論し、そのなか で様々な学習上の問題点を考えていく。

【授業の概要】

とりわけ翻訳に焦点を当て、単なる訳読と翻訳の相違を 意識しながら、実践的な翻訳演習を行うとともに、それが 外国語教育にどう生かせるかを考える。

第1回:翻訳するとはどういうことか、

それが外国語学習にどう生かせるかを考える

第2回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(1)(社会) 第3回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(2)(歴史)

第4回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(3)(文化)

第5回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(1)(社会)

第6回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(2)(歴史)

第7回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(3)(文化)

第8回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(4)

(ヨーロッパの中のドイツ)

第9回:国際的なテーマに基づく実践的演習(1)(社会) 第10回:国際的なテーマに基づく実践的演習(2)(歴史) 第11回:国際的なテーマに基づく実践的演習(3)(文化) 第12回:国際的なテーマに基づく実践的演習(4)(日独交流)

第13回:アクチュアルなテーマに基づく実践的演習(1)

(環境・エネルギー問題)

第14回:アクチュアルなテーマに基づく実践的演習(2)

(移民・多文化共生)

第15回:まとめ

到達目標	ドイツ語教授法の理論及び学習指導要領に基づき、より実践的な教授法、指導技術、教材開発力を習得し、 ドイツ語科の教育指導ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎週、翻訳課題を渡し授業の前日夕方までに訳文を作成しメールで提出する。
テキスト、 参考文献	【テキスト】毎回、課題を出す。 【参考文献】特になし
評価方法	授業中の作業や発表および毎回提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。試験は 行わない 連絡なく課題提出を3回以上食った学生は履修放棄と見なす

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法Ⅳ	担当者	上田 浩二
--------------------	--------------------------------	-----	-------

講義目的、講義概要

【授業の到達目標及びテーマ】

ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ 側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より 効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテー マとする。

【授業の概要】

ドイツ語を学ぶことの意味や目的、実際の教育/学習方法につ 単に理論や方法論を知るだけでなく、演習に参加する学生 の外国語学習のプロセスを振り返ったり、それに関する意見交換 をしながら、演習形式で学ぶ。

また、具体的な練習、たとえば翻訳者や通訳者がプロになるた めの過程で行う練習法などを、実際に教室で行ってみて、それぞ れの練習法がどのようにドイツ語教育に役立つかを体験してもら う。

授業計画

第1回:導入 第2回:これまで経験してきた外国語の学び方

第3回:外国語教育に求められるものと目標設定

第4回:ドイツ語の「特殊性」(その歴史的な回顧と現状)

第5回:ドイツ語の学習法(主たる学習法のタイプ)

第6回:聞き取りの練習(1)

(シャドウイングによるアプローチ)

第7回:聞き取りの練習(2)(その他の練習法)

第8回:テキストの展開に関する実際練習(1) (アンティシペーションの役割)

第9回:テキストの展開に関する実際練習(2)

(各種の練習法の紹介)

第10回:テキストの展開に関する実際練習(3)

(各練習法の実際練習)

第11回: テキストの展開に関する実際練習(4)(各種練習法の評価)

第12回:その他の実際練習(1)(背景知識としての社会的テーマ)

第13回:その他の実際練習(2)(背景知識としての歴史的テーマ)

第14回:その他の実際練習(3)(背景知識としての世界的テーマ)

第15回:まとめ

ドイツ語教授法の理論及び学習指導要領に基づき、学習目標に適合する教材と指導案を作成できる力、授 到達目標 業における基礎的な指導技術を習得し、さらに、生徒の成績評価や自他の授業評価ができるようにする。

頻繁に課題を出すので、それを口頭ないしペーパーで提出してもらう。こうすることで、調べた結果や自 事前・事後 学修の内容 分の考えたことを整理する。

テキスト、 【テキスト】特になし 参考文献 【参考文献】特になし

授業中の作業や発表、および提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。試験は行 評価方法 わない。したがって、無断で3回以上欠席した学生には単位を与えない。

			担当者	
講義目的、講義概要	授業計画			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
_				

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論 I (英語) 英語科教科教育法 I (12 年度以前の交	・養を含む。)	担当者	各担当教員
講義目的、講	購義概要	5 5	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は中学・高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき教科指導及び言語学習・習得に関する基礎的理論とその背景を幅広く取り上げ、それらを理解することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では様々な外国語教授法、日本における英語教育の歴史的変遷と課題を理解し、先達が築いてきた理論や研究も参考にしつつ、現代により合致した教育方法への応用を検討する。また最新の教授理論の背景とその効果に関わる研究についても議論する。		第1回:オリエンテーション 第2回:日本における英語教育の流れ 第3回:学習指導要領の変遷 第4回:英語教育に関する諸理論:母語習得 第5回:英語教育に関する諸理論:第二言語習得 第6回:英語教育に関する諸理論:学習者要因 第7回:英語教育に関する諸理論:学習者言語とフィードバック 第8回:各種指導法の理論 第9回:各種指導法の理論 第10回:テストに関する理論と実践 第11回:ティームティーチングの理論と実践 第12回:教案の書き方と創意工夫 第13回:海外における英語教育 第14回:英語教員の資質向上 第15回:まとめ			
到達目標	2 411111	な育の歴史および現状と課題を理解し、 ご関して必要な事柄を分析のうえ、見解を			基礎的理論を習得し、英語科
事前・事後 学修の内容					
テキスト、プキスト】各担当教員が指示する。参考文献【参考書・参考資料等】授業中に指示する。					
評価方法	課題・	レポート、テスト、授業への参加度なる	でを総合的に評価で	する。詳細は	授業初回に指示する。

12 年度以前 13 年度以降	英語科教科教育法 I (英のみ) 英語科教科教育法 II (12 年度以前	前の交・養を含む。)	担当者	各担当教員	
講義目的、講郭	。 養概要	授業計画			
【授業の到達	標及びテーマ】	第1回:オリエ	ンテーション		
この授業では	は中学校・高等学校における英語科教育	法に 第2回:発音の	指導		
関する基礎知識	tを身につけ、指導法を学び、実践する	こと 第3回:語彙・	辞書の指導		
を目的とする。		第4回:文法の	指導		
		第5回:受容ス	キル (リスニ	ング・リーディング)の指導	
【授業の概要】		第6回:産出ス	キル (スピー	キング・ライティング)の指導	
この授業で	は中学校を中心とした英語指導法につ	いて 第7回:学習者	参加型の授業		
の知識を深める	るとともに、授業観察、指導案の作成、	模擬 第8回:授業展	開と指導案作	成	
授業の実践、詩	 青評などによって授業実践力の基礎を身	′につ 第9回:テスト	第9回:テスト作成と評価		
ける。		第10回:授業	第10回:授業の実際:ビデオによる観察と討論		
		第11回:模擬	授業 グルー	プ1	
※ I と П (134	F度以降入学者はⅡとⅢ(12年度以前の)交・ 第12回:模擬	授業 グルー	\mathcal{T}^2	
養を含む。)) /	は原則として同じ担当者の授業を受講す				
と。		714 = - 17 17 17	第14回:模擬授業 グループ4		
		第15回:模擬	授業 グルー	プ5	
	英語教授法の理論及び学習指導要領に基 3ける基礎的な指導技術を習得し、さら				
事前・事後 学修の内容	A担当教員が指示する。				
	【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示す				
1 学师方法	限題・レポート、テスト、模擬授業、授 ⊭細は授業初回に指示する。	業への参加度などを総	の参加度などを総合的に評価する。		

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員		
講義目的、語	構義概要	프		授業計画		
【授業の到達	幸 目標及	及びテーマ】		第1回:オリエ	ンテーション	
この授業で	では中質	学校・高等学校における	る英語科教育法に	第2回:英語で行	行う授業と教	室英語
関する知識を	を身に~	つけ、指導法を学び、第	実践することを目	第3回:ワーク:	ショップ:導	入および授業手続き
的とする。				第4回:インプ	ットを中心と	した指導
				第5回:ワーク:	ショップ:イ	ンプットを重視した指導
【授業の概要	要】			第6回:アウト	プットを中心	とした指導
この授業	では高	等学校を中心とした英	英語指導法につい	第7回:ワーク:	ショップ:ア	ウトプットを重視した授業
		こともに、授業観察、持		第8回: リキャストとスキャフォールディング		
	浅、講 記	平などによって授業実績	 長力の基礎を身に	第9回:ワークショップ:内容重視型授業		
つける。				第10回:ワークショップ:タスクを中心とした授業		
	- (第11回:ワークショップ:4技能の統合		
		以降入学者はⅡとⅢ()		第12回:自律学習のための課題設定		
	は原見	川として同じ担当者の抗	受美を受講するこ	第13回:授業の総括および家庭学習		
と。				第14回:授業の実際:ビデオによる観察と討論		
	-11a -> di	V 15 VI		第15回:まとめ		
到達目標		対授法の理論及び学習技 の教育指導ができるよ		より実践的な教徒	受法、指導技	術、教材開発力を習得し、英
事前・事後 学修の内容	・・・・・ 冬担当数員が掲示する					
テキスト、参考文献【テキスト】各担当教員が指示する。参考書・参考資料等】授業中に指示する。						
評価方法		・レポート、テスト、 は授業初回に指示する。		の参加度などを総合的に評価する。		

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論Ⅱ(英語) 英語科教科教育法IV		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は中学・高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき英語教育ならびに第二言語習得についての理論や指導法についてより深く学ぶことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では第二言語習得研究で提唱されている理論を取り上げ、それらについて学び、議論する。それらを実際の授業実践に活かしていく方法を検討する。また英語教師としての英語運用能力のさらなる向上を図る。		授業計画 第1回: オリエンテーション 第2回: 第二言語習得と母語習得 第3回: 第二言語習得と母語習得 第4回: 第二言語習得と個人差 第5回: インプットが言語習得に及ぼす効果 第6回: インタラクションが言語習得に及ぼす効果 第7回: アウトプットが言語習得に及ぼす効果 第8回: フォーカスオンフォームによる指導法 第9回: タスク中心の指導法 第10回: コンテント重視の指導法 第11回: 教室における第二言語習得を促す授業づくり 第12回: 教室における協働学習を促す授業づくり 第13回: 教室における第二言語習得の進捗の測定 第14回: 生涯学習としての英語教育 第15回: まとめ			
到達目標	/ THE 2	育に関する理論や指導技術についてさらに理 教員としての高い資質・能力を習得し、より		71711 L	CHE DOTTO DO Y GOVERNMENT TO THE
事前・事後 学修の内容 各担当教員が指示する。					
テキスト、参考文献【参考書・参考資料等】授業中に指示する。					
評価方法		レポート、テスト、模擬授業、授業へ <i>0</i> は授業初回に指示する。)参加度などを総合	合的に評価す	<u></u> გ.

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ(英語) 英語科教科教育法IV		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	要	授業計画			
(半期完結科目の)	ため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03 年度以降		フランス語科教科教育法 I		担当者	中村 公子
講義目的、講	講義概 要	된	授業計画		
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 言語教育に携わっていく上で必要な言語教育理論や実践方法についての基礎知識を学び、教育実習に必要な事柄の習得を目指す。また、日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と今後の在り方について考える。 【授業の概要】 フランス語教育の歴史的変遷や教材分析、教案の書き方、教室活動、評価の仕方などを紹介する。教材分析や教案の作成など、グループまたは個人による課題に取り組む。必ず一回目から出席すること			第3回: 教案の書き 第4回: 言語教育の 第5回: フランス語 - 文法訳読 第6回: フランス語 - SGAV の 第7回: 日本におけ 第8回: 日本で作成	イン、カリキュ教 方 (個人) リキュ教 方 (個人) での 方 (個人) での での での での で変で で変いる で変いる されたされたされたされたされたされたされたされたされたされたされた。 本学が、一学に、 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 のいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。	5代から現代まで - 見聴覚方式全体構造教授法) へ - ニカティブ・アプローチへ - 言の変遷 野教材の種類と分析 ンス語の総合教材 (méthodes) 種類と (を取り入れた授業- の使い方
到達目標	フランス語教育の歴史および現状と課題を理解し、また外国語学習・教育に関する基礎的理論を習得 フランス語科指導に関して必要な事柄を分析のうえ、見解を提示できるようにする。				
事前・事後 学修の内容			ス語テキストの教材分析をする。また、授業の組み立 いて、アクティビティを取り入れた教案を作成する。		
テキスト、	「ニンフ」」の計画は、目の日本フォ・『ラニンフまといのトミア地とフェ』 解がこれ出版社 1000 ケ				-

【参考文献】DISSON, Agnès:Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires

授業中の講義ノート、グループによる作業と発表(教材分析、アクティビティ、タスク)、教案作成、

参考文献

評価方法

d' Osaka, 1996.

教材分析のための枠組みの作成、レポート課題

03 年度以降		フランス語科教科教育法Ⅱ		担当者	中村 公子
講義目的、調	購義概要	ξ .	授業計画		
【授業の到達	幸 目標及	なびテーマ】	第1回:Introdu	uction	
フランス計	吾科教科	教育法 I で学習した内容を踏まえ、授	第2回:模擬授	業 1	
業を行う時の	つ注意点	京や問題点などについて考えると共に、	第3回:模擬授	業 2	
実際に教壇に	こ立つた	とめの訓練を行う。また模擬授業を通し	第4回:模擬授	業 3	
て教育実習へ	への心桿	 うれできるようにする。	第5回:模擬授	業 4	
			第6回:模擬授	業 5	
【授業の概要	更】		第7回:模擬授	業 6	
毎回、模撛	経授業を	実施し、学生一人あたり数4~5回の模	第8回:模擬授	業 7	
擬授業を担当	当する。	一回の模擬授業につき次のような流れ	第9回:模擬授業 8		
		成 → 授業準備 → 模擬授業実施 →	第10回:模擬授業 9		
		回への自分への課題を決める → 個別	第11回:模擬授業 10		
に事後指導。	必ずー	一回目から出席すること。	第12回:模擬授業 11		
			第13回:模擬授業 12		
			第14回:模擬授業 13		
			第15回:まとめ - 教育実習に向けて		
到達目標	-	ノス語教授法の理論及び学習指導要領に基 における基礎的な指導技術を習得し、さら			
事前・事後 学修の内容	実際の授業時間を想定して教案を作成し、必要な補助プリントや教材を準備する。模擬授業後に、実践した授業を振り返り、反省点と今後の自分への課題をまとめる。また、課題に対しての自己評価を行う。				
テキスト、 参考文献	L [太孝文献 I DISSON Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français s				
評価方法		ロの講義ノート、グループによる作業と系 が析のための枠組みの作成、レポート課題		アクティビテ	イ、タスク)、教案作成、

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論 I (フランス語) フランス語教科教育法Ⅲ		担当者	中村 公子
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方から アプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 学習ストラテジーの基本的な考え方と、「聞く」能力を身につけるための学習活動(アクティビティ)を組み立てる方法を学び、グループ作業を通して実践していく。		第2回: 第3回 : 外外外等教学 第4回 : ・ 外外外等 第5回 : ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第1回: Introduction 第2回: 外国語学習とは何か — 「学ぶ立場」から — 第3回: 外国語教育とは何か — 「教える立場」から — 第4回: 外国語学習における「良い学習者」 第5回: 学習ストラテジーの定義について 第6回: 学習ストラテジーの分類と学習活動		
劉達日禮	-	ノス語教授法の理論及び学習指導要領に表 ソランス語科の教育指導ができるようにす		的な教授法、	指導技術、教材開発力を習得
学修の内容	これまでの自分自身の外国語学習について、具体的に実践してきた学習方法をリストアップし分類する。そして、授業で扱う様々な教授法に基づいた学習活動の中から、どれをどのように今後の自身の学習に取り入れるのかをまとめる。				
テキスト、 「テキスト」中村啓佑、長谷川富子著:『フランス語を 【参考文献】DISSON, Agnès:Pour une approche commu d'Osaka, 1996.					
評価方法 気	定期詞	、 験、授業中のグループ作業、グループ系	ž表、課題、授業/	への取り組み	などを総合的に評価する。

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論Ⅱ(フランス語) フランス語科教科教育法Ⅳ		担当者	中村 公子
講義目的、講	講義概 要		授業計画		
 「授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 「聞く」能力養成を踏まえて、「話す」「読む」「書く」上でのコミュニケーション能力養成を目指した学習活動(アクティビティ)の組み立て方と指導法を学び、グループ作業を通して実践する。 		第3回: Documen ないもの) 第4回: 「話す」 学 第5回: 「話がルー 活 第7回: 「話がす」 活 第7回: 「話認者と 第9回: 学文母語と 第10回: 日記と 第11回: Docum 第12回: 「読む、 (グル	第2回:「話す」活動の指導法 第3回: Documents authentiques (教材用に作成されたものではないもの)を教材にする授業 第4回:「話す」学習活動の題材選びと準備、および組み立て方第5回:「話す」活動を取り入れたアクティビティ作成 (グループ作業) 第6回:「話す」活動のグループ発表第7回:「読む、書く」活動の指導法第8回: 学習者のレベルにあった教材選び第9回: 文法と読解の授業について第10回:母語と学習言語の扱いについて第10回:母語と学習言語の扱いについて第11回: Documents authentiques を「読み物」とする授業第12回:「読む、書く」練習の組み立て方第13回:「読む、書く」活動を取り入れたアクティビティ作成 (グループ作業)		
到達目標		ス語教育に関する理論や指導技術についてさらに理が 科教員としての高い資質・能力を習得し、より質のi			
事前・事後 学修の内容	これまでの自分自身の外国語学習について、具体的に実践してきた学習方法をリストアップし分類する。そして、授業 で扱う様々な教授法に基づいた学習活動の中から、どれをどのように今後の自身の学習に取り入れるのかをまとめる。				
テキスト、 参考文献	-	スト】中村啓佑、長谷川富子著: 『フランス語をど 対献】 DISSON, Agnès:Pour une approche commu d'Osaka, 1996.			
評価方法	定期診	定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。			

03年度以降		社会科教育法 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、詞	冓義概劽	5	授業計画		
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法 I は主として、社会科の理念、 内容、課題について考察する。 【授業の概要】 社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにす るとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容につい て基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課さ れている課題について考える。		第7回:社会科の教育内容(2)地理的分野(2) 授業の展 第8回:社会科の教育内容(3)歴史的分野(1) 目標と内		つ変化(1) 初期社会科 つ変化(2) 展開 つ変化(3) 知識から方法へ 地理的分野(1) 目標と内容 地理的分野(2) 授業の展開 歴史的分野(1) 目標と内容 歴史的分野(2) 授業の展開 5)公民的分野(1)目標と内容 (1)環境 (2)人権 (3)国際化	
到達目標	7	看導要領に定める中学校社会科の指導内容)うえ、見解を提示できるようにする。	Fおよび指導法を5	理解し、中学	校社会科の現状課題について
事前・事後 学修の内容					導要領の下で書かれている検
テキスト、 【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解 参考文献 【参考文献】授業中に指示される。			兑(平成 20 年 9 月) 社会編』	日本文教出版
評価方法	業時に	こ出される小課題(レポート)等を含め総合	ーー 的に評価する。		

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		社会科教育法Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講	義概要	Ę.	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法Ⅱは主として、社会科の授業 実践のための技能を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅲでは社会科で身につけるべき広い意味 での学力(知識・技能・態度等)を踏まえて、授業形態別 に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、 情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えて いく。		第5回:教材の 第6回:教材の 第7回:教材の 第9回:生徒主 第10回:生徒主 第10回:臨臨地 第13回: 第14回:学習: 年間:	平受収収収収本ユン学学学指計で 一のとととと学ーののの計・ 特利利用用指指する 質用用用(((導導ンと 要要ととと) 等でである。 では、 では、 では、 では、 では、 できる。 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	 新聞・雑誌・書籍 視聴覚教材 インターネット等 ワークシートの作成 (1)調べ学習の指導 (2)ディベートと発表 教材の利用 計画 	
		交社会科の地理、歴史、公民の 3 分野の抗 基備ができるようにする。	f導において必要?	な基礎的知識	・技能を習得し、模擬授業に
事前・事後 学修の内容	学習指導要領、教科書を熟読する。学習教材等の収集など授業中に具体的な課題が示される。			課題が示される。	
テキスト、 参考文献	_	テスト】文部省『中学校学習指導要領解説 第文献】授業中に指示される。	説(平成 20 年 9 月)社会編』日本文教出版		
評価方法	授業時	特に出される小課題(レポート)等を含め総	合的に評価する。		

03 年度以降		社会科教育法Ⅲ		担当者	秋本 弘章	
講義目的、講義概要			授業計画			
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅲは主として、社会科の模擬授業を通じて実践力を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。		第1回:学校カリキュラムの中の社会科 第2回:社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 第3回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 教材構成と発問の工夫 第5回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 教材構成と発問の工夫 第5回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 プリント資料の作成と板書事項の検討 第6回:模擬授業(1)地理的分野 日本の諸地域 第7回:模擬授業(2)地理的分野 世界の諸地域 第8回:模擬授業(2)地理的分野 近代以前の世界 第9回:模擬授業(3)歴史的分野 近代以降の日本 第10回:模擬授業(5)公民的分野 経済分野 第11回:模擬授業(6)公民的分野 政治分野 第12回:模擬授業(7)分野融合単元 現代社会の諸問題 第13回:評価問題の検討と学習評価 定期試験問題の作成 第14回:評価問題の検討と学習評価 定期試験結果の分析と授業の改善 第15回:まとめ				
到達目標	授業の実践に必要となる学習指導案を作成する力、指導技術を習得し、社会科の授業の在り方について分析し、見解を提示できるようにする。					
事前・事後 学修の内容	授業時間は模擬授業の実施が中心となるので、学習指導要領の作成などは事前学習の課題となる。事後学 習としては模擬授業の反省を踏まえて、より良い学習指導案の作成を行う					
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 年 9 月)社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。					
評価方法	授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。					

			担当者		
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					
-					

03 年度以降	地理・歴史科教育法 I		担当者	鈴木 孝			
講義目的、講義概要			授業計画				
「歴史認識」に関する問題点を明らかにし、歴史教育者として複眼的な歴史認識論をもてるようにします。その上で、世界史教育のための基本的な理念と方法論を明らかにします。 さらに、世界史Aおよび世界史Bについて、教材研究の際の留意点や工夫、授業実践のための準備や事例を取り上げ、授業者としてのスキルアップをめざします。その際、新しい歴史教育に求められている考察力や発表力を念頭においた事例を扱います。 授業は講義方式で行いますが、毎回パワーポイントを用いた事例を提供します。(原則としてスライドのテキストに限って印刷して配布します。)			1. ガイダンス,歴史認識…その所在と変遷… 2. 歴史教育における世界史必修化の意義 3. 学習指導要領による世界史教育 4. 教材研究…その精神と方法… 5. 世界史Aの授業研究…世界史Aの概要と特色 6. 世界史Aの授業①…諸地域世界の特質… 7. 世界史Aの授業②…ネットワーク論による交流… 8. 世界史Aの授業③…近現代の世界と主題学習… 9. 世界史Aの授業実践例(映像)と問題点の検討 10. 世界史Bの授業研究…世界史Bの概要と特色 11. 世界史Bの授業①…時間軸と空間軸… 12. 世界史Bの授業②…歴史資料の読み解き… 13. 世界史Bの授業実践例と問題点の検討 14. 発展的授業①…興味・関心を高める導入の検討…				
到達目標	高等学校世界史に関する教育法の基礎的知識、および、学習指導要領に基づく実践的な世界史学習指導案を作成できる 力と指導技術を習得し、さらに、世界史の授業のあり方について分析を行い、見解を提示できるようにする。						
事前・事後 学修の内容	毎回の授業計画にそって,テキスト,世界史教科書(各自所有のもの),WEB資料等で内容確認してください。また,随時だされる課題やワークについて調べた上で報告してください。						
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』,世界史教科書(各自所有のもの)。 【参考文献】授業において随時紹介します。						
評価方法	レポート 75%,提出物 10%,授業への参加度 15%						

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
		1		

03年度以降		地理・歴史科教育法Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等 について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。 【授業の概要】 本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。		第2回:日本の地 第3回:諸外習四の 第4回:出地図・ 第5回回:地地図・ 第7回回:地地図外 第8回回:野野外系統 第9回:野野外系統統の 第11回:地誌題 第12回:地誌題 第14回:地誌題的 環14回:宝題 第15回:主題的 第15回:主題的 第15回:主題的	第1回:地理教育の意義と目標 第2回:日本の地理教育の歩み 第3回:諸外国の地理教育 第4回:学習指導要領をよむ 第5回:地理的見方・考え方について 第6回:地図・地球儀の扱い方(1) 地球儀と地図 第7回:地図・地球儀の扱い方(2) 世界地図の特徴と活用 第8回:野外観察・調査の意義と計画 第9回:野外観察の実践 第10回:系統地理の学習指導(1) 自然地理 第11回:系統地理の学習指導(2) 人文地理 第12回:地誌の学習指導(1) 地域区分とスケール 第13回:地誌の学習指導(2) 静態地誌・動態地誌 第14回:主題的学習の学習指導(1) 環境問題、資源エネルギー問題 第15回:主題的学習の学習指導(2) 人口問題、都市・居住問題		
到達目標		校地理に関する教育法の基礎的知識、および 術を習得し、さらに、地理の授業のあり方に			
事前・事後 学修の内容	事前学習:高等学校学習指導要領解説地理歴史編を熟読するとともに、これに基づいて書かれた検定済教科書の内容を把握する。 事後学習:授業中に課題が提示される。授業中に出される課題を行うこと。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 【参考文献】授業時に示される				
評価方法	授業時	授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。			

03年度以降	単理・歴史科教育法Ⅲ		担当者	會田 康範	
講義目的、講	義概要	5	授業計画		
まえ、教職を考りない。 という は 要の できる という は 要の できる という は まん は ま	歴するでは、関連では、関連では、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連に	教育の歴史的関係や今日的な課題を踏 生自身がこれからの歴史教育の在り方 れに基づき、独自に実践的な授業づく	1. オリエンテーション (グループ作りも含む) 2. 歴史教育の目的・内容・方法・教材研究のあり方 3. 学習指導要領と歴史教科書 4. 授業実践事例研究①一系統的通史学習の方法一 5. 授業実践事例研究②一問題解決学習の方法一 6. 授業実践事例研究③一その他の学習方法一 7. 教材研究の方法と工夫 8. 学習指導案の作成方法 9. 教材開発事例発表と討論① 10. 教材開発事例発表と討論② 11. 教材開発事例発表と討論③		
		校日本史に関する教育法の基礎的知識、およ 導技術を習得し、さらに、日本史の授業のあ	- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	配布資料を事前に精読しておいてください。 事後学習として講義内容を再確認してください。小レポートを提出してもらう場合があります。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】特定のテキストは使用せず、資料プリントを必要に応じて配布します。高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の解説は各 自で用意してください。 【参考文献】中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領				
評価方法	レポート 50% プレゼンテーション・授業への貢献度 30% 課題提出 20%				

			担当者	
講義目的、講義概要	E	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	公民科教育法 I		担当者	及川 良一
【講義目的】 公民科教育の 科教育の歴史、 の課題について 画、1単位時間 導計画作成の実 【講義概要】 第11回までは	公民科教育の意義と課題、中学校・高校社会科及び公民 科教育の歴史、社会科・公民科系科目の内容構成と指導上 の課題についての理解を深め、公民科各科目の学習指導計 画、1単位時間の指導案について事例研究を行い、学習指 導計画作成の実践的能力を身に付ける。 【講義概要】 第11回までは講義中心で行う。各科目の授業研究は、サンプル指導案について研究協議の形で行う。 9. 現行学習: 10. 公民科の		中学校公民的分野 現代社会 倫理	
	民科教育の歴史的変遷、公民科教育の意義 [。] 習指導案や指導計画を策定できるようにす		学習指導要能	頁に定める指導内容を理解し、
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておく。			
テキスト、 参考文献	- 文部科学名『再等学校学習指道典領解譚公民編』			
評価方法理	論編まとめテスト 60% 授業研究レポート	20% 定期試験 2	20%	

03年度以降	公民科教育法Ⅱ		担当者	及川 良一	
講義目的、詞	冓義概要	<u> </u>	授業計画		
内容と取扱い 授業、模擬性 の指導力ので 事項の内容の かせるようい 【講義概要】 第7回まで	学い受育のこで、指路にを被しては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	享要領公民科の概要、各科目の目標及び まえ、実際に学習指導案を作成し、模擬 関する研究協議を行い、実践的に公民科 りざす。また、各科目にわたる総則関連 いについても理解を深め、授業実践に生 と中心で行う。第8回以降、学習指導案 算案に基づき模擬授業、模擬授業に関す	2. 学習指導 3. 「現代社 4. 「麻理」 5. 「麻神日に 6. 各科目に 7. 各科目に 8. 学習現代社 10. 「現代社 11. 「倫理」 12. 「政治・	わたる内容の取 わたる内容の取 案の作成 会」の授業研究 会」の授業研究 の授業研究 様 の授業研究 様 経済」の授業研	が内容と取扱い と取扱い で内容と取扱い を扱い① を扱い② に 模擬授業① に 模擬授業② に 模擬授業② に 模擬授業②
到達目標		音導案に基づき、授業構成のあり方や具体 後的な指導力を習得し、公民科の教育指導			の方法等、公民科教育に関す
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておく。				
テキスト、 参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』				
評価方法	理論編まとめテスト 40% 模擬授業 20% 学習指導案 20% 定期試験 20%				

03 年度以降		情報科教育法 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 【授業の概要】 情報科教育法Iでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。			4 普通教科「作 5 専門教科「作 6 専門教科「作 7 学校報科教材で 8 情報科教材で 9 情報科教材で 10 情報科教材で 11 情報科教材で 12 情報科教材で 13 情報科教材で 14 情報科教材で	の青青青青青る研研研研研研研研研研刊報報、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は、1 は	構成と各科目の特色 構成と内容の概略 環境 報活用と表現 ミュニケーション 報モラル デル化とシミュレーション 報化と社会 ルゴリズム
到達目標		盲導要領に定める情報科の指導内容およで と提示できるようにする。	が指導法を理解し、	情報科の現	状課題について分析を行い、
事前・事後 学修の内容	事前学習:高等学校学習指導要領解説情報編を熟読するとともに、これに基づいて書かれた検定済教科書の内容を把握する。 事後学習:授業中に課題が提示される。				
テキスト、 参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか				
評価方法	授業参	⇒加度を重視する。授業時に出される小説	果題(レポート)等も	重要な評価権	材料である。

03年度以降	情報科教育法Ⅱ				担当者	秋本	弘章
講義目的、講	義概要	<u> </u>	授美	 			
【授業の到達	自標及	をびテーマ】	1	普通教科「忖	青報」の特性	と年間学習指導	計画
高等学校教	科とし	ての情報科の目的、内容、方法、課題	2	専門教科「忖	青報」の各科	目の配置と年間	引学習指導計画
等について考	察する	るとともに、情報科教員として必要な知	3	「情報」学習	習指導の実際	(授業見学)	
識・技能の育	が成をぬ	りざす。	4	「情報」学習	習指導の実際	(施設見学)	
			5	「情報」学習	習指導の実際	(現場教員との)議論)
【授業の概要	Į]		6	学習指導案の	つ作成 共通	教科情報	
情報科教育	活法Ⅱ~	では、年間学習指導計画・学習指導案の	7	学習指導案の	つ作成 専門	教科情報	
作成、先進校	泛授業	彰観、模擬授業を予定している。	8	8 学習指導案の作成 情報の実習			
なお、先進校	授業参	縁観については、参観先の都合等により	9 模擬授業(1)情報活用と表現				
日時をかえて	行な	り場合がある。	10 模擬授業 (2) コミュニケーション				
			11	模擬授業(3	3) 情報モラ	ル	
			12	模擬授業 (4	1) モデル化	とシミュレーシ	/ョン
			13 模擬授業 (5) アルゴリズム				
			14 模擬授業(6)図形と画像の処理				
			15 情報教育のこれから				
到達目標	*** *** * *)実践に必要となる学習指導案を作成する っに、情報科の教育指導ができるようにな		指導技術を習	習得し、授業	の在り方につい	いて分析を行う
事前・事後	事前等	学習:学習指導要領を熟読するとともに打	事	ぎを書くための	り資料等の収	集を行う。	
学修の内容	TR 1 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
テキスト、 参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか						
評価方法	授業参	≽加度を重視する。授業時に出される小話	 果題(レポート)等も	重要な評価権	材料である。	

12 年度以前 13 年度以降				担当者	安井 一郎
講義目的、請	構義概要	-	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 ・教科横断的学習の指導 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに 発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。 【授業の概要】 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習(クロス・カリキュラム)の学習指導案を作成する。			第2回:クロス 第3回:単元の 第4回:単元の 第5回:単元の 第6回:単元の 第7回:単元の 第8回:単元の 第9回:単元の 第10回:学習 第11回:学習 第12回:学習	・テ为为为为为尊指指指指的力力,不容容容容容容等導導等等等、成成成成をを導入。不成成成成をを作のののののののののののののののののののののののでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、	マ設定の理由、目標を考える える:導入 える:展開前半の内容 える:展開中盤の内容 える:展開後半の内容 える:展開後半の内容 える:まとめ、評価基準 導入の指導計画 :展開前半の指導計画 :展開機半の指導計画 :展開後半の指導計画 :まとめの指導計画 :まとめの指導計画、評価表案の発表準備
到達目標		を教育における教科教育の今日的課題等。 教科横断的学習課題に対する学習指導			習指導の在り方を理解したう
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】特になし 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。 その他は、講義の中で紹介する。				
評価方法	平常点	、(50%、授業内課題を含む)、レポート	、(50%)、総合点	60 点以上合	格。

			担当者	
講義目的、講義概要	E	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以前 13 年度以降		道徳教育の研究 道徳教育の理論と実践		担当者	各担当教員
講義目的、講	冓義概要		授業計画		
する。マラカス と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	この道の要作要し 】教れ材討人を基準の実質成領、 育るを論が行づる教態等しに指 に。もを寝ういた。	日本における道徳教育の変遷に関して理解の方法について、さまざまな手法を理解し、応じた適切な手法を選択することができる。このっとり、指定された副読本教材をもとに模擬授業を実施することができる。つっとり、指定されたテーマに基づいた適切案を作成することができる。 「は、主に講義中心とし、②はあらかじめい、指導を受けつつ実際に指導案を作成し、指導を受けつつ実際に指導案を作成し、近じて改善を行う。③では②で作成した指導に模擬授業を実施し、その後の討論を通じまた、最終レポートで指定されたテーマ「生」(副読本以外の)教材を選定し、それに基	第2回:道徳教育を振り返って――道徳不振と道徳重視 第3回:道徳教育の歴史(1)戦前の「修身口授」から「修身」 まで 第4回:道徳教育の歴史(2)生活主義道徳と特設主義道徳 第5回:道徳教育の歴史(3)道徳教育重視と現状 第6回:道徳教育の理論(1)道徳とは何か 第7回:道徳教育の理論(2)道徳は教えられるか――――――――――――――――――――――――――――――――――――		
到達目標	l	対育をめぐる問題状況を踏まえ、学習指導 √し、実践できるようにする。	尊要領に基づく道?	恵教育の目的	、内容、方法について理論的
事前・事後 学修の内容		授業内容を確認した上で、指定された。 って、本時の授業に臨むこと。授業時に携			
テキスト、 参考文献					
評価方法	方法 平常点 (50%、授業内課題を含む)、試験またはレポート (50%)、総合点 60 点以上合格。				0点以上合格。
10 左库四益		当体料本の印象			

12 年度以前 13 年度以降	道徳教育の研究 道徳教育の理論と実践	担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
(半期完結科目の)	とめ、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、特別活動に関する基本的・基礎的な知識と特別活動の在り方や動向に関する知識を修得し、特別活動の特質や本質を踏まえた実践的指導力を育成することを目的とする。 【授業の概要】 特別活動の教育的意義や教育課程上の位置付け、目標と内容、指導計画の作成、指導方法などについて、講義と演習、模擬授業などを通して、現場実践に基づいて学ぶ。		授業計画第1回:オリエンテーション第2回:特別活動と教育課程第3回:特別活動の内容と変遷第4回:特別活動の意義と目標第5回:特別活動と諸教育指導第6回:生徒会活動の目標と内容第7回:生徒会活動の指導計画第8回:学級活動の指導計画1(指導計画作成の基礎・基本)第10回:学級活動の指導計画2(指導計画の作成)第11回:学級活動の模擬授業第12回:学校行事の目標と内容第13回:学校行事の指導計画1(指導計画作成の基礎・基本)第14回:学校行事の指導計画2(指導計画の作成)第15回:学校行事の指導計画3(指導計画の評価)		遷標導 内容 画容 1 (指導計画作成の基礎・基 画2 (指導計画の作成) 業 内容 画1 (指導計画作成の基礎・ 画2 (指導計画作成の基礎・	
到達日標		f導要領に規定された特別活動の目的、内 f導の在り方について分析し、実践できる		ける基礎的理	論に基づき、よりよい特別活
	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識 を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説特別活動編』『高等学校学習指導要領』『同解説特別活動編』、その他は、講義の 中で紹介する。				
評価方法	平常点	京(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	5)、総合点 6	0 点以上合格。

12 年度以前 13 年度以降	特別活動 特別活動論(12 年度以前の総・交を含	む。)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要	授業計画		
(半期完結科目の	ため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		教育方法学		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要		授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は教育職の重要性を再検討し、学校教師の役割と機能を確認する。また、各自の教育方法に関する基礎を養成するものである。 【授業の概要】 人間の一生は、日常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、インターネットなどのメディアを利用した間接経験、そして言語による理性的・感性的経験を通しての成長過程である。言い換えれば、人間は成熟するまでに非常に長い年月を必要とし、その過程にあっては多くの他者との関わりあいが不可欠である。「蛙の子は蛙」という故事は、人間の成長過程とは非なるものを的確に言い表している。そこには、子どもは他者との様々な相互作用(異なった対応の仕方など)を通して、一人前の人間になっていくというとらえ方がある。教育職は子どもの成長過程に「意図的」に参画する重要な媒介者である。		第1回: 第3日 第3日 第3日 第3日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5日 第5	ニ い ショ ショ ショ ショ ショ ショ ショ ショ ショ ショ	を教育・学習 育現場 業 ジ 育実践ビデオ	
到 辛 日 椌	******	構成と展開を中心とする教育方法学の基 こついて見解を提示できるようにする。	基礎的理論に基づる	き授業を分析	研究し、よりよい授業実践の
	を持って	受業内容を確認した上で、指定されたラ て、本時の授業に臨むこと。授業時に提			
テキスト、 参考文献	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			指導要領』『同解	説総則編』、その他は、講義の中で紹
評価方法	平常点	(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	 %)、総合点 6	0 点以上合格。

03年度以降	教育方法学		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	要	授業計画			
(半期完結科目の)	ため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03 年度以降		生徒指導法		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要	e c	授業計画		
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 生徒理解の教育的意義と具体的な方法について理解を深め、さらに教育活動における生徒指導の基本的なあり方について理解を深め実践的な指導力を身につける。 【授業の概要】 前半は講義中心、後半は事例研究を中心に行う。事例研究を出来るだけ多く行い、具体的な生徒指導のあり方について意見交換を含めて検討していく。			第4回:青年期 第5回:生徒指 第6回:生徒指 第7回:生徒指 第9回:進路指 第9回:事例研 第10回:事例 第11回:事例	算お学算算算等の がでする でのけるのとと・(究ののででででででででででででででででででででででででででででででででででで	際 導組織と指導体制 生徒理解 教育相談 との連携 教育と生徒指導) 導) 題) ・中途退学問題) 喫煙・盗み)
		指導及び教育相談、進路指導に関する基礎 5ようにする。	と と と 性的理論に基づき、	実践的な生	徒指導法を分析研究し、実践
)授業内容を確認した上で、指定されたラ って、本時の授業に臨むこと。授業時に提			
テキスト、 参考文献	、 【テキスト】文部科学省『生徒指導提要』(教育図書)、その他、担当教員の指示に従うこと。 【参考文献】講義の中で紹介する				
評価方法	平常点	((50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	 %)、総合点 6	0 点以上合格。

03年度以降	生徒指導法		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	要	授業計画			
(半期完結科目の)	ため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03年度以降		学校カウンセリング		担当者	各担当教員
講義目的、講	冓義概要	更	授業計画		
 「授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。 【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設ける。 		第4回:学校カカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカ	うとすが、 学セルテン・マック・マック・マック・マック・マック・マック・マック・マック・マック・マック	ヒリングの特徴 里論① ウンセリングマインド 理論②ーその他の理論 理論③ーカウンセリングの体験 ① カウンター ② レーニング 後 実際①:いじめ の実際②:不登校・ひきこもり	
到達目標	学校カ	カウンセリングに関する基礎的理論や技法	よを習得し、適切 ^が	な相談、支援	ができるようにする。
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法	定期記	式験の結果によって評価するが、平常授業	 きにおける課題レス	ポートなどの	提出物等も評価対象とする。

03年度以降	学校カウンセリンク	Ť		担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要		授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)					
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

12 年度以前 13 年度以降		教育実習論(事前・事後指導) 教育実習指導		担当者	各担当教員
講義目的、請	冓義概要	2	授業計画		
(半期完結和	科目のだ	こめ、講義目的等は秋学期と同じ)			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					
12 年度以前 13 年度以降		教育実習論(事前・事後指導) 教育実習指導		担当者	各担当教員
講義目的、調	冓義概要	<u> </u>	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】教育実習事前・事後指導本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業(事前指導)、及び、教育実習の反省・フォローアップ(事後指導)を行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 【授業の概要】教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする(事前指導)。また、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理する(事後指導)。			第1回:教育実習とは何か 第2回:教育実習の概要 第3回:学校の組織と教師の職務 第4回:授業研究(1)外国語 第5回:授業研究(2)社会・地歴・公民 第6回:授業研究(3)授業のスキル 第7回:授業研究(4)授業の評価 第8回:学習指導案の書き方 第9回:学習指導案の作成 第10回:模擬授業(1)外国語 第11回:模擬授業(2)社会・地歴・公民 第12回:教育実習期間中の諸注意 第13回:教育実習を振り返る(1)学習指導 第14回:教育実習を振り返る(2)生徒指導		歴・公民 キル 価 地歴・公民 諸注意 る(1)学習指導 る(2)生徒指導
な限り他の授		限しないこと。 習の意義、目的、内容について理解し、より	第15回:教育等		
到達目標 	アップ	により各自の学習課題の整理することで、教)授業内容を確認した上で、指定されたラ	師としての意識や資	質・能力を高め	めることができるようにする。
学修の内容	を持つ	って、本時の授業に臨むこと。授業時に提	示された課題を達	対し、それを	と次回の授業で提出すること。

平常点 (50%、授業内課題を含む)、試験またはレポート (50%)、総合点 60 点以上合格。

【テキスト】獨協大学『教育実習の指針』 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』。その他は、講義の中で紹介する。

テキスト、 参考文献

評価方法

10 年度以降	教職実践演習(中・高)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	- 要	授業計画		
(半期完結科目の7	とめ、講義目的等は秋学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
T				

10 年度以降		教職実践演習(中・高)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 【到達目標及びテーマ】 教職課程の総仕上げとして、個々の授業において習得してきた知識技能を元に、教員としての使命感や教育的愛情、授業力等の資質が身についているかどうか確認し、今後の教員としての成長発達につなげる契機とする。また、方法としてディスカッションを多用することで対人能力の確認も含んでいる。 【授業の概要】 主に①これまでの教職課程で習得してきた内容と教育実習を振り返り、【教員としての使命感・教育的愛情】、②現在学校が抱えている課題とそれへの対応を、現職教員からの講義やロールプレイ、討論を通してより具体的に考察し、【生徒理解】、③模擬授業を通してよりよい授業力を身につけると同時に授業力向上への方途を探究する。また、授業の多くがグループでのディスカッションや作業の形態をとり、それを通して教員として必須な「他の人と話し合い、協力しあう」という対人関係能力の確認、向上も同時に目指していく。		接業計画 第1回 教育実習の振り返り①生徒指導・生徒理解編第2回 教育実習の振り返り②授業編第3回 履修カルテの記入・確認&私に必要なもの第4回 実習校でのフィールドワーク第5回 生徒理解①(現職中・高教員による講義・小論第6回 生徒理解②(グループディスカッション・小論第7回 実習中経験した課題への対応第8回 すぐれた授業とは何か第9回 学習指導案を作成する第10回 学習指導案を検討する第11回 模擬授業①第12回 模擬授業②第13回 模擬授業②第13回 模擬授業③第14回 模擬授業④第15回 まとめ――設定した課題は達成と達成するために求められること(小論文)		②授業編 確認&私に必要なもの ドワーク ・高教員による講義・小論文) プディスカッション・小論文) への対応 かる する	
秋学期受講? な限り他の授業			Ø16	.氷められるこ	と(小論人)
到達目標		な職課程を通じて習得した知識や能力、教 改し、実践的な教育力を発揮できるように		ふまえ、教師	に必要な資質・能力を総合的
事前・事後 学修の内容		前学修) 提示された資料を事前に読んでく その他フィールドワークや発表準備など	ること、(事後)	講義を振り返	り授業レポートを作成するこ
テキスト、 参考文献	『教育実習の指針』(獨協大学)、文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』 その他授業内で指示する。				学校学習指導要領』
評価方法	期末レポートに授業レポート等を加味して評価する。				

03年度以降		学校経営と学校図書館		担当者	井上 靖代
講義目的、請	講義概 要	5 C	授業計画		
学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理・ 情報管理や人事管理など経営管理者としての役割と仕事 が求められる。学校図書館を活用し、「総合的な学習」や探 求型学習など創造的な授業を構築する教員集団の支援活 動も求められている。この科目では、これらの役割につい て、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施でき るようになることを学習目的とする。			1. 学校図書館の 2. 学校図書館の 3. 教育行政と学 4. 学校図書館の 5. 学校図書館の 6. 学校図書館の 7. 学校図書館の 8. 司書教諭の役 9. 学校図書館が 10. 学校図書館が 11. 学校図書館が 12. 調べ学習や 13. 図書館の相互 14. 学校図書館が 15. まとめ	発展と課題 と課館 経営②③人財内の選挙 経営②④財内の選挙 を対してアア教的と に協力と に協力と に協力と に協力と に協力と	理 理 理、評価等 力体制、研修 と管理 共と活用 動 習」と学校図書館 トワーク
到達目標		を営と学校図書館に関する各種の知識・む と解を提示できるようにする。	支能を習得し、学権	交図書館の経	営的問題点について分析のう
事前・事後 学修の内容	- 1 学校図事館建築を読んでおくてと				
テキスト、 参考文献	・「是初の授業で終乳」フトを配在する				
評価方法		加、授業でのプレゼン(30%)、課題(40%)、最 の 1/3 以上の無断欠席は授業放棄とみなす。		出しているこ。	とが評価対象になる条件となる。

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降	学校図書館メディアの構成		担当者	井上 靖代	
講義目的、講義概要 学校図書館メディア・センターでの資料管理についての以下の分野で講義・演習を行う。 (1)資料選択。どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2)資料組織化の実習および運用。学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。		2. 学校図書館メ 3. 資料選択の実 4. 資料選択の実 5. 日本十進分類 6. 分類の実際一 7. 分類の実際一 9. 日本目録化の実際 11. 目録化の実際 12. 目録化の電子 ス化へ Exc 13. 目録と情報検	1. 図書館での資料整理の目的と意義 2. 学校図書館メディア資料の種類と特性 3. 資料選択の理論、子どもたちの知的自由 4. 資料選択の実際 5. 日本十進分類法(NDC)の構造 6. 分類の実際-主題同定作業⇒情報検索語の特定 7. 分類の実際-一般補助表の活用- 8. 分類の実際ー学習に応じた分類 9. 日本目録規則(NCR)の構造 10. 目録化の実際 図書 11. 目録化の実際 図書 11. 目録化の実際 図書以外の資料 12. 目録化の電子化 テキスト・ファイルからデータベース化へ ExcelとAccess利用 13. 目録と情報検索との相関関係 14. 目録検索の実際		
	校図書館メディア・センターにおける資料の選択 化など、資料の組織化に関する知識を習得し、適				
事前・事後 学修の内容	キストを熟読して規則をある程度憶えておく	< ∘			
	日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』,2015.4,245p,定価1,100円(税別),ISBN:978-4-930992-22-2			9, 定価 1,100 円(税別),	
■ 評価方法 "	習課題(60%)、最終演習テスト(40%) ※無い う。	断欠席は授業放棄	とみなす 授	業内で演習課題を提出しても	

接業計画 接業計画 接業計画 接業計画 接業計画 接業計画 日本					
の理解を図る。「総合的な学習」や調べ学習などで、学校 図書館の活用が重視されており、その内容にそって、児 童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的と 1.た授業を採助する学校図書館司書教諭の役割を理解 1.					
実践することができるように学習していく。 2020年度から学習指導要領の改訂が予定されており、「歴史総合」など教科にアクティブ・ラーニングを取り入れた科目に変更される可能性がある。司書教諭はその変更にともない、児童生徒のみならず教師への支援を求められる。この科目ではこの変更を念頭におき、学習していく。 11. 情報探索能力育成のための教育課程策定 9. 各教科学習で学校図書館/ディア・センターを利用する教育指 び指導案作成 10. 「総合的な学習」で学校図書館/ディア・センターを利用する計画及び指導案作成 11. 特別活動などでの学校図書館/ディア・センター利用の活動が 12. 学校図書館/ディア・センター管理運営年間計画策定 13. 教師集団との協働 14. PTA/PTOや地域社会との協働 15. 教育指導の実際-各受講者の発表・報告-	教育指導				
到達目標 学校図書館司書教諭の役割と学校図書館メディアセンターの情報資料について理解し、司書教諭として必要と 報検索活動能力、および、児童・生徒の主体的なメディア活用能力を育成できるようにする。	される情				
事前・事後 学修の内容 教職課程で学習した指導計画・指導案作成を復習しておくこと。					
テキスト、 参考文献 最初の授業で参考資料リストを配布する。	最初の授業で参考資料リストを配布する。				
評価方法 数度の演習課題(30%)、授業参加+グループでの報告と発表(40%)、小テスト(30%) ※授業の 1/3 を無断欠席 業放棄とみなす。遅刻するとグループワークに参加できず課題を提出できないので注意すること	数度の演習課題(30%)、授業参加+グループでの報告と発表(40%)、小テスト(30%) ※授業の 1/3 を無断欠席すると授業放棄とみなす。遅刻するとグループワークに参加できず課題を提出できないので注意すること				

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
到達目標			
事前・事後学修の内容			
テキスト、参考文献			
評価方法			

03 年度以降	読書と豊かな人間性		担当者	井上 靖代		
講義目的、詞	冓義概劽	 ₹	授業計画			
「読書」	とはなに	こか。読む・書くことであるが、学校と	1. はじめに			
いう教育現場	易ではと	ごのように読み解くか、をどう指導して	2. 読書と読む・	書く		
		よる。2020年以降の新学習指導要領では	3. 読書心理と読	書傾向		
124221 11 - 11		目が新設予定であり、他者との議論等を	4. 絵本を選ぶ			
		ブ・ラーニングを指導する。その基本と		ての絵本-絵	本を読みなおして考える読書-	
		こもとづく自己意見の表現である。文章	6. 課題演習(1)			
		表現する力が求められる。この言語教		, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	・ティーンズ文学	
		るの基本である子どもの読書を推進する。 スカスラ まれる ロッカス から ボーナ	8. 読解力を育成する児童文学・ティーンズ文学			
, , , , , , , , , , , , , , , , ,		cかで言語教育担当教員のみならず,す 役=コーディネーターとしての学校図	9. 課題演習(2)			
		マーコーケィイーターとしての学校図 要な役割を担っている。この科目ではそ	10. 読書資料としてのノンフィクション 11. 読解力育成としてのノンフィクション			
		ら、どのような読書資料があるのか、そ	11. 説牌の自成としてのアンフィクション 12. 課題演習(3)			
		をどのように言語教育やリテラシー教	12. 味趣(食) 13. 読書指導の技術と方法			
		学び、かつ学校内外での調整役として	14. 子どもたちの知的自由			
の役割と責任			15. 家庭・地域での読書/公共図書館との協働			
到達目標		』」(リーディング)と「書く」(リテラミ と習得し、学習者に対して適切な読書指導			とする授業を構築するための	
事前・事後 学修の内容	・・・					
テキスト、 参考文献	- 1 最初の授業で参考資料リストを配布する					
評価方法		ート(演習課題(1)~(3))+クラスへの参加度 66 欠席すると授業放棄とみなす。また、課題は				

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę .	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	情報メディアの活用		担当者	福田 求	
講義目的、講義概要			授業計画		
講義目的、講義概要 【目的】インターネット、そしてその上で展開されたさまざまなサービスによって、大量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積されたりしてきた。電子的な通信メディアや記録メディアによって世界中の人々がコミュニケーションを行っているのである。しかし、情報を媒介するものは電子的なものに限らない。たとえば従来の図書や雑誌といった印刷メディアは簡単に思いつくことができるが、そのほかにどのようなメディアが存在するのだろうか。この授業では情報の「乗り物」であるメディアの体系を理解することを目的とする。また、情報の発信、収集、交換といったメディアの利活用についても関連するトピック(学校教育/図書館など)とともに学習する。 【概要】現在までのメディアの発達と変化、メディアの分類およびそれぞれの特性、目的や状況(例:学校教育/図書館)に応じたメディアの選択、情報の発信・収集・交換という3つの情報利用行動、メディアの取り扱いについて注意すべき点、などを、講義とコンピュータを使用した演習を通して学んでいく。		3. メディアとコン 4. メディアによる URI、HTML)を 5. メディアによる 6. メディアによる インターネット 7. 前半のまとめ: 8. データベースと 9. データベースと 10. インターネット 11. 獨協大学図書館 /学習への応り 12. 情報検索以外の 13. 取り扱いに注意 14. メディアと著作			
到達目標		対育で用いられる多様な情報メディアの きるようにする。	特性を理解し、具体	本的な学習場	面において情報メディアを活
事前・事後 学修の内容	指示された情報源については、次回までに入手/アクセスし、参照しておくこと。 また、前回の授業中に赤や青の文字で示されたキーワードの意味を説明できるように復習しておくこと。				
テキスト、 参考文献	適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。				
評価方法	期末り	/ポート(50%)。平常授業における課題	 夏レポートなどの実	績(50%)。	

03年度以降(夏季集中)	i	介護ボランティアの理論と実践		担当者	保科 寧子		
講義目的、詞	講義概要	5	授業計画				
本講義は教職課程の「介護等体験」履修時など、介護等体験の際に求められる知識や援助技術について、理解を深めることを目的としています。まず介護体験を行うという社会参加活動(ボランティア)の意義や役割を理解し、次に高齢者福祉、障害者福祉を中心に、各分野の福祉について概観した後、介護等体験に必要な援助技術について学びを進めていきます。 講義ではVTR などを通して、具体的な理解を深めていきます。初めに社会福祉に関する基礎的知識、高齢者福祉の現状、障害者福祉の現状について学びます。次に、介護現場における必要となるコミュニケーションや介護の基本技術について学びます。そして、地域で暮らす人々の生活を支えるために私たちのできること、また介護現場における問題について考えます。			8月 8日 (火) 8月 9日 (水) 8月 10日 (木) ション・ジョン・ジョン・ジャック で、大きないで、カーシャック で、大きないで、カーシャック で、大きないで、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャック で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カーシャの で、カー カーシャの ア カーシャの ア カーシャの ア カーシャの ア カーシャの ア カーシャの ア カーシ ア カーシャの ア カーシャの ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カー ア カー ア カーシ ア カー ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カーシ ア カー ア カーシ ア カー ア カー ア カー ア カー ア カー ア カー ア カー ア カー	2、3、4、5時限 2、3、4、5時限 2、3、4時限、5時限試験 7)の定義・役割 って			
到達目標		程における「介護等体験」に必要な基礎 :実践できるようにする。	楚的知識、及び、 技	援助の実践方	法を習得し、介護等の現場で		
事前・事後 学修の内容	- ***・** 久議表で註した内然について ― 次回の議表主でに久日で復習をしてください				•		
テキスト、 参考文献					います。		
評価方法		3.50%(従業への参加度、授業中に課す な験(またはレポート)50%	小レポートの提出	等を含む)			

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践			中條	共子	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画				
「介護」とは、為は、人物ででは、人物ではというでは、人物ではというでは、人物では、人物では、人物では、人物では、人物では、人物では、人物では、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人の	 まず「ケア」を考えよう 専門的「ケア」の発達史 日本における「介護」の成立 高齢者介護政策の出発 「介護ボランティア」の源流 障害者運動からの問題提起 介護保険制度の意義と影響 寝たきりモデルから認知症モデルへ 「地域福祉」の焦点化 地域包括ケアシステム構想 「介護ボランティア」の現状 高齢者の心と身体 認知症の人とのコミュニケーション 家族支援とボランティア まとめ 					
■劉達日禮	果程における「介護等体験」に必要な基礎 と実践できるようにする。	整的知識、及び、 抗	援助の実践方	法を習得し、介	↑護等の現場で	
事前・事後 学修の内容 随時/	トレポートの提出を求め講義内容の理解を	と確認する。わから	うないことは	次の講義時に質	f問すること。	
テキスト、 参考文献	- 1 ナキストは指定はず 毎回しジュメと資料を帰布する					
評価方法 小レス	ポートの提出・内容と授業態度につき 50	〜 %、まとめのテス	ト(もしくば	はレポート)50°	%	

			担当者		
講義目的、講義概要	E	授業計画			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03 年度以降	日本史概説 I		担当者	會田	康範	
講義目的、講義概要 近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめると			授業計画			
ともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。			9. 中世の社会―絵図にみる百姓と武士①― 10. 中世の社会―絵図にみる百姓と武士②― 11. 中世の社会―中世の都市― 12. 中世の社会―洛中洛外図を読み解く①― 13. 中世の社会―洛中洛外図を読み解く②― 14. 中世から近世へ 15. 講義のまとめ―古代・中世社会の特質―			-
▮剁達甘檸		育諸学校において、社会および歴史の授業を 史的位置づけ、歴史研究や歴史教育の役割や				
						4習として参考
	TOTAL					
評価方法	定期ラ	テスト 70% 小テスト 20% 授業への参	≽加度 10%			

03年度以降		日本史概説Ⅱ		担当者	會田 康範	
講義目的、講義概要 日本史概説 I に続くこの講義では、近世から近現代を素材としていく。その際、対外関係に重点をおいて考察していくが、その前提となる政治や社会経済についても触れることになる。この講義を通じて、近世社会を経て近・現代日本における国民国家形成の過程とその展開について考えていきたい。			授業計画 1. 講義の概要 2. 中世親 の概要 4. 「鎖世地国」中に対象の策算 6. 近近 夢の・国国民民統統の表質 7. 内受代末民民統統の表質 9. 幕国民民統統の世紀 11. 国国民民統統世紀 12. 戦後後の 14. 講義のと 15. 講義のと 15. は、共和の表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	対外関係 貿易統制 5 諸学問の発 時代 認助の対外関係 でのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	達 覧会と博物館① 覧会と博物館②	
▮到達目標	1 4 2	育諸学校において、社会および歴史の授業を 史的位置づけ、歴史研究や歴史教育の役割や		3 · · · / / / / / /	A TOTAL CONTRACTOR OF THE PARTY	
7111 712	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。					
	The same of the sa					
評価方法	定期ラ	· -スト 70% 小テスト 20% 授業への参	加度 10%			

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę C	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
-				

講義目的、講義概要			11. 12. 13. 14.	オ現中最皇皇統少中東唐唐宋歴ン国明社配配権族会アのの会究でのの会のとののの世盛盛のと	況(地誌・野衆成郷協会 本の を は で が で が で が で が が か い し い が が か い し い か い か い か い か い か い か い か い か い	見代中国社会の時代中国社会の時代の表演時代名)を漢時代名)を漢明(後東で別のでは、 を変し、表演的のでは、 を変して、 を変して、 を変して、 を変して、 を変して、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでのでのでのでのでは、 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	所代) 戦国時代) 可晋時代) (国南北朝時代)	
到達目標		育諸学校において、社会およ た世界史教育の意義、異文化						開、外国史の学習
事前・事後 学修の内容	事前に	ニテキストの指定部分を読	むこと、事後に	こ各回	のレジュメし	こ掲げた論述	問題の解答を	各自作成する。
テキスト、 参考文献								
評価方法	授業参	*加評価(3 割)と筆記試験	—— 験(7割)(語句	可記述	、資料問題、	、論述、持ち	<u>—</u> 込み不可)で	 評価する。

03 年度以降	外国史概説Ⅱ			担当者	久慈	栄志
講義目的、講義概	!要	授業計画				
西欧における「近 経済などの側面から また「和魂洋才」の ら受容し「血や肉」 においても大きな影 という点についても 下に掲げた参考文献 ・ 小川 哲/上垣 『大学で学ぶ西 ・ 中井義明/佐藤 『教養のための ・ 堺憲一『あなた 版会)	4.5. 歴史名 6. 「近代 7.8. 宗教司 て考察 9.10. 市民書 の国国 11.12. 産業書 然性を 13. 「近代 14. 帝国三 かに名	 2.3. 歴史叙述・歴史理論の変遷(古代~中世) 4.5. 歴史叙述・歴史理論の変遷(近代以降) 6. 「近代」の概念について 7.8. 宗教改革~宗教改革に見る近代性と、インパクトについて考察する 9.10. 市民革命~英仏両革命の共通性と異質性を分析し、両国の国民性について考察する 11.12. 産業革命~拝金主義と社会的諸矛盾、社会主義台頭の必然性について考察する 13. 「近代化」とは何だったのか~その変質について考える 			を分析し、両国 会主義台頭の必 ついて考える	
		15. 帝国三	二我丨	ドにおける民族	思戦の百典	
▮ 糾達 #	教育諸学校において、社会および歴史の授業を じた世界史教育の意義、異文化理解の複雑性な		_ ,, .	9/11/1/2	=>c : .c>c.: \$,2c(;)	1、外国史の学習
N 11	に高校レベルの基礎知識は各自補っておく な箇所は質問してほしい。	くこと。また、	各	テーマの目的	を理解した上で	で授業に臨み、
テキスト、 参考文献	数科書、図録/	よど	も有用と考え	られる。		
評価方法 定期	試験(記述形式、ノート持ち込み不可)の	の結果によって	で評価	西するが、授	業への参加度も	 ₎ 考慮する。

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		地理学概説 I		担当者	秋本	弘章
講義目的、講	冓義概要	<u> </u>	授業計画			
自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から 具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。 本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 *講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。			1. オリエンテー 2. 地形図利用の 3. 地形図利用の 4. 地形図利用の 5. 東京・関東の 7. 東京・関東東の 8. 東京・関東東の 10. 東京・関東の 11. 東京・関東の 12. 東京・関東の 12. 東京・関東の 13. 東京・関東の 14. 東京・関東の 15. 東京・関東の 16. 東京・関東の 17. 東京・関東の 18. 東京・関東の 19. 東京・関東の	基礎(1) 地形 基礎(2) 距离 基礎(3) 土均 地形的特色(3) 地形的的特色(4) 地形的的特色(5) 会景観、的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6) 会景候的的特色(6)	ジ図の基礎知識 推と面積、等高級 他利用を読む)山の手と下町 の治地 の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一部に の一に の一に の一に の一に の一に の一に の一に の一)低地 と気候のスケ 平野の気候 内陸の気候
到達目標		教育諸学校において、社会および地理の哲 習得し、解説できるようにする。	受業を行う際に必要	要とされる自	然的事象に関す	る基本的な知
事前・事後 学修の内容 事後学習: 高等学校までの地理の内容の修得 事後学習: 授業で取り上げた以外の事例につ						
テキスト、 参考文献	キスト、テキストは指定しかり、参考文献等は講義は					

評価方法

定期試験および課題

03年度以降		地理学概説Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講	購義概要	<u> </u>	授業計画		
地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書(地理Bおよび地図帳)を購入し、自習しておくこと(授業時には必要に			1. 地理学の歴史(1)古代・中世の地理 2. 地理学の歴史(2)近代の地理学 3. 地理学の歴史(3)現代の地理学 4. 地理学の主要概念(1)環境 5. 地理学の主要概念(2)景観 6. 地理学の主要概念(3)地域と空間 7. 地理学の主要概念(3)地域と空間 7. 地理学の主要概念(4)場所と立地(地名) 8. 地理学の主要概念(5)場所と立地(農業立地) 9. 地理学の主要概念(6)場所と立地(工業立地) 10. 地理学の主要概念(7)場所と立地(都市・商業立地) 11. 地理学の主要概念(8)伝播 12. 地理学のトピックス(1)時間地理学		
応じて持参す	⁻ る)。		13. 地理学のトピックス (2) メンタルマップ 14. 地理学のトピックス (3) 地理情報システム 15. 地理学のトピックス (4) 教育と地理		
到達目標		教育諸学校において、社会および地理の哲 習得し、解説できるようにする。	受業を行う際に必要	要とされる自	然的事象に関する基本的な知
事前・事後 学修の内容	, ,,,	学習:高等学校までの地理の内容の習得 学習:授業で取り上げた以外の事例につい	ヽての学習を通じ	て深化を図る	
テキスト、 参考文献	テキス	ストは指定しない。参考文献等は講義中に	こ示される。		
評価方法	評価方法 定期試験および課題				

03年度以降	地誌学概説 I			担当者	秋本	弘章
講義目的、講義	概要		授業計画			
位置を占めてい と地域分析法を	る。地誌理解した	「る地誌学は、地理学の中で重要な 学における主要概念である「地域」 上上で、日本を事例地域として地誌 ことを目的とする。	1. オリエンテー 2.「地域」の概, 3. 地域分析の基 4. 地域分析の基	念 (1) 文献	献・資料・統計の	の所在と検索
本講義では、 した後、地域を 法、統計分析な 日本地誌を扱う *講義科目であ	地誌学の 扱う上で さど地域分 。 。 。 。	の方法、「地域」概念について講義で必要な文献や統計の収集法や利用分析の手法を習得する。その上で、 と習を含むので、色鉛筆、電卓等授 は各自用意すること。	5. 地域分析の基 6. 地域分析の基 7. 地域分析の基 8. 日本地誌(1 9. 日本地誌(2 10. 日本地誌(3 11. 日本地誌(4 12. 日本地誌(5 13. 日本地誌(6 14. 日本地誌(7	藤健(3)統記 藤健(4)空間 藤健(5)地域 6)歴ロ大学 6)を中の分と地域 6)を産業業域の結び 7)地域の結び	計の地図表現間分析 域構造分析 は風土地域文化 と最と地域文化 と大変変容(ででででででででででででででででででででででででででででででででででで	地域) 地域)
▮到達日標 │ 坿	ៃ誌の知識	番学校において、社会および地理の持機と日本の諸地域を事例とした地誌学 た地誌学的見方と方法を習得し、角	学的見方と方法、フ	要とされる地 ならびに、世	域の概念と地域	3分析法、日本 海外の諸地域
事前・事後 事	事前学習:高等学校までの地理の内容の修得しておく。					
テキスト、 参考文献 テキストは指定しない。参考文献等は講義中			こ示される。			
評価方法 定	Z期試験‡	らよび課題				

03年度以降		地誌学概説Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義	長概 要	5	授業計画		
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、北アメリカ (アメリカ合衆国およびカナダ)を事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。			3. 世界の地域相 4. 世界の地域相 5. 北アメリカ地 6. 北アメリカ地 7. 北アメリカ地 8. 北アメリカ地 9. 北アメリカ地 10. 北アメリカ地	構造とその変 構造とその変 構造とそのの変 構造とそのの変 を 地誌(2)自 地誌(3) 歴 地誌(4) 歴 地誌(6) 産 地誌(6) 産産 地誌(7) 産産 地誌(9) 産産	容(3) 国家と経済 メリカの地域区分 然(1) 地形 然(2) 気候 史的背景 口と社会 業と経済(1) 第1次産業 業と経済(2) 第2次産業 業と経済(3) 第3次産業 業と経済(4) 地域構造
	→ <i>&</i> & +v.		15. 北アメリカ地		
円 到達目標 地 を	1 寺教 比誌の 2 事 例	で育諸学校において、社会および地理の技 分知識と日本の諸地域を事例とした地誌5 」とした地誌学的見方と方法を習得し、角	マ栗を付り際に必ら 学的見方と方法、ア 解説できるようにつ	安とされる地 ならびに、世 する。	奥の概念と地域分析伝、日本 界地誌の知識と海外の諸地域
		:習:高等学校までの地理の内容の修得し :習:授業で取り上げた以外の事例につい		て深化を図る	0
テキスト、 参考文献	ニキス	トは指定しない。参考文献等は講義中に	こ示される。		
評価方法 定	三期記	験および課題			

03年度以降	法律学概説 I			担当者	湯川	益英	
講義目的、講	冓義概要	5	授業	授業計画			
私たちの	日常	は、様々なルールに則って営まれ	1.	ガイダンス	く(法の仕組	且み、法の学	び方)
ている。			2.	国家と法一	-人権と統治	台(日本国憲	法)
人間はそ	れぞれ	れが個性をもち、それぞれが異な	3.	財産と法	(民法①)		
った欲望や	₽欲求	をもっているため、相互に矛盾・	4.	家族と法	(民法②)		
対立が生じ	る可能	能性がある。	5.	事故と法	(民法③)		
それゆえ	紛	争を解決し、社会を維持・発展さ	6.	犯罪と法	(刑法)		
せるために	こは、	共通するルール(=規範)が必要	7.	企業と法	(商法)		
になるので	である。		8.	民事裁判と	法(民事記	斥訟法)	
法学aて	ごは、・	そうした諸ルールのうち憲法・民		/	法(刑事記	7 Pr. 146 17	
法・刑法・	商法	・民事訴訟法・刑事訴訟法(いわ	10. 労働と法(労働基準法、労働契約法など)				
ゆる「六法	〕) を	中心に概観して、法律についての	11. 消費者と法 (消費者契約法、PL法など)				
一般知識を	:学び、	道徳・倫理や慣習、条理も含め	12. 国際社会と法(国際慣習、条約など)				
て「法とは	「何か」	という根本問題について考える。	13. 最高裁判例と法(法とは何か①)				
身近で今	7日的	な具体例を素材にして、わかりや	14. 道徳・倫理・慣習、条理と法(法とは何か②)			とは何か②)	
すく活気の)ある!	受業を展開したい。	15.	総括(法と	:は何か③)		
到達目標		な育諸学校において、社会および公民の持 ・民事)裁判の仕組みなど、法と裁判(
事前・事後 学修の内容 授業計画に則して、事前にテキストの記				夏を一読し、	授業後に	再読すること	0
テキスト、テキスト・『エッセンシャル法学』(成)参考文献逐次、補足レジュメを配布し、参考文庫							
評価方法		として定期試験(100%)によって 加点の対象にする。	評価	するが、積	極的な発言	・質問等、技	受業への参加

03 年度以降		法律学概説 Ⅱ		担当者	周 劍龍		
講義目的、調	構義概要		授業計画				
れ人間社会に れ、営まれて 論があり、する。 法学bでは 国家、裁面に たの との との は との は は は は は は は い た が れ に は は に は に は れ に れ に れ に れ に れ に れ に	はては、 ない作こりさい通 法経いか業理でまる。認 法済でをを解る	らに法あり」が意味するように、われわざまなルール(法や規範)により維持さ法とは何かについて従来さまざまな議成(定説)に至っていないのが現状であは何かという問いかけをもとにして、家族、環境、情報など人間の生活に関法がどのように存在し、またどのように例を交えながらみていくこととする。終えた時点で、法とは何かついて受講生したものを提示できるようにするのはる。そのために、受講生が積極的に授業期待する。	1. 2. 3. 4. 5. 4. 5. 6. 7. 8. 4. 5. 6. 7. 8. 4. 2. 2. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	裁法憲 「	単 力の分立		
到達目標		教育諸学校において、社会および公民の技 『・民事)裁判の仕組みなど、法と裁判に					
事前・事後 学修の内容	** 授業前に提定したテキストの資料の部分を予察し、授業の授業の因のを復報する						
テキスト、 テキスト: 末川博編『法学入門〔第6版補訂 彦考文献 随時配布する。			反〕』、六法(有斐區	閣の『ポケッ	ト六法』など。参考資料等:		
評価方法		弍験により成績を評価する(100%)。平常 一定回数以上の欠席は不可と評価する。					

03年度以降 担当者 政治学概説I 杉田 孝夫 講義目的、講義概要 授業計画 政治学の言葉のほとんどは、古代ギリシア、古代ローマ 1. はじめに に起源をもつ. それらは、中世および近代のヨーロッパの 2. 政治の起源 政治的実践のなかで継承され、吟味され、理論化されてき 3. 秩序と無秩序 4. 政体論 た. 政治学の基本概念の来歴と意味を理解することは, 政 治の世界を知るうえで、迂遠のようで、近道である. 政治 5. 自由と法 の言葉には、人間の営みの失敗と成功、あるいは歴史と思 6. 自然法と自然権 想が凝縮している. それらを一つひとつ理解することは, 7. 社会契約論と政治社会 8. 国家 政治とは何かを考える手がかりを得るとともに、かならず 9. 主権 や受講者諸君の教養形成の一助になるはずである. そのよ うな観点から,本講義では,政治学の基本概念の成り立ち 10. 専制と権力分立 と諸概念の連関およびそれら諸概念から構成される政治 11. 議院内閣制と責任内閣制 の世界のなりたちを、概念的かつ体系的に講義する. 12. 君主制と大統領制 13. 国民の概念と国民国家 14. 中央政府と地方政府 15. 自由と自由主義 中等教育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に必要とされる、近現代の政治構造とその特質、 到達目標 国際政治の政治構造と変容など、政治に関する概括的知識を習得し、解説できるようにする。 事前・事後 予習はとくに必要ないが、復習とノートの整理は、毎回丁寧におこなうこと. 学修の内容

指定する教科書はない、それに変わる講義資料を毎回配布する.

参考書は講義中に紹介する.

試験 (60%), 月末小テスト4回 (40点)

テキスト、

参考文献

評価方法

03 年度以降		政治学概説 II		担当者	杉田 孝夫	
に政政たかのは、大学のは、大学のでは、大学をも、大学をも、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは	葉. な基る人いをの,関のそか本う間る考教本お	ほとんどは、古代ギリシア、古代ローマれらは、中世および近代のヨーロッパのご継承され、吟味され、理論化されてき、社会の来歴と意味を理解することは、政立で、迂遠のようで、近道である。政治の営みの失敗と成功、あるいは歴史と思ってもらを一つひとつ理解することは、たる手がかりを得るとともに、かならずき形成の一助になるはずである。そのようなでは、政治学の基本概念の成り立ちよびそれら諸概念から構成される政治と、概念的かつ体系的に講義する。	授業計画 1. 公民権 2. デ政民権 3. で改民となる。 4. 国政権は一の歴家がでの国とといる。主権は、の国政・主権は、の政・主権は、の政・主義が、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、	で 政党の 存在 対	理由 国際政治 リズムとリベラリズム 族主義 主義	
		な 育諸学校において、社会および公民の授 な治の政治構造と変容など、政治に関する				
事前・事後学修の内容	**** 予製はとくに必要ないが、復選とノートの整理は、毎回「鷽になったり」と					
		「る教科書はない,それに変わる講義資料 『は講義中に適宜紹介する.	斗を毎回配布する.			
評価方法	試験	(60%), 月末小テスト4回(40点)				

03 年度以降 社会学概説 I		担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要 私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己(わた	 社会学の歴 社会学の歴 社会の類型 社会の類型 社会の類型 社会の類型 	座とは 史(1) ――A 史(2) ――B 史(3) ――N (1) ――コミ (2) ―ゲマハ (3) ――第一	
し)」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。 「社会学」という学問が成立した経緯をふまえて	10. Identity形成 11. Identity形成 12. Identity形成 13. 補完的アイ 14. 他者と自己 15. まとめ	成と社会 (2) 成と社会 (3) 成と社会 (4) デンティティ の社会学	について

	見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容 学修の内容	らか考えておく。
テキスト、 G .ジンメル『社会学の根本問題(個人と社会)』世界思想社、 E .デュルケム『自殺 参考文献 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、 G .H.ミード『社	
評価方法 授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、期末試験 50%	

13 年度以降		社会学概説Ⅱ		担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要 わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。		 社会的性格 同調様式の 都市化と移 同心円地帯 シカゴの自己が 誇示的消費 文化的再生が 現代社会をを 現代社会を 	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 予言の自己成就——R.K.マートン 8. 誇示的消費——T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 10. 文化的再生産——P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 12. 現代社会を社会学的にみる(1)情報技術とメディ 13. 現代社会を社会学的にみる(2)グローバル化 14. 現代社会を社会学的にみる(3)ローカル化		
到達目標		≠の学説をふまえて、近代社会が抱える問 fiする課題について分析し、見解を提示で			入れながら、現代の日本社会
事前・事後 学修の内容	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。				
テキスト、 参考文献					
評価方法	授業~	への積極性(小レポートや提出物)50%、	期末試験 50%		

03年度以降		哲学概説 I		担当者	河口 伸	
講義目的、講	義概要	E C	授業計画			
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。			1. 哲学とは何7 2. ソクラテス! 3. " 4. ソクラテス 5. プラトン 6. " 7. アリストテ! 8. " 9. スコラ哲学 10. " 11. 科学革命 12. " 13. 合理論 14. "	以前		
▮ 쇠川寺 日 #		な育諸学校において、社会および公民の授業 見を形成した動機や課題、歴史的位置付けな				
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出 して下さい。					
評価方法		- ト点を試験の点に加算 は2/3以上必要)				

03 年度以降		哲学概説Ⅱ		担当者	河口 伸	
講義目的、講	冓義概要	Ę	授業計画			
(春学期に同じ) 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。			1. 経験論 2. # 3. 社会契約説 4. カント 5. # 6. ドイツ観念論 7. # 8. キルケゴール・マルクス・ニーチェ 9. # 10. フッサール・ハイデッガー・ヤスパース 11. # 12. ウィトゲンシュタイン 13. 構造主義 14. 言語哲学 15. 哲学とは何か(2)			
到達目標		で育諸学校において、社会および公民の授業 まを形成した動機や課題、歴史的位置付けな				
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出 して下さい。					
テキスト、 参考文献						
評価方法		- ト点を試験の点に加算 は2 / 3 以上必要)				

03年度以降		倫理学概説 I			担当者	林	永強
講義目的、講	義概要	ī	授業	計画			
倫理学の主な論理を概説し、グローバル化世界における価値の普遍性を模索する。また、共生への可能性をも探究する。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、グループ・ディスカッションを通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理學全般の基礎を幅広く修得するものである。			2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	倫理学の方法 ・ の方表表 I、 ・ の方表表 I、 ・ の方表表 I、 ・ 表表 M で で で で 表表 II、 ・ 表表 M で で で で で で で で で で で で で で で で で	~	養論I 議論III 論IV 議論V バ議論VII 、び議論VIII 、び議論X	
		育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に する考え方を生徒に理解させるための言語表現力を習					基礎的・基本的な事
事前・事後 学修の内容 文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論			する。				
テキスト、 参考文献 授業時に適宜指示							
評価方法	発表は	5よび議論 40%、レポート 60%					

03 年度以降		倫理学概説Ⅱ			担当者	林	永強
講義目的、講	冓義概要	5	授業	計画			
応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。各課題を論理的に分析しながら、実際にどう向き合うか考えていく。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、グループ・ディスカッションを通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理學全般の基礎を幅広く修得するものである。			4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	応応科科環環医医情情とどうない。 「おります」では、 「まります」では、 「まりまする。 「まりますます。 「まりますます。 「まりますますます。 「まりますますます。 「まりますますます。 「まりますますますますますますます。 「まりますますますますますますますますますますますますますますますますますますま	の方法論 理学I、発表: 理学II、発表 I II I、発表表おおよよ I、発表表おおよよ! II、発表表おおよよ II、発表表表表: 理学I、発表:	および議論I および議論II び議論III び議論IV び議論VII	
到達目標		育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に する考え方を生徒に理解させるための言語表現力を ³					基礎的・基本的な事
事前・事後 学修の内容	文献を	と事前に精読し、授業中に積極的に議論で	する。				
テキスト、 参考文献 授業時に適宜指示							
評価方法	西方法 発表および議論 40%、レポート 60%						

03年度以降	宗教学概説 I			河口 伸		
け続けてきた為空状態」にできた置かてきた置かている。 それのうなをはいる。で歴史する目でいる。 でを表する。ででは、大きなのででは、大きなのででは、大きなのでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないできる。 では、大きないできる。 では、大きないできる。 は、たきないできる。 は、たいのでは、大きないできる。 は、たいのでは、大きないできる。 は、たいのでは、大きないできる。 は、たいのでは、大きないできる。 は、たいのでは、大きないできる。 は、たいのでは、大きないできる。	民教について意識的に或いは無意識的に避 、現代の日本人は宗教に関して一種の「真 いれており、そこから様々な問題が昨今生じ は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸 是在についての一般的概括的知識を得られ とを重点とする。 あることにも鑑み、宗教教育のあり方につ の で、 で、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の	授業計画1. 宗教とは何か (1)2. 神話と宗教3. ユダヤ教 (1)4. ユダヤ教 (2)5. キリスト教 (1)6. キリスト教 (2)7. キリスト教 (3)8. キリスト教 (1)10. イスラム教 (1)10. イスラム教 (2)11. イスラム教 (3)12. イスラム教 (4)13. ヒンドゥ教 (1)14. ヒンドゥ教 (2)15. ヒンドゥ教 (3)				
	等教育諸学校において、社会および公民の授業を 史と現在、宗教団体や宗教教育の問題点など、宗					
4. 1. 1. 1.						
▮評価方法	ポート点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)					

03年度以降		宗教学概説Ⅱ		担当者	河口 伸		
は、日本の気が触れ、その本や欧米の義や問題点を	は春学芸教の歴史を選択している。	期に同じ。春学期の続きの後に秋学期 歴史と、日本人の宗教的心性の形成にま 民教的諸概念についての理解を深め、日 において宗教集団が現在持っている意 上で、宗教教育の是非・可能性を論じ ますることは、出来るだけ避けてくださ	 授業計画 1. 仏教(1) 2. 仏教(2) 3. 仏教(3) 4. 仏教(4) 5. 儒教(1) 6. 儒教(2) 7. 道教(1) 8. 道教(2) 9. 日本の宗教の歴史と現在(1) 10. 日本の宗教の歴史と現在(2) 11. 日本の宗教の歴史と現在(3) 12. 宗教団体の諸問題(1) 13. 宗教団体の諸問題(2) 14. 学校教育と宗教 15. 宗教とは何か(2) 				
到達目標		育諸学校において、社会および公民の授業を 現在、宗教団体や宗教教育の問題点など、第					
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出 して下さい。						
テキスト、 参考文献	『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫 文献は随時紹介する						
評価方法		レポート点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)					

03年度以降		心理学概説 I		担当者	田口	雅徳
講義目的、講	義概要		授業計画			
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、心の健康とカウンセリングなどのテーマについて、心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。			 はじめに: 和 心理学のあめる 心理学のあめる 心理学のあめる 他性格ととられる 性格を形成: 大レス②: ストレス③: 現代社会とこれ カウンセリン 	ゆみ①: かみ②: かみ②: かみ②: かみ③: かみ③: かみ③: の組的的レレレスののはいかしたののはのといるのののでは、	的心理学・心理 ュタルトで理学 主義の心理学 分析理論 理格理集 性格双生児研究 性格ピング 生理心理学	
▮到達目標)授業を行う際に必要とされる心理学の反 P人間の行動を心理学的視点で捉えて分析				ない 社会の諸
テキスト、 参考文献 テキストは使用しない。事前事後学習用の参考				適宜提示する	•	
評価方法	授業に	こおけるレポート(20%)と試験(80%)によ)総合的に評価す	3		

	心理学概説Ⅱ			田口 雅徳		
冓義概要	<u> </u>	授業計画				
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを 実践してもらう。これらの学習を通して、心理学の基本的 知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して 自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理 検査やグループワークを実践した後には、結果をレポート にまとめてもらう。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(2000 円)を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申 請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用 紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入 方法について説明するので欠席しないこと。			 心理検査とは? 心理検査の種類と理論 質問紙による性格検査① (Y-G) 質問紙による性格検査② (Y-G) ストレス・コーピング 職業への興味 知能検査 EQS 性格5因子 ブループ・ワークによる自己理解① グループ・ワークによる自己理解② グループ・ワークによる自己理解③ グループ・ワークによる自己理解③ グループ・ワークによる自己理解③ グループ・アークによる自己理解③ デスト・バッテリーに基づく自己理解 			
後 各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあっては、心理検査の結果を						
テキスト、 参考文献 各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。				録時に負担してもらう。		
実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。 これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。				最終レポートを課す(50%)。		
	講さらし深一も はしするで 公問各踏 各 実概 ざっぽく けっ 業 もと何明 民題 回ま 種 旭	講義概要 さまざまな心理検査やグループ・ワークなどを らう。これらの学習を通して、心理学の基本的 してほしい。また、心理検査の結果を分析して 深めてもらうことも本講義の目的である。心理 ープワークを実践した後には、結果をレポート もらう。 は授業で使用する心理検査用紙の実費(2000 してもらう。履修が決定したら自動発行機で申 すること。授業時に申請書と引き換えに検査用 る。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入 て説明するので欠席しないこと。 公民の授業を行う際に必要とされる心理学の 問題や人間の行動を心理学的視点で捉えて分れ 各回で扱う心理検査について、その背景理論が 踏まえて授業で指示した課題をおこないレポー 各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査 に、実施した心理検査の結果をレポートにまとめて	大きでは、 は では、 な は な では、 な は な では、 な は な は な な では、 な は な な では、 な は な な は な な な な な は な な な な な な な な	大学計画 大学計画 1. 心理検査をは? 2. 心理検査をは? 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 職業への興味 7. 知能検査 7. 知能検査 7. 知能検査 8. EQS 9. 性格 5 因子 10. TEG 11. グループ・ワークによる 12. グループ・ワークによる 13. グループ・ワークによる 14. テスト・バッテリーに基づら、まとめ 15. まとめ 15. まとめ 16. ないこと。 17. 本ので欠席しないこと。 18. グループ・ワークによる 19. グループ・フークによる 19. グループ・プークによる 19. グループ・プーグ・プークによる 19. グループ・プークによる 19.		

13 年度以降		東洋史I		担当者	熊谷 哲也	
講義目的、講義概要 (講義目標) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。なお、毎回出席をとる。			 授業計画 1. イスラームの基本事項について説明する。 2. イスラーム教の誕生以前の世界について。 3. 預言者ムハンマド (マホメット) の出現と、時代背景。 4. 最初の4人のカリフ (正統カリフ) の時代について。 5. ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6. アッパース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7. イスラーム教の聖典コーラン、預言者の言行録であるハディースとその解釈。 8. アッパース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9. アッパース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開。 10. マムルーク朝について。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点。 11. 同 その2 12. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13. 同 その2 14. 歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会。 15. まとめ 			
到達目標		ア・ユーラシア大陸に存する国家や地域の 斤し、解説できるようにする。	の成立過程を、政治	台、経済、社	会、文化の特徴などをふまえ	
事前・事後 学修の内容	事前は	こ自分の興味や疑問点をまとめておき、『	事後に内容を整理!	しておくこと	·	
テキスト、 参考文献	- トン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
評価方法	レポー	ートの評価(70%)と平常点(30%)。レ	ポートの表紙は挖	受業で配布する	るので注意すること。	

13 年度以降	東洋史Ⅱ			担当者	熊谷	哲也	
講義目的、講	購義概要	5	授業計画				
(講義目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) イスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。なお、毎回出席をとる。			1. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3. 「西洋の衝撃」によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4. さまざまなイスラーム改革運動について考える。 5. パレスチナ問題とエジブトの近代化について。 6. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 7. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8. 知識人階層であるウラマー、イスラーム法、宗教的寄進(ワクフ)などと近代化との関係について検討する。 9. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10. 20世紀のイスラーム世界について考える。 11. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 12. 同その 2 13. 同その 3 14. 今日のイスラーム主義の主張と展開。 15. まとめ				
到達目標		・ユーラシア大陸に存する国家や地域の 「し、解説できるようにする。	の成立過程を、政治	台、経済、社	会、文化の特徴	女などをふまえ	
事前・事後 学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。						
テキスト、 参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。						
評価方法	レポートの評価(70%)と平常点(30%)。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。						

13 年度以降	東洋史I	担当者	張 士陽
---------	------	-----	------

講義目的、講義概要

テキスト、

参考文献

評価方法

この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。

19世紀前半,中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間,王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。

清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。 講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、 当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていき たいと思います。

中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きが ちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視 野に入れる予定です。

授業計画

- 1. 講義の概要
- 2. 清朝皇帝支配体制
- 3. 清朝の科挙と社会
- 4. 清朝体制下の国際関係
- 5. アヘン戦争
- 6. 南京条約と東南沿海地域の秩序再編
- 7. 太平天国の成立
- 8. 清朝の反撃と太平天国の滅亡
- 9. 回民の反乱
- 10. 洋務運動と洋学の受容
- 11. 開港場の社会と経済
- 12. 周辺地域の宗主権の喪失
- 13. 台湾事件と台湾出兵
- 14. 清仏戦争と台湾の近代化
- 15. 講義のまとめ

到達目標	アジア・ユーラシア大陸に存する国家や地域の成立過程を、政治、経済、社会、文化の特徴などをふまえ
到是自保	て分析し、解説できるようにする。
事前・事後 学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に読み、授業時に紹介した参考文献を事後に読むこと。
テキスト、 参考文献	教科書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社,2008年。
評価方法	平常点 10%,授業への参加度 10%,期末試験 80%

13年度以降 東洋史Ⅱ 担当者 張 士陽 講義目的、講義概要 授業計画 この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をよ 講義の概容 り深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史 2. 朝鮮をめぐる日中関係(1) について講義します。 3. 朝鮮をめぐる日中関係 (2) 朝鮮をめぐる日中の対立は激化し, ついに日清戦争が勃 4. 日清戦争 発します。清朝はその敗北によって体制の存続は危機的に 5. 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 なります。日本に割譲された台湾では住民の激しい抵抗運 6. 変法改革 動が展開します。 7. 戊戌の政変 この時代に伝統の創造により中国の変革を目指す人々, 8. キリスト教布教と仇教運動 さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と 9. 義和団の蜂起 行動を検討し, また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡 10. 義和団戦争 をたどります。 11. 清末の女性の地位と纏足問題 また 19 世紀後半になって「纏足」が問題として認識さ 12. 天足運動の展開 れるようになった過程について検討し、近代中国の女性の 13. 革命派の台頭 社会状況の変化を理解します。 14. 光緒新政と地方自治の試み 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きが 15. 講義のまとめ ちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視 野に入れる予定です。 アジア・ユーラシア大陸に存する国家や地域の成立過程を、政治、経済、社会、文化の特徴などをふまえ 到達目標 て分析し、解説できるようにする。 事前・事後 教科書の指定された箇所を事前に読み、授業時に紹介した参考文献を事後に読むこと 学修の内容

教科書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史19 中華帝国の危機』中央公論新社,2008年。

平常点 10%, 授業への参加度 10%, 期末試験 80%。

13 年度以降	西洋史I				担当者	上村	敏郎
講義目的、講義概要 【講義目的】 本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 【講義概要】 最初に、古代ギリシアの歴史家へロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 *本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。		第2回 第3回 第4回 第5回 第7回 第7回 第8回 第9回 第11回 第11回 第11回 第12回	授業が受験を受験を受験を受験を受験を受けている。 医療 医性	歴史 (I) 歴史 (II) 歴史 (II) 歴史 (II) 実学 (II) 実子 (II) 実子 (II) 実子 (II) また (III) また (IIII) また (III) また (III) また (III) また (IIII) また (IIIIII) また (IIII) また (IIII) また (IIIII) また (IIII) また (IIII) また (IIII) また (IIIII)	は歴史学の誕生 史学への挑戦: 7 と史の台頭) ミクロヒスト! I) グローバルヒ II) 記憶の歴史 V) ナショナリス	アナール学派 リー ストリー ベム研究 型 歴史学	
▮ 쇠!!¬폭 너 755		ッパ・アメリカ大陸に存する国家や地域の成: きるようにする。	立過程を、「	政治、経	済、社会、文化	上の特徴などをふ	まえて分析し、
		講義に備えて高校で使用した世界史の参 講義で扱った歴史家や歴史書について自					
テキスト、 参考文献	講義の中で適宜指示する。						
評価方法	授業内	Nでの課題(100%)、詳細は授業ガイダン	 /スで説明	する。			

13年度以降		西洋史Ⅱ			担当者	上村	敏郎
講義目的、講義概要 【講義目的】 本講義は、ヨーロッパの政治文化史について、特にハプスブルク君主国を中心とする中央ヨーロッパの事例を中心に取り上げながら、理解を深め、世界史の大きな転換点の一つである18世紀という時代のヨーロッパの歴史と文化について考えていく。 【講義概要】 2017年はハプスブルク家の女性君主マリア・テレージア生誕300周年という記念すべき年である。そこで本講義では、彼女が生きた18世紀ハプスブルク君主国における政治文化を様々な側面から考察する。 *本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。			接業計画				o (I) o (II)
到達目標		ッパ・アメリカ大陸に存する国家や地域の成 きるようにする。	立過程を、	政治、経	済、社会、文化	上の特徴などをふ	まえて分析し、
事前・事後 学修の内容		講義に備えて高校で使用した世界史の勢 講義で扱った参考文献について自分の関					
テキスト、 参考文献	F14 424	講義の中で適宜指示する。 本講義の構成は Karl Vocelka, <i>Glanz und Untergang der höfischen Welt</i> , (Wien 2001)を参考にしている。					
評価方法	授業内	Pでの課題(100%)、詳細は授業ガイダン	 /スで説り	月する。			

13 年度以降	西洋史 I			担当者	佐藤	唯行
講義目的、講義概要 を学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで辿った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。			授業計画	教るン徒と国族ユトのダけ建おのの一 が、 たとの社が勢受ける国けユアの が、 大国の社が をであるが、 大国の をであるが、 大国の をであるが、 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に	- 290~1656 - 入国 とユダヤ人 化現象 生のメカニズム 決とナチス政権 主義の特色 ける反立ダヤ主 で主義の出現 堂爆破 三義	からの
		ュッパ・アメリカ大陸に存する国家や地場 ∂析し、解説できるようにする。	域の成立過程を、 項	汝治、経済、	社会、文化の特	う徴などをふま
***	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さ い。					
テキスト、 参考文献	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000 年 集英社新書 740円) 『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995 年 講談社選書 1600円)					
■ 評価 力法		は筆記試験によって決定する。出席はとり 20 問の Quiz 形式。)ません。試験は[自筆ノート、	テキストの持ち	込み可。

13 年度以降	西洋史Ⅱ		担当者	佐藤	唯行	
講義目的、講義	概要	授業計画				
リカを舞台に、 各人種・民族 ズムを解明し、 する様々な努力 こうしたアメ の道を模索せれ 唆を与えるはず	リカ社会の努力は「外国人たちとの共生」 aばならぬ我々日本人にとっても有益な示	 ユダヤの経済力はなぜ解明されなかったのか 情報・通信産業のユダヤ人 メディア産業のユダヤ人 小売業のユダヤ人 不動産業のユダヤ人 伝統的ユダヤ・ビジネス ウォール街のユダヤ人 ユダヤ系投資銀行の興亡 ユダヤ人企業家成功の原因とは 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ョーロッパ起源の反ユダヤ主義 アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 まとめ 				
	ーロッパ・アメリカ大陸に存する国家や地域 て分析し、解説できるようにする。	太の成立過程を、 耳	汝治、経済、	社会、文化の特	徴などをふま	
W 15 - 1 -	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さ い。					
	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000年 集英社新書 740円) 『アメリカ経済のユダヤ・パワー』佐藤唯行(2001年 ダイヤモンド社電子書籍版 1200円)					
評価方法 春	学期と同じ。					

13 年度以降	Ф 地理学 I			秋本 弘章		
講義目的、講義	概要	授業計画				
,	内容は多岐にわたるが、本講義では、人間	1 オリエンテー				
	間にとってどのような意義をもっている	2 自然と人間と		ib. I i more		
, , ,	から、世界の地理を概観し、地理的な知識	3 環境の諸要素	, _	球の特質		
	考え方を身につけることを目的とする。ま	4 環境の諸要素	, (= / 2/	形環境		
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ける主要な概念や方法を説明する。その上	5 環境の諸要素		侯環境		
で、人間の活動	の舞台である自然環境について学習する。	6 環境の諸要素	₹ (4) 植 ₂	生と土壌 生態系		
	づいて地域区分を行い、地域ごとに自然的	7 熱帯地域(1	.) 一自然的	特質と伝統的農業		
基盤とそこで終	り広げられている人々の生活様式を説明	8 熱帯地域(2	2) 一アジア(の稲作		
する。まとめと	して、世界の環境問題について、具体的な	9 熱帯地域(3)―熱帯の開発と問題(1)				
問題をとりあげ	、地球的視点から検討する。	10 熱帯地域(4) ―熱帯の開発と問題(2)				
		11 砂漠地域(1)―自然的特質と伝統的生業				
		12 砂漠地域 (2) ―イスラムの世界				
		13 砂漠地域(3) — 石油資源と近代化				
		14 砂漠地域 (4) ―アラブとイスラエル				
		15 まとめ				
	理的な知識と地理的見方・考え方を習得し、 いう視点から、世界の地理を概観のうえ、			のような意義をもっているか		
	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的 な視点から読み解く。					
テキスト、 参考文献	授業中に示す					
評価方法 定	期考査					

13 年度以降		地理学Ⅱ		担当者	秋本 弘章	
講義目的、詞	冓義概要	5	授業計画			
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。			2 温帯地域(2	3) 温帯混交 4) 温帯混交 5) 北米の温 6) 北米の温 7) そのほか (寒帯地域 問題(1) 食 問題(2) 食 問題(3) 酸	林地域 林地域(ヨーロッパ) 林地域(アジア) 帯地域(2) の温帯地域	
到達目標		りな知識と地理的見方・考え方を習得し、 対点から、世界の地理を概観のうえ、角		-	のような意義をもっているか	
事前・事後 学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的な視点から読み解く。					
テキスト、 参考文献	授業中	授業中に示す				
評価方法	定期者					

13 年度以降	地誌学I		担当者	大竹 伸郎			
講義目的、講義	概要	授業計画					
講義の目的に	は地理的なものの見方や考え方を学ぶこと	1 オリエンテー	ーション				
で、自然環境の	成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化	2 我々の暮らし)と自然環境				
と自然環境の関	わりについて理解し、現代社会に関する基	3 環境の諸要素	k①(地球の)	成り立ちと地形)			
礎的な素養を身	たつけることである。	4 環境の諸要素	ķ②(地球の)	周りの気団と気候)			
講義では、現	代社会の暮らしの基盤となっている地球の	5 環境の諸要素	表③(地球の	直生と土壌)			
自然環境や各地	域によって異なる人文現象(衣食住など)	6 環境の諸要素	核④(地球に)	暮らす様々な生き物)			
に焦点をあて、	人の暮らしと自然の関わりについて講義す	7 熱帯地域①	(熱帯地域の	人々の暮らと文化)			
るとともに、現	代の社会生活が起因となっている世界規模	8 熱帯地域②	8 熱帯地域② (焼畑農業と熱帯の稲作)				
の諸問題につい	ても取り上げる。	9 熱帯地域③(熱帯開発と環境問題1)					
		10 熱帯地域④(熱帯開発と環境問題2)					
		11 乾燥帯地域①(乾燥帯地域の人々の暮らしと文化)					
		12 乾燥帯地域② (一神教と自然環境)					
		1 - / - / - / - / - / - / - / -		ョナリズムの台頭)			
		14 乾燥帯地域④(中東問題の遠因と現状)					
		15 まとめ					
┃ ┃ 到達目標	誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習	得し、特定の地域・	や都市の構造	とその変容を把握・分析のう			
	、解説できるようにする。						
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。						
テキスト、 参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房						
評価方法 1	定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対象とする。						

13年度以降	地誌学Ⅱ			担当者	大竹	伸郎		
講義目的、詞	構義概要	2	授業計	·画				
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象(衣食住など)に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。			2 温· 3 温· 4 温· 5 温· 6 温· 7 温· 8 冷· 9 寒· 10 山· 11 世· 12 世· 13 世·					
到達目標		学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得 解説できるようにする。	得し、特	定の地域	や都市の構造	亡とその変容を推	2握・分析のう	
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。							
テキスト、 参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房							
評価方法		定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対象とする。						

13 年度以降 地誌学 I 担当者 犬井 正

講義目的、講義概要

本講義では地域差が自然環境と経済環境、および社会環境と文化環境がどのように関連して生み出されてきたのかを、地理学・地誌学の視点から地域生態システムとして明らかにする。まず、環境の諸要素を概観し、特に気候・植生の特色、成因、構造について学習する。その後、エコツーリズムが地域資源の保全や地域振興に果たす役割を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式をスライド、VTRを用いながら説明する。基本的には、自然資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となることを学修する。

授業計画

- 1. オリエンテーションー講義の概要
- 2. 地域生態論と自然生態論
- 3. 地域生態論とは-地理学と地誌学
- 4. 環境の諸要素(1)気候環境
- 5. 環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温
- 6. 環境の諸要素(3)植生と生きもの
- 7. 地域生態論とエコツーリズム
- 8. 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式
- 9. 熱帯地域(2)熱帯林の開発
- 10. 熱帯地域(3)熱帯林の環境問題
- 11. 熱帯地域(4)熱帯林の保全
- 12. マングローブの生態
- 13. マングローブ林の保全とエコツアー
- 14. キャリングキャパシティーとゾーニング
- 15. 講義のまとめー自然生態系と社会生態

到達目標地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得し、特定の地域や都市の構造とその変容を把握・分析のうえ、解説できるようにする。事前・事後 学修の内容テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。プキスト、参考文献大井正『エコツーリズム:こころ躍る里山の旅ー飯能のエコツアーに学ぶ』丸善出版評価方法定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対象とする。

 13 年度以降
 地誌学Ⅱ

 担当者
 犬井 正

講義目的、講義概要

「地域生態論 a 」に続いて、「地域生態論 b 」では人間 社会をシステム概念を用いて捉え、地形の成因、構造、人間生活とのかかわりを学習し、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。その際に、エコツーリズムを取り上げ地域資源の保護や保全にどのような役割が果たせるのかを、埼玉県飯能市を取り上げエコツーリズムの実態と方法について学修する。

授業の際にスライド、VTRを用いながら説明する。基本的には、そのような資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となる。地域における資源や環境の持続的な利用の仕組みを、エコツーリズムを取り上げながら明らかにし、それらの資源の存在形態や存在意義を的確に捉える。

授業計画

- 1. オリエンテーション-講義の概要
- 2. エコツーリズムと地域生態論
- 3. 山地のエコツアー(1) 山地の自然環境
- 4. 山地のエコツアー(2) 山地の自然生態系の特徴
- 5. 山地のエコツアー(3) 高度帯の利用と伝統的生業
- 6. 山地のエコツアー(4) 山地資源の開発と観光化
- 7. 山地利用のゾーニング
- 8. 山地の環境容量と脆弱性
- 9. 埼玉県飯能市のエコツアーの事例(1)
- 10. 埼玉県飯能市のエコツアーの事例(2)
- 11. 埼玉県飯能市のエコツアーの事例(3)
- 12. 埼玉県飯能市のエコツアーの事例(4)
- 13. 世界の環境問題-地球環境問題の諸相 14. 世界の環境問題とツーリズムー環境破壊と保全
- 15. 講義のまとめー持続可能な生活様式

到達目標 地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得し、特定の地域や都市の構造とその変容を把握・分析のうえ、解説できるようにする。
事前・事後
学修の内容 テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。

テキスト、 参考文献

大井正『エコツーリズム:こころ躍る里山の旅ー飯能のエコツアーに学ぶ』 丸善出版

評価方法 定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対象とする。

講義目的、講義概要	授業計画					
		授業計画				
到達目標						
事前・事後 学修の内容						
テキスト、 参考文献						
評価方法						

						ı		
┃ 13 年度以降		地誌学Ⅱ			担当者	浦部	浩之	
					7—	1113 141	1,1,10	
講義目的、講	義概要	5	授業	計画				
地球上にい	る人	間の約8割は発展途上国に暮らしてい	1.	地球環境(1)	: 地球環境問	問題と南北対立		
る。そして世	界人口	コの約13%に当たる約9億人は、国際貧	2.	(2)	: 貧困と環境	竟破壊		
困ライン (1日	1.9ド	ル) 以下の生活を強いられている。 我々	3.	(3)	: 持続可能な	は開発の模索		
は今この問題は	に正面	fから向き合わなければならない。たと	4.	(4)	: 地球温暖化	と問題と南北関	係	
えば、経済開発	発は重	i 要だがそれを環境に負荷を与えずに行	5.	南の開発(1)	:第三世界の)独立と開発援	助戦略	
えるのか。市場	場経済	fと自由競争の社会で脆弱な貧困層にい	6.	(2)	: ナショナリ	リズムと格差の	拡大	
かなる社会政策	策(教	育・保健・福祉)を進めていけばよいの	7.	(3)	: 貧困と「丿	、間開発」		
か。先進国に、	よる開	見発援助はいかにあるべきか。今日の新	8.	(4)	: 国連の新し	い開発戦略		
興国の成長は	、国際	祭関係の構図をいかに変えつつあるの	9.	9. 資源問題(1):世界の食糧問題				
か。			10.	10. (2): 水問題と砂漠化問題				
本講義では、	こうし	た現代世界における政治的・地理的課	11.	11. (3): 人口増加とエネルギー問題				
題について考え	え、そ	れを通じて国際関係を見つめる視野を	12. 新しい争点(1): 自然災害と防災					
涵養すること	を目標	思とする。	13. (2): 核拡散と原子力利用					
			14.	((3): グロー/	バル化と金融問	題	
			15.	授業のまと	め			
到達目標	地誌学	生の知識と地誌学的な見方・考え方を習得	退し、	特定の地域	や都市の構造	とその変容を批	型握・分析のう	
	え、解	罪説できるようにする。						
事前・事後 学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。							
テキスト、 参考文献	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。							

13 年度以降		国際法 I		担当者	井上 秀典		
講義目的、講	養概要	5	授業計画				
 [講義目的] 国際社会において私たちと法がどのように関わっているのかを理解する。また、国際法と国内法が密接に関係していることも理解する。 [講義概要] 国際社会における法のしくみおよび特徴を概観する。一見、私たちとあまり関係ないと思われがちな国際法であるが、どのような関わり合いがあるのかを考察する。 			1. ガイダンス 2. 国際法の形成 3. 国際法の成立 4. 条約のしくみ 5. 国際法と国内 7. 国家承認と国内 7. 国家承認と政 8. 主権、主権免 9. 平等権、不干 10. 外交関係とほ 11. 領事関係とほ 12. 国際法と管轄 13. 国際責任1 14. 国際責任2	形式 法 府承認 除義務 国際法			
			15. まとめ				
到達目標	国際法	この意義や基本的な考え方を正確に理解し	、個別の事象につ	いて見解を表	示すことができるようにする。		
テキスト、 参考文献					文献:小松一郎『実践国際法』		
評価方法	学期末試験の成績 100%で評価する。						

13 年度以降		国際法Ⅱ		担当者	井上 秀典			
講義目的、講	講義目的、講義概要			授業計画				
 [講義目的] 国際社会において多様な分野での紛争およびその解決について理解する。また、国際法と国内法が密接に関係していることも理解する。 [講義概要] 国際法が国際社会の多様な分野でどのように発展してきているのかを概観する。特に国家間の対立や国際紛争に対してどのような解決が図られているのかを考察する。 			1. ガイダンス 2. 領域および領 3. 領海、排他的 4. 大陸棚、深保 5. 国際人を国際 6. 難民と国 7. 国際環境動平和 9. 気候争の平向 10. 紛争の平向と目 12. 平和的維持 13. 自衛権 14. 武力行使に関 15. まとめ	経済水域、公 医史 際法 的解決 国際法 舌動	海			
到達目標		に関する特定の事例、重要な判例、学記 うにする。	党を正確に理解し、	個別の事象	について見解を示すことがで			
事前・事後 学修の内容								
テキスト、 参考文献					文献:小松一郎『実践国際法』			
評価方法	学期末	ミ試験の成績 100%で評価する。						

13 年度以降		英語通訳		担当者	渡部 富栄	
講義目的、詞	冓義概要	- E E	授業計画			
講義目的:通訳とは何かを理解し、英語通訳の仕事を知り、通訳訓練法を体験します。 講義概要:通訳のメカニズムを説明したあと、通訳者という仕事について概説します。通訳者の役割と倫理規定も考察します。通訳スキルを説明し、それを身につけるための基礎訓練を実施します。また、通訳に必要な声の出し方の基本を示し、実際にやってみます。最終的には、簡単な通訳ができることを目指します。			6. 通訳訓練法② 7. 逐次通訳① 8. 逐次通訳② 9. 逐次通訳③	上事 ・発声方法の: シリプロトラロタイク シサイトを次テートを ガリートを ガリートを ガリートを ガリートを が見た。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ファット・	
到達目標	英語证	通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本ス 学	ドルを習得し、英語	語通訳ができ	るようにする。	
事前・事後 学修の内容 予習復習をしっかりしてください。						
テキスト、 参考文献 授業中にプリントを配布します。						
評価方法	授業中	コのテスト (50%)、授業中の発表 (10%)	、レポートなどの	提出物(20%	。 (3)、積極的な取り組み(20%)	

13 年度以降	英語通訳			渡部 富栄		
講義目的、講義概要	要	授業計画				
(半期完結科目の†	とめ、講義目的等は春学期と同じ)					
到達目標						
事前・事後 学修の内容						
テキスト、 参考文献						
評価方法						

13 年度以降	社会経済史 a		担当者	新井 孝重	
落とした! 期の源平 [・] 建した勧 て、中世 い。	々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を時代であった。この講座では、平安末争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再進聖重源の活動を観ることによっ社会に果たした仏教の役割を考えた中を再建した男の時代	⑤ 出現した大⑥ 雨を突いて⑦ 重源の記憶⑧ 法然と重源⑨ 合戦の中の	るか から運ぶか 群勢へ 黒田荘(くろ 黒大人 無 大人 大会 業 社会の出現	らだのしょう) :う)と飢餓・疫癘 (えきれい)	
到達目標 歴	史学的観点から、社会と経済の関連性・関係	係性について分析し	し、見解を提	示できるようにする。	
事前・事後 学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。				
テキスト、 参考文献	考文献 新井孝重『黒田悪党たちの中世史』	』(NHK ブックス)	、新井孝重	『楠木正成』(吉川弘文館)	
評価方法 試	験成績(100%)による。				

13 年度以降	社会経済史 b			担当者	新井 孝重	
講義目的、講義	T 要		授業計画			
 ○ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 (1) 戦乱の中の伊賀(2) 自立する村(3) 戦国のコンミューン 			④ 国人領主の⑤ 自立する村⑥ 南都へたち、⑧ タテのカコン⑩ 物部のの規律⑪ 崩れ去る離と⑪ 兵農分離と⑬ 兵農分離と	侍の行動は現 一向起ヨミと、国石共 を力ン和へ世・高同体を力ン和へ世をを は、国石共 の一平賀中制体を は、国石共	了 话音	
到達目標 歴史	2学的観点から、社会と	経済の関連性・関係	性について分析	し、見解を提	示できるようにする。	
事前・事後 学修の内容	授業関連事項を図書館で調べる。ノートに整理する。					
テキスト、 参考文献	参考文献 新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHKブックス)、新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)					
評価方法 試馬	定成績(100%)による。					

13 年度以降		社会思想史 a	社会思想史 a			
講義目的、講	義概要	<u> </u>	授業計画			
現代を生き	る私だ	たちの政治や経済に関する見方・考え方	1. 授業の狙いに	ついて		
を支配してい	る近付	代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史	2. 「社会」とい	う思想問題		
的にたどる。	講義に	は通年で完結する形をとる。	3. 「市民社会」	の原型と近代	的再生	
前期では、	最近り	「アリティを失ってきたかにみえる「社	4. ルネッサンス	思想と古典古	代文化	
会」という観	念を改	女めて分析してみることから始め、その	5. マキャベリと	『君主論』		
「社会」を学	問的に	こ対象化する動きがはじまったルネッサ	6. マキャベリと	近代政治理論	ì	
ンスから宗教	改革の	つ時期を取り上げる。キリスト教的な世	7. ユートピアと	いう思想		
界観との対抗	あるい	いはその変革のなかで、新しい価値観や	8. トマス・モア	と『ユートビ	°ア』	
生き方が模索	され刑	が成される時代である。	9. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派			
後期の講義	~ 2	つながる問題意識として、「国家という	10. ルターの改革運動と神学			
まとまり」と	「市場	易というまとまり」への二重の視点が生	11. ルターの政治思想			
まれてくる過	程に目	目を向けたい。	12. ルターの職業思想			
			13. カルヴィニズムの宗教思想			
			14. カルヴィニズムと近代的エートス			
			15. まとめー主権国家と市場社会			
到達目標	主要	な社会思想家や各種の社会思想につ	ついて理解し、	人生観、世	界観を養い、社会を批判	
判廷日保	的に	洞察できるようにする。				
事前・事後 学修の内容						
テキスト、 参考文献 テキストは使いません。参考文献は適宜紹介						
評価方法	期末の)定期試験で評価します。				

13 年度以降		社会思想史 b	社会思想史 b			
講義目的、講	義概要	Ę C	授業計画			
西欧では	17 世	紀から近代市民社会の見取り図を描く	1. 授業の狙いに	ついて		
作業がはじま	る。伝	芸統的な自然法思想を手がかりに、個人	2. 西欧自然法思	想の源泉		
が自分の自然	権を与	Fるため、契約という作為を通して国家	3. 自然法思想の	近代的転回		
を作るという	社会	契約思想が生みだされる。これと並ん	4. 社会をめぐる	自然と作為(1)…ホッブズの利己心	
で、社会を担	!う「国	国民」が経済的主体として自覚され、国	5. 社会をめぐる	自然と作為(2)…ホッブズの国家観	
家と区別され	る市国	R社会という観念が生まれてくる。この	6. 個人を守るこ	と(1)…ロック	の所有的個人主義	
あたりの展開	目をホ	ッブズから初めて 19 世紀のマルクス	7. 個人を守るこ	と(2)…ロック	の政治的自由主義	
までたどって	みる。	ここでも「国家というまとまり」と「市	8. 文明化という	課題…フラン	ス啓蒙思想たち	
場というまと	まり」	が隠れた主題となる。	9. 風土と社会…	モンテスキュ	一の権力論	
			10. 個人と社会の一体化(1)…ルソーの歴史認識			
			11. 個人と社会の一体化(2)…ルソーのデモクラシー			
			12. 社会は自然に発生する(1)…ヒュームの自然法批判			
			13. 社会は自然に発生する(2)…スミスの市場社会秩序			
			14. 社会的に生きる(1)…社会主義の思想			
			15. 社会的に生きる(2)…マルクスの思想			
到達目標	主要	な社会思想家や各種の社会思想につ	ついて理解し、	人生観、世	界観を養い、社会を批判	
判廷口保	的に	侗察できるようにする。				
事前・事後 デキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。					大事です	
学修の内容	惨の内容					
テキスト、 テキストは使いません。参考文献は適宜紹介						
参考文献			レ エ y。			
評価方法	評価方法 期末の定期試験で評価します。					

13 年度以降		社会思想史 a			担当者	犬塚	悠
講義目的、講	講義概 要	ē C	授業	計画			
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの 思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの 考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的 には、今学期は日本にも大きな影響を及ぼした仏教と儒教 が、それぞれインドと中国でどのように誕生しその後発展 していったかを中心的に扱う。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自 覚することは、国際社会において活躍する際に強みとな る。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表して いるように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊か なものにできるという意識をこの講義を通して養ってほ しい。				(インド) (インド) (インド) (インド) (インド) (チ国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国)	古原原大大)子子子子子在の原大大)子子子子子子子の原大大)子子子子子子を表している。 一切 の	公教 易	
▮ ∽위→폭 더 쟈 │		☆社会思想家や各種の社会思想について思 ニする。	里解し	、人生観、†	世界観を養い	、社会を批判的は	こ洞察できる
事前・事後 学修の内容	授業中に配布された資料、指示された参考文献をよく読むこと						
テキスト、 参考文献	- 投業中に通貨指示する						
評価方法	レポー	- ト 50%、授業内小試験 50%					

13 年度以降		社会思想史 b			担当者	犬塚 悠	
講義目的、講義概要 本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的には、今学期はインドと中国で誕生した仏教・儒教等がどのように日本に影響を与えてきたか、古代からの日本思想史を通して見ていく。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.	 古代日本の宗教観・人間観 仏教の受容、平安時代の仏教 鎌倉時代の仏教 江戸時代の儒教 江戸時代の民衆の思想 国学・神道・洋学・幕末の思想 啓蒙思想、キリスト教、国粋主義 			
)保存	
到達目標		☆社会思想家や各種の社会思想についてst こする。	里解し、	、人生観、†	世界観を養い	、社会を批判的に洞察できる	
事前・事後 学修の内容	- 一 授業田に帰布された登料 - 掲示された宏差す				献をよく読むこと。		
テキスト、 参考文献	授業中	Pに適宜指示する。					
評価方法	レポー	- ト 50%、授業内小試験 50%					

13 年度以降		外国経済史 a			担当者	御園生	眞
の特徴と問題 (注意事項) ①最新のシラー 望者は必ず ②出席は第1回 定されない。 ③試験は定期 う。 ④評価方法は、	起点で多れています。 八出まり 記試験 は、2年	であるイギリス産業革命を対象とし、そ 多面的に考察する。 を第1回の授業で配布するので、履修希	2. F 3. ½ 4. 5. ‡ 6. 7. ‡ 9. 2. 10. 4 11. 12	ガイダのでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、	前提条件(1) (2) 工場制生産の 術革新 術革新 技術革新: 釤	ま道の出現 ま市場	
		≧済の歴史について専門知識を習得し、タ ≒できるようにする。	小 国経済	所の成長過程 かんしゅう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	呈やその要因	等について分析の	うえ、見解
テキスト、 参考文献 第1回の授業で説明する。							
評価万法 1	欠席がる。	、4回以内であることと、定期試験成績 €	60 点以	上の両方の	条件を満たっ	すことが単位認定の	の条件であ

13 年度以降		外国経済史 b			担当者	御園生	眞
講義目的、請	義概 要	Ī	授業計画				
してドイツを	と取り上 比較して	て産業革命を展開した後発国の事例と 上げ、ドイツ産業革命の特徴と問題点を かつ考察する。		序論(続) 産業革命の 産業 上) 産業 上) ・ () ・ ()) (夜のドイツ経 前提条件の刑	が成(1)プロイセン が成(2)ドイツ関税 1)綿工業 2)製鉄業 技術教育	∕改革
到達目標		経済の歴史について専門知識を習得し、タ トできるようにする。	小 国経	済の成長過程	呈やその要因	等について分析の	うえ、見解
事前・事後 学修の内容							
テキスト、 参考文献	春学期	月に同じ。					
評価方法	春学其	に同じ。					

13 年度以降		日本思想史 a		担当者	芹口 真結子	
講義目的、調	冓義概要	<u>.</u>	授業計画			
【目的】			1. 講義の概要	(ガイダンス))	
本講義では	は、確な	いな史資料や、先行研究をもとに、近世	2. 思想史研究の)方法		
社会に生きた	た様々な	は階層の人々が有する意識・思想の特質	3. 近世思想史の)前史一戦国	期の諸思想―	
が何であった	このか、	考えられるようにします。	4. 幕藩領主の政	女治思想—「	仁政」と「百姓成立」―	
「明るい江	工戸時代	弋」あるいは「暗い江戸時代」といった	5. 近世の学問①)—儒学—		
イメージで辿	丘世社会	☆を捉えるのではなく、さまざまな視角	6. 近世の学問②	2)—国学—		
から多面的に	こ時代を	と捉えていく方法を身につけて下さい。	7. 近世の学問③―医学と医療環境―			
			8. 近世の宗教①―僧侶の営み―			
【概要】			9. 近世の宗教②―近世神社の特質―			
近世期に生	主きた丿	し々、具体的には幕藩領主層、宗教者、	10. 近世の宗教③―諸宗教者の活動―			
儒学•国学者	皆、民衆	で、被差別民の思想や、近世日本思想史	11. 近世民衆の思想①―生活知と通俗道徳―			
に関わる様々	ゃなトヒ	ピックの紹介を通じて、近世日本に存在	12. 近世民衆の思想②―民衆宗教の誕生―			
した諸思想~	への理角	翼を深めることを目標とします。	13. 近世の被差別民―「河原巻物」からみる意識―			
毎回の講劇	衰では!	トレポートを書く時間を設け、講義内容	14. 幕末期の思想―対外的危機をめぐって―			
の理解度をは	はかり 言	とす。	15. まとめ			
到達目標 思想に触れることの意味を理解したうえで、「現代の私たちを奥深く規定している日本の諸原						
事前・事後 学修の内容 講義で配布するプリントや、紹介した参考文献			犬を積極的に読ん [*]	でください。		
テキスト、参考文献	アキスト付便用 ません 参考で献け授業中に					

評価方法

評価方法

平常点 40%、テスト 60%の割合で評価します。

13年度以降		日本思想史 b			担当者	矢森 小映子
講義目的、詞	構義概要	5	授美	業計画		
【目的】			1.	ガイダンス		
現代の私力	こちがも	っている世界観や自国イメージは、い	2.	洋学と洋学者	<u>×</u>	
かに形成され	1、流布	「し、再生産されてきたのでしょうか。	3.	近世初期の世	世界観―「三[国」世界観の展開―
本講義ではる	その展開	過程を、主に近世日本の洋学者とその	4.	地球球体説の)衝撃—「中[国」イメージの変容―
周辺の人々の	の事例を	を通して歴史的文脈の中で検討してい	5.	「国益」と自	国認識—司月	馬江漢と本多利明―
きます。私だ	きちが当	行たり前に思っている世界観やイメージ	6.	世界地理学者	・山村才助(の世界観
がいつどの。	ように飛	成され、どのような問題を抱えている	7. 国学者・平田篤胤の洋学受容と世界観			
のか、考える	るきっか	っけにつなげてください。	8. 洋学と江戸の社会―渡辺崋山と小関三英―			
【概要】			9.	藩と日本をめ	うぐる意識―活	度辺崋山を事例に―
毎回一つの	のテーマ	に沿って、一人ないし複数の人物をと	10.	蘭書から見え	とる一九世紀の	の世界
りあげます。	彼らσ) 史料を読み、その世界観と背景にある	11.	箕作省吾『坩	輿図識』の	世界―幕末の世界観―
近世社会・見	思想の特	評質を考察していきます。近世の人々の	12. 只野真葛の世界観―近世の一女性が見た世界―			
世界観を史料	斗から読	表み取れるようになること、さらにその	13. 近代への展望―新たな世界観との出会い―			
形成過程を歴	医史的文	て脈の中で捉える作業を通し、思想史へ	14. 講義まとめ(確認テスト)			
の理解を深め	かること	を目標とします。	15.	講義まとめ		
到達目標	到達目標 思想に触れることの意味を理解したうえで、「日本」と「日本文化」について様々な角度から客観的に考え 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想を分析し、見解を提示できるようにする。					
事前・事後 学修の内容	プリン	/トを見直して講義内容を復習するととも	った、	参考文献を科	責極的に読ん	で講義に臨んでください。
テキスト、 参考文献	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					紹介します。

平常点 30%、レポート 30%、テスト 40%の割合で評価します。

13年度以降	経済学史 a				担当者	黒木	亮
講義目的、講義	機要		授業計画				
論への理解を深 が実際に取り組 することにある 【講義の概要】 近代自由主義	という。	経済学の形成過程を追体験し、経済理かくための手がかりとして、経済学者間題や社会的背景、時代的文脈を考察の確立を基礎づけた17世紀の経済思経済思想までを通覧する。	12 101	ロファ市ジトデ大セジ功力とソ・会シスッ経シッカール・ファダ	ヒューム:市:ワ・ケネー:スミス・ケネ:の仕ばンートーにリカー・ロッツ者をデートーにリカーをデートーにリカーをデートーには、まれとは、アルクス	• • •	支えた思想 ノミスト 父 ズ幸福」の提唱 「人口の原理」 たの体系化
▮剁達日樗	-0. 4	の形成過程を追体験することで経済理論 、時代的文脈について分析し、見解を提		.,,		実際に取り組ん	だ問題や社会
事前・事後 学修の内容	~ 毎回授業級(時に耐毒するブルント約が同の議業策配の指摘筆による。 テキストの復報なよび予報						
				学出版会.			
評価方法	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゠	ト・期末試験のいずれか、ないし両方。					

13年度以降	経済学史 b			担当者	黒木 亮
講義目的、講義	概要	授業計	画		
【講義の目的】		1.	ガイダン	ス:春季から	が季への橋渡し
本講義の目的に	は、経済学の形成過程を追体験し、経済理	2.	グスタフ	・シュモラー	: 新歴史学派の社会政策思想
論への理解を深る	めてゆくための手がかりとして、経済学者	3.	カール・	メンガー:主	観主義のミクロ経済学
が実際に取り組ん	んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察	4-5.	ジェヴォ	ンズとワルラ	ラス:経済学の数理科学化
することにある。		6-7.	アルフレ	ッド・マーシ	ャル:「冷静な頭脳と暖かい心」
		8-9.	ソーステ	ィン・ヴェブ	レン
			大量生産	•大量消費社	会の制度分析
【講義の概要】		10-11.	ヨゼフ・	ンュンペータ	_
19世紀末の経	済思想から、われわれの社会を支え、その	企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス			
将来を基礎づけ	るであろう今日の経済思想までを通覧す	11-12. ジョン・メイナード・ケインズ			
る。		貨幣経済のマクロ分析			
		13-14. ケインズ以降の経済学			
			新旧ケイ	ンジアン、オ	ポストケインジアン、
			シカゴ学	派、合理的	期待形成学派、ハイエクetc.
		15.	まとめ		
	済学の形成過程を追体験することで経済理 背景、時代的文脈について分析し、見解を抗		.,		実際に取り組んだ問題や社会
事前・事後学修の内容毎日	***・*** 毎回授業級で時に帰布するプリントの返回の議表策略の指揮筆による。テキストの復懇なよび争懇				ストの復習および予習
テキスト、高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会.参考文献根井雅弘『経済学の歴史』講談社.					
評価方法	ポート・期末試験のいずれか、ないし両方。				

13 年度以降		日本国憲法			担当者	加藤 一彦
講義目的、講	講義目的、講義概要			1		
ンポイント的 毎回、判例 たい。	りに日本 削を読み	目講義を行う。半期完結講義なので、ピ ○の人権問題を扱うことになる。 →ながら、この国の人権状況を考えてみ ○他、『六法』と判例は必ず持参するこ	2. 3.	憲法憲本の神神神神身会会概主国下的的的的の権権会養憲の自自自自:	の 法平由由由由生教答れ	曲 由/報道の自由 由/プライバシーの権利 D人権
到達目標	日本国うにす	图憲法の入門的知識(人権に関する知識) ⁻ る。	を習得し	、基本的	的人権の尊重	に関して見解を提示できるよ
事前・事後 学修の内容						0
テキスト、 参考文献 加藤一彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 3 版]』(北樹出版)						
評価方法	定期記					

13 年度以降	日本国憲法	担当者	加藤 一彦	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
(半期完結科目の	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

		担当者	
講義目的、講義概要	 授業計画		
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			
_			

13 年度以降		日本国憲法		担当者	L. ペドリサ
講義目的、講	義概 要	5	授業計画		
は最高法規の て、すべての り日本国憲法 本国憲法の重 権保障の仕組 思われがちで	性質を 法規 能 に が 機 能 は み を う こ さ さ は あ ま が ま が ま う た う こ る う こ る う こ る う こ る こ る こ る こ る こ る	回国には「憲法」という法がある。憲法 を有し、国法の上位に位置するものとし 近の根拠となる。日本では、70年にわた 起し続けている。この講義において、日 限定の解釈を中心に、統治構造および人 だぶ。また、日常生活から離れた分野と もものの、憲法がどれほど我々の日常生 いるかを考えることが目標である。	6. 天皇制7. 平和主義8. 人権の理9. 人権総論	政権 割 議院内閣制 裁判制度 ・ 歴史・特質 由由由由由由由由由	- Indiana
到達目標	日本国うにす	国憲法の入門的知識(人権に関する知識) ⁻ る。	を習得し、基	本的人権の尊重	に関して見解を提示できるよ
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7				、2016年)
評価方法	定期詞	大験 70%、授業課題 30%			

13年度以降	コンピュータ入門 a			担当者	各担当教員		
講義目的、講義概要 この講義は、大学でのレポート作成や調査研究において必要となる情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの利用方法を、実習により身につけることを目標とする。 講義を通じ、コンピュータの操作方法だけではなく、社会に出てから必要となるコンピュータとネットワークの基礎的な技術を習得する。 なお、授業計画の項目が取り扱われる順序や時間配分については、担当教員により異なる。			 講義概要、ログイン、ログアウト、利用環境の設定 OS、システム概要、コンピュータの構造 インターネットの基礎 情報検索の基礎と応用 ワードプロセッサの機能 レポート作成 計算式、関数:合計、平均、相対参照と絶対参照 さまざまな関数を使った計算:IF、AND、OR 関数の応用:VLOOKUP、IFとの組み合わせ グラフの作成 データの並び替え、目的データの抽出、操作の記録 データの集計:ピボットテーブル プレゼンテーションソフトの基礎と利用 プレゼンテーションのための調査資料作成 効果的なプレゼンテーション方法と評価 				
到達目標	般的なコンピュータ知識、および	、操作方法を	を習得し、学習等	等を行う際 に	活用できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	アキストで指定された甾마を里面に特談する			こと。			
テキスト、 参考文献 立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要			要な情報基礎』日経 BP 社				
評価方法 担	当教員の指定する方法によって総	合的に評価す	ける。				

13 年度以降		コンピュータ入門 b		担当者	各担当教員	
講義目的、認	冓義概要	5	授業計画			
率的に処理し 最適な状態を 表計算を応り 技法について また、現代 ネットワーク そのために JavaScript する。 なお、授業	し、限算で を割して で社会を が会会で は、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	可効活用することで、将来的な計画を効っれた資源を効率的に配分するといった一ることが可能となる。この講義では、さまざまな問題の最適な答えを求めるで自分の持つ情報を発信するためには、同することが不可欠である。講義では、となる HTML ファイルの作成とプログラム作成の基礎についても学習の項目が取り扱われる順序や時間配分に関により異なる。	分析 5. 効率的な作業 6. 限られた資物 7. Web ページ 8. 簡単な HTM 9. JavaScript 10. JavaScript 11. JavaScript 12. JavaScript 13. JavaScript 14. JavaScript	立て (ででででです。 What-if が にでです。 What-if が にできる。 What-if が にできる。 という。 ML 単場解数ルインはのではできる。 できる。 ML にいる。 W にいるがいるが、 ML にいるが、 ML にいる	分析、ソルバーストグラム、移動平均、回帰計画問題:線形計画法 の作成 グラム作成 ログラム作成 ログラム作成 ログラム作成	
到達目標	一般的	ウなコンピュータ知識、および、操作方泡	去を習得し、学習等	等を行う際に	活用できるようにする。	
事前・事後 学修の内容	テキス	くして指定された箇所を事前に精読するこ	- と。			
テキスト、 参考文献 立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日				圣 BP 社		
評価方法	評価方法 担当教員の指定する方法によって総合的に評			価する。		

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
		1		

12 年度以降	:	生涯学習概論		担当者	阪本 陽子
講義目的、語	講義概要	ξ .	授業計画		
き課題を持れています。	つ会とくなりませんというでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	議長・発達に応じて、人間として学ぶべ ます。また、少子高齢化、都市化、国際 な変化に対応した学習が絶えず求めら と習は、私たちの教育や学習に対する考 ませ、現代社会のなかで重要な意味を持 医学習に関する基本的な考え方を学ぶと 社会における家庭教育、学校教育、社会 退代社会と生涯学習の関わりについて考 もよりますが、講義形式だけでなく、 本験する演習を取り込みながら進めて	1. ガイダンス 2. 人間の形成・ 3. 社会の変化と 4. 生涯学習の思 5. 生涯学習習とき 6. 生涯学習習とき 7. 生涯学習習とき 9. さままざざままない。 10. ささずるでは 11. 学習形態・ 12. 学選ぞ習をいま 13. 生涯学習行政 14. 生涯とめ	学習と記述される。 学習と認識者では 学のでは 学のでは 学のでは 学習を表現では 学習では 学習では 学習では 学習では 学習では 学習では 学習では 学習	
到達目標		全習に関する基本的な考えを理解し、生涯 引代社会と生涯学習の関わりについて分析			
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献	テキストは使用しません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで全体に関わる参考 文献を紹介する他、授業中にそれぞれのテーマの参考文献を紹介します。				
評価方法	7割以上の出席を学期末レポートの提出資格とします。 講義中の課題と参加能度 (30%) 学年末レポー				

12 年度以降		図書館概論		担当者	井上 靖代
講義目的、講	義概要	5	授業計画		
図書館の機能と役割の基本について学習する。図書館の		1. はじめに。図書	館とはなにか。		
機能や社会に	おける	意義や役割について理解を図り、図書	2. 図書館の構成要	素と機能。図書	書館の社会的意義。
館の歴史と現	以 状、飢	種別図書館と利用者ニーズ、図書館職	3. 図書館の法的基	盤と図書館政策	
員の役割と資	格、類	[縁機関との関係、今後の課題と展望等	4. 知的自由と図書	館。	
の基本を解説	する。		5. 「図書館の自由	に関する宣言」	と「図書館員の倫理綱領」。
			6. 図書館の歴史。		
			7. 地域社会と公共	図書館の役割。	利用者のニーズ。
			8. 学校図書館の現	状と公共図書館	官との連携。
			9. 大学図書館の現	状と課題。	
			10. 専門図書館や国会図書館の現状と課題。		
			11. 国立図書館の役割と機能。		
			12. 図書館員の役割と資質、資格。現状と課題。		
			13. 図書館の類縁機関と現状と課題。		
			14. 国際社会での図書館活動。		
			15. 図書館の課題と展望。		
세후 輝		官に関する概論的知識を習得し、図書館の 情館政策、図書館司書の役割や使命などに	12.04 . 04.1		
事前・事後 学修の内容				ておくこと。	
テキスト、 参考文献				扁著 日本図書館協会 2015.02	
評価方法	小課題(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)※1/3 以上無断欠席すると授業放棄とみなす				

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę .	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以降		図書館情報技術論		担当者	福田 求
講義目的、認	冓義概要	E C	授業計画		
【目的】 現代の図書館では、情報や資料の収集・組織化・保存・提供というあらゆる場面において、コンピュータやネットワークを中心としたさまざまな情報技術が利用されている。本講義では、それらの情報技術について、基礎的な概念を理解した上で、図書館においてどのように応用されているかを学習する。 【概要】 図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。また各種情報システムを実際に利用する演習も行う。		ータとネット 2. コンピュータと 3. 情報技術と社 4. インダーへ 5. ウェブによる 6. ウェブ館館業 7. 図書館ダーンジン 10. 検索エンジン 11. 検索エンジン 12. 検索エンジン 13. 電子資ルアー	ワーク と : と : か : か : か : か : か : か : か : か :	のの情報メディア P、URI (URL)、HTML 舌用の現状 組み :情報の収集 :索引作成 :結果の並べ替え	
到達目標		官の業務・サービスに必要となる、基礎的 こうにする。	りな情報技術を習行	导し、これら	を図書館実務において実践で
事前・事後 学修の内容	指示された情報源については、次回までに入手/アクセスし、参照しておくこと。 また、前回の授業中に赤や青の文字で示されたキーワードの意味を説明できるように復習しておくこと。				
テキスト、 参考文献	適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。				
評価方法	期末レポート (50%)。平常授業における課題レポートなどの実績 (50%)。				

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以降		図書館情報技術論		担当者	堀江 郁美
講義目的、詞	講義目的、講義概要 授業計画				
図書館に関係する情報技術の理論を学び、実習する。今日、図書館では図書資料の管理だけでなく、さまざまなサービスを提供するために情報技術を用いている。また、電子図書館、電子書籍の出現など、今後も情報技術との関連は深くなると考えられる。この授業では、コンピュータやインターネットの仕組みなどコンピュータの基礎や、情報検索に関係する基礎理論と現状を学習し、実習する。最終的には、図書館利用者、スタッフの両視点から、現在、そして今後も通用する情報技術を習得することを目的とする。		5. ネットワークの 6. インターネッ 7. インターネッ 8. 電子文書と間 9. 図書館シスラ 10. 図書館のサー 11. ネットワー 12. ネットワー 13. 図書館システ	図書館の仕組みと歴の基礎知識の上で利用した情報の上で利用した情話を利用した情報であるとうでは、またでは、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	情報の発信 情報の発信:実習 子書籍 ベース メタデータ が利活用	
到達目標		iの業務・サービスに必要となる、基礎的 こうにする。	りな情報技術を習行	得し、これら	を図書館実務において実践で
事前・事後 学修の内容	事前:テキストや与えられた資料を精読すること。 事後:授業内容を復習すること。				
テキスト、 参考文献	現代図書館情報学シリーズ3「図書館情報技術論」高山正也、植松貞夫監修 杉本重雄編集、樹村房				
評価方法	授業創	態度(20%)、定期試験(60%)、レポート(20)%)を基本に、総合	ーーー 合的に評価す	<u></u> る。

			担当者			
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			授業計画		
到達目標						
事前・事後 学修の内容						
テキスト、 参考文献						
評価方法						

12 年度以降 図書館制度・経営論 接業計画 接業計画 資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、 1. 情報社会と図書	担当者	井上 靖代		
	•			
資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、 1. 情報社会と図書				
さらに自己継続教育といった内容について把握し、実施のための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕などを、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディ(事例研究)として議論しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。前半部分は講義であり、「図書館概論」で学習した内容をおさえながら実例を確認していく。後半はグループでの接業を加ができなくなるのでは、事例研究③)区では、またのででででででででででででででである。したがって、ケアディストグループでの授業を加ができなくなるのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またいでは、またのでは、またいでは、またいでは、またのでは、またいでは、またいでは、またのでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは	1. 情報社会と図書館の情報戦略。 2. 企業や公的セクターの経営理論 3. 図書館法を始めとする図書館関連法群と政策、それにともなる図書館経営の実態。 4. 地方自治体の図書館関連条例と図書館政策。 5. 事業計画策定と評価。 6. 事例研究①)図書館サービス活動にともなう事例 7. 事例研究による議論と発表。 8. 財政と図書館経営;PFIや委託の問題、			
到達目標 公共図書館や学校図書館など、各種図書館の制度・経営に関す 計画を策定・評価できるようにする。	る知識・技能	を習得し、公共図書館の事業		
事前・事後 学修の内容 図書館をめぐる課題・問題について新聞記事を読んでおく。	1 図書館をめぐる課題・問題について報題記事を読んでおく			
テキスト、 参考文献 最初の授業で参考資料リストを配布する。	・ 最初の授業で参考資料 ストを配布する			
■ 評価 万法 **********************************	授業参加及びチームワークによるプレゼン(60%)、課題(20%)、テスト(20%) ※授業の 1/3 以上の無断欠席及びプレゼン等のチームワーク欠席は授業放棄とみなす			

12 年度以降	図書館サービス概論		担当者	井上 靖代	
講義目的、講義	概要	授業計画			
公共公立図書館(公共図書館と公立図書館)を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何か、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに課題解決支援、障害者支援、高齢者・未成年者向け支援、多文化サービスなど各種サービスの特質を明らかにする。利用者への直接支援活動として、担当者の接遇や利用者やボランティアとのコミュニケーション等の基本について学習する。		2. 来館者へのサー 3. 資料提供の基礎 4. 資料提供の展開 5. 資料提供の展開 6. 情報提供;利用 など・文化活動 8. 障害者、未成年 10. 地域社会への 11. 図書館経営; 12. 図書館サービ 13. 図書館サービ 14. 人的資源;接過	 はじめに。図書館サービスの意義と考え方、変遷など。 来館者へのサービス。貸出、利用援助など。 資料提供の基礎;場所としての図書館 資料提供の展開;貸出、予約など。 資料提供の展開;プロモーション活動。 情報提供;利用者のニーズへの対応、レファレンス・サービなど 集会・文化活動、行事など。 障害者、障害児への支援活動。 高齢者、未成年者、外国人への支援活動。多文化サービス 地域社会への支援活動;課題解決支援、ビジネス支援 図書館マーケティング活動;利用者の交流の場としての図書館 図書館やービスとマネージメント 図書館サービスと著作権 人的資源;接遇、コミュニケーションなど。 まとめ。図書館サービスの連携とネットワーク 		
針 達日禪	書館サービス全般についての概論的知識を 図書館活動に関する諸問題について分析の		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		
事前・事後 学修の内容	- 1 テキストの当該党翌角元にあたろ首を読んでおくこと - 新閣・雑誌記事を読んでおくこと				
() -b, 1 -b,	『図書館サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ-3)日本図書館協会発行、2010 年 ISBN: 978-4-8204-0917-5				
評価方法	テスト(30%) 小レポート1回(30%)、期	末試験(40%) 無路	·····································	上で受講放棄とみなす。	

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以降		情報サービス論		担当者	福田 求	
講義目的、講	購義概要	5	授業計画	D回りの情報サービス:獨協大学図書館の情報サービス-ビス-ビス-ジルサービスマネスサービスス・ス・ジス(読書相談、図書館利用教育等) (議義と種類のまとめ(質疑応答を含む) 引いる情報源の特質と利用法用いる情報源の解説、評価、組織化ービスの理論(利用者の情報行動、レファレ例の活用、組織と担当者、サービス評価等)ービスの実際(レファレンスサービスの体制及、現状と問題点等) ビスの意義と方法 ビス め(質疑応答を含む)		
【目的】 本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を 具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、各種検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスに関する概念の総合的な理解を目指す。 【概要】 まず、図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスや情報検索サービス等の各種情報サービスの方法を概観する。また、情報サービスにおいて利用される情報源について解説する。そして、図書館利用教育や発信型情報サービス等の新しいサービスについて論じる。			サービス 2. 情報社会と図書 3. レンストアウェ 4. 利用案内, レンストアウェ 6. 情報検索報サー 8. 情報サービビスで 10. 情報サービビスストラインストラインストラインストラインストラインストラインストラインストライ	館の情報サービス ルナービスルサービス アスレス・ 読種ないの ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	ごススススススススススススススススススススススススススススススススというにはというには、1の解説、評価、組織化は、1の解説、評価、組織化は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、は、1の解説、1の解説、1の解説、1の解説、1の解説、1の解説、1の解説、1の解説	
到達目標						
事前・事後 学修の内容		について解説する。そして、図書館利 13. 発信型情報サービスの意義と方法				
テキスト、 参考文献	適宜約	3介する。授業の性格上、印刷メディアの)みでなく電子メラ	ディアを多数	紹介する。	
評価方法	期末し	/ポート(50%)。平常授業における課題	レポートなどの実	績(50%)。		

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

		担当者	
講義目的、講義概要	 授業計画		
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			
_			

12 年度以降	児童サービス論		担当者	井上 靖代	
講義目的、講義概	要	授業計画			
目である。以下の3 (1) 図書館サービスズ)について知る (2) 図書館資料とし資料について知。 (3) 図書館サービス資料とを結びつ	ての子どもやヤングアダルト(ティーンズ) 向け	13. 図書館活動: 14. 児童·YA向り 15. 現状と課題	YA向け図書館 整と「語と」 図書館 とと、ご館まり とと、ご館まり とと、ご館まり がいのでである。 がいのでである。 とと、これでは、 でいのでである。 でいるできます。 として、これでは、 でいるできます。 でいるとは、 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるでいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできます。 でいるできますなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	(すサービス)クションの活動図書館をめぐる諸問題・間計画策定	
■判注日標	や 10 代の図書館利用者(潜在的利用者含 々を対象とした図書資料収集やサービス活				
事前・事後 学修の内容	- *** 1 20 木谷頂黄・VA 事の定衆を順方く 蒜んでおく * 2				
	照代編 『児童サービス論』(JLA 図書館 N:9784820413158	情報学テキストシ	∕リーズⅢ-6)	(日本図書館協会、2015)	
評価方法 小口	ポート 60% 小テスト 30% 実践演習 10	0% 1/3(5 回以上)	無断欠席する	らと授業放棄とみなす。	

12 年度以降		情報サービス演習(前半)		担	旦当者	髙田 淳子
講義目的、講	義概 要	ξ ξ	授業計画			
う、レファ育成 【講義ファヤレカ報子に、 「報考をのでする。 はでいる。 はでいる。 はでいる。 はでいる。 はでいる。 はでいる。	ンなを スァンの 多し 、 演習 かっこう の 多し 、 演習 に こう	ービスの具体的な方法、インターネットレスブック(参考図書)について、事例 解説する。具体的な課題に取り組み、自 こ立つ検索方法も身につけられるような情報源を複合的に組み合わせて、適切 が確に伝えられるよう、発表も含む演習 (前半)では、情報検索とレファレン	2. 情報サー 3. レファレ 4. レファレ 5. レファレ 6. レファレ 7. インター 8. インター 9. 図書館OI 10. レファレ 11. レファレ 12. レファレ	ビスのi ンスインンス事 シススサ・トト シススサ・トクACのブ ブンスファンンスファン	「設ンロ例一情情七ツッツー計タセ集ビ報報較クククビとビス スののとⅠⅡⅢスのとⅠⅢのの	回答・記録 情報資源 索 I 索 II 価 案内:企画・作成
到達目標		レンス・ワークの実践を通じて、レファレン の要望把握、利用者の求めに応じた資料や情報				
事前・事後 学修の内容	授業で紹介するインターネット情報源は実際にアクセスし、紙媒体のレファレンスブックや参考文献は図 書館等で直接見て、知識と理解を深めるようにしてください。					
テキスト、 参考文献 テキスト:特に指定しない。毎回プリントを			己布する。 参	考文献	: 授業中	随時紹介する。
評価方法	授業~	への参加度(30%) 演習レポート(30°	 %) 期末レポ	ート (40%)	

12 年度以降		情報サービス演習(後半)			担当者	髙田	淳子	
講義目的、講	冓義概要	ξ.	授第	削	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
【講義目的】			1.	図書館と情報	報リテラシー			
利用者の情	青報要求	なを把握し、適切な情報提供ができるよ	2.	図書を探す				
う、レファレ	ノンスサ	ービス及び発信型情報サービスの実践	3.	雑誌、雑誌	記事・論文を	探す		
的能力の育成	戈を図る) _o	4.	新聞、新聞語	記事を探す			
【講義概要】			5.	「調べ方」を	調べる			
レファレン	ノスサー	-ビスの具体的な方法、インターネット	6.	図書館・類網	录機関のWeb	サイトI		
情報源やレフ	ファレン	/スブック (参考図書) について、事例	7.	図書館・類網	录機関のWeb	サイトⅡ		
を参考にした	よがら角	R説する。具体的な課題に取り組み、自	8.	法律情報を認	凋べる			
らの調べもの	のの役に	こ立つ検索方法も身につけられるよう	9. ビジネス情報を調べる					
にすすめる。	多様な	情報源を複合的に組み合わせて、適切	10. 健康情報を調べる					
な回答を見出	出し、的	か確に伝えられるよう、発表も含む演習	11. 発信型情報サービスの実践					
を行う。			12. パスファインダー: 企画					
情報サービ	ごス演習	習(後半)では、多様な情報源を複合的	13.	パスファイン	ンダー:作成			
に組み合わせ	せた主題	5別の調べ方と、発信型情報サービスを	14. パスファインダー: 発表					
中心に学ぶ。			15.	まとめ				
到達目標		レンス・ワークの実践を通じて、レファレン の要望把握、利用者の求めに応じた資料や情報					,	
事前・事後 学修の内容	授業で紹介するインターネット情報源は実際にアクセスし、紙媒体のレファレンスブックや参考文献は図 書館等で直接見て、知識と理解を深めるようにしてください。							
テキスト、 参考文献	- 1 テキスト・特に指定しない 毎回ブリントを配布する - 参孝文献・授業中随時紹介する							
評価方法	評価方法 授業への参加度 (30%) 演習レポート (30%)			期末レポー	F (40%)			

12 年度以降		図書館情報資源概論			担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要 図書館で所蔵される資料の種別と選択、保存と更新、さらに電子資料やネットワーク情報源などの幅広い資料について理解し、図書館および資料に関する基本的な専門用語について理解して説明でき、また、図書館資料の現状と課題について知識があり、それらについて自分の考えを述べることができるようになることを目標とする。		2-4. 印版 特質: 5. 電子. 特別 8. 出著: 10. 図形 11-12. 図形 13. コル 14.	副質子株 つ 返音 書籍 ガック 料料料 資本流 著に資針シ	メディア資料メディア資料メディア資料、灰色自然、大学・販売に開作権の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	ディアの類型と特質/地域資 対など/人文科学・社会科学分 科学・技術分野の基本的資料 する基本的知識 由、検閲と焚書 ン選択と理論、コレクション	
到達目標		官の業務・サービスに必要となる、基礎的 こうにする。	内な情報技術	デを習 行	得し、これら	を図書館実務において実践で
事前・事後 学修の内容 テキストの当該単元箇所を熟読すること。現場の図書館所蔵資料				斗を確認して	おくこと。	
テキスト、 参考文献『図書館情報資源概論』(JLA 図書館情報学ラ 978-4-8204-1217-5			テキストシリーズⅢ-8)日本図書館協会発行、2012 年 ISBN:			
評価方法		夏(50%)、定期試験(50%※持ち込み不可) ス席1/3以上で受講放棄とみなす。	で総合評価で	する。		

			担当者	
講義目的、講義概要	· E	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以降		情報資源組織論			担当者	小黒 浩司	
講義目的、認	冓義概要	<u>.</u>	授業	計画			
○ 講義の	目的		1.	授業の進め	方		
図書・逐復	欠刊行物	かなど多様な図書館情報資源の組織化の	2.	情報資源組	織化とは		
理論と技術は	こついて	て概説し、情報資源組織演習での学習に	3.	目録の意義	と種類		
備える。			4.	集中目録作	業		
			5.	共同目録作	業		
○ 講義の構	既要		6.	目録規則の	歴史		
書誌コン	トローバ	レ、書誌記述法、分類法、主題分析など	7.	NCR1987	3Rの概要		
		哉を修得する。ネットワーク情報資源な	8.	次世代目録			
ど多様な情報	報資源0	D組織化、書誌データの活用法を解説す	9. 主題目録法				
る。			10. 分類法の概要と種類				
			11. 分類法の歴史				
			12. NDC10の概要				
			13. 図書記号				
			14. 書誌コントロール				
			15.	まとめ			
到達目標	図書館	における情報資源組織化の意義を理解し、また、図書	館の資	料やインターネ	ット情報へのア	クセスを可能とする情報資源の組織化	
ZIAL LIN	(記述	目録、主題目録、メタデータ)に関する知識を習得	ン、資料	トを分類整理の	うえ管理できるよ	うにする。	
事前・事後 学修の内容	・・・・・・ 授業中間在のブリントで担示した宏美文配ね!			さどを閲覧することが望ましい。			
テキスト、 参考文献	■ 人名 「 」 一				,	訂3版』	
評価方法	期末診	試験の結果(80%)によって評価するが、	平常	授業におけ	る参加度(20	%)も評価対象とする。	

			担当者	
講義目的、講義概要	授業計画			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12年度以降	情報資源組織演習(前半)		担当者	小黒	浩司
講義目的、講義	義目的、講義概要 授業計画				
授業を通じて、 養成をはかる。 規則 (NCR) 19 法を学ぶ。 〇 講義の概要 NCR 1987年	原の組織化について学習する。演習形式の 青報資源組織化の具体的・実践的な能力の 青報資源組織演習(前半)では、日本目録 87年版改訂3版に準拠して、目録作成の技 版改訂3版の主要規則を書誌的事項ごとに 上で、NCR19873Rによる和資料記入の作 を行う。	1. 授業のガイク 2. 日本目録規則 3. 日本日録規則 4. タイトルに関 5. 責任と関いのででである。 7. 出版・関する。 7. 出態に関する。 9. シリ記に関する。 10. 注記準番号・ク 11. 標準目 12. 標目 13. 和資料記入の 15. 和資料記入の 15. 和資料記入の	則 (NCR) 則 (NCR) 則 (NCR) 関 する事項 事項 等に事項 等に事項 等に事する項 事件成演演 の作成演習	記述通則 項 する事項 (基礎) (応用)	
	書館資料やインターネット情報へのアクセフ データ)について演習し、パスファインダー				
事前・事後学修の内容	ほぼ毎回実施する目録作成の演習問題を、正確に記述すること。				
		樹村房、2015 年、現代図書館情報学シリーズ 9) 1987 年版改訂 3 版』(日本図書館協会、2006 年)			
評価方法 演っる。	習(小テスト)の結果(80%)によって評価	面するが、平常授美	業における参	加度(20%)も	評価対象とす

12 年度以降		情報資源組織演習(後半)		担当者	小黒	浩司	
講義目的、講	義概要	Ī	授業計画				
習する。多様 分析、分類作: 報資源組織業 ○ 講義の概: NDC10の概 る分類記号の	組織化情報、お客にで、おいます。	とに関する技術について、演習形式で学 政資源に関する書誌データの作成、主題 定制語彙の適用などの演習を通じて、情 いての実践的な能力を養成する。 分類規程を解説した上で、NDC10によ の演習を行う。次にBSH4の概要・件名 で、BSH4による件名付与の演習を行う。	3. 分類規程				
		F資料やインターネット情報へのアクセス -タ)について演習し、パスファインダー					
事前・事後 学修の内容	*** はは毎回実施する分類記号の付兵・佐久禮日の付兵の海黎問題を「よく考えて懶く」と						
ナヤスト.	· · · · · │					·標目表. 第 4 版』	
▮評価万法	演習 る。	(小テスト)の結果(80%)によって評価	西するが、平常授	業における参	加度(20%)も	評価対象とす	

		担当者		
講義目的、講義概要	 授業計画			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
_				

12 年度以降	図書館基礎特論		担当者	井上 靖代	
講義目的、講	義概要		授業計画		
「図書館概論」などで学習した内容をふまえ、公立公共図書館などでの利用者サービスの実例をふまえつつ、受講者が各自で設定したテーマにしたがって調査研究をすすめる。その時々において図書館界や出版界などで話題になったことを主にとりあげて議論していく。ケース・スタディとして多様な実例をあげつつ、演習を中心として学習する。 ※受講者自身が調査し、分析し、積極的な発言議論によって構成される科目である。統計データの収集や現地図書館へ赴いてのフィールドワークによる資料にもとづく課題を作成してもらうことになる。		2. 資料の変化にともなう課題;電子書籍等の出版と活用 3. 資料の変化にともなう課題;視聴覚資料等 4. 事例研究と議論① 5. 事例研究と報告① 6. 利用者の変化にともなう課題;高齢者増加社会での図書館活動等 7. 利用者の変化にともなう課題;外国人労働者向け活動等(多文化サービス) 8. 事例研究と議論② 9. 事例研究と議論② 10. 利用者のニーズ変化にともなう課題;ビジネス支援と失業者を接等 11. 事例研究と議論③ 12. 事例研究と報告③ 13. 受講者からの課題提起 14. 事例研究と議論④ 15. 事例研究と報告④			
■判注日標	司書課程の必修・基礎科目で学んだ領域について、応用的な知識・技能を習得し、図書館に関する特定課題について分析のうえ、見解を提示できるようにする。				
事前・事後 学修の内容	図書館関係の専門雑誌等を読み、課題を見つけておく。				
テキスト、 参考文献	テキストは指定しない。参考資料を配布するほか、新聞記事索引 DB 等を利用する				
■ 評価 力法	授業貢献(60%)、課題(40%) ※授業で議論・報告することで評価するので欠席すると評価対象にならないので注意すること				

			担当者		
講義目的、講義概要	Ę C	授業計画			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

12 年度以降	:	図書館サービス特論		担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要 幼稚園から高校を対象としての学校図書館での資料選択や調べ学習や総合学習などのレファレンス業務、さらにパスファインダーなどの作成を通じて、積極的な資料情報探索方法を司書教諭との連携によって行うことを、演習を通じて学ぶ。学校ボランティアや教師集団とのコーディネートについても考えていく。 ※学校図書館司書をめざす人のための科目です。教職課程に登録している必要はありません。		 授業計画 1. 学校図書館と公共図書館。 2. 学校教育と学校図書館。 3. 司書と司書教諭、学校司書の役割。 4. 学校内での学校図書館建築・設備。情報処理教室などとの連携 5. 学校図書館のコレクション構築。ブックリスト等の作成。 6. 学校図書館での資料選択・提供。 7. 学校図書館における資料の分類と目録化作業。 8. 貸出業務。学校図書館システム化から地域ネットワークへの参加。地域学校図書館センター。 9. 読書指導と学校図書館の役割。ブックトーク等。 10. 情報活用教育と学校図書館の役割。 11. 情報リテラシー教育と学校図書館の役割。 12. 学校図書館におけるレファレンス業務。パスファインダー作成等。 13. 学校図書館における知的自由を考える。 14. 地域と学校図書館。 15. まとめ 			
到達目標		官サービスに関して専門的な知識・技能を と、見解を提示できるようにする。	を習得し、図書館活	舌動をより発	展させる方策等について分析
事前・事後 学修の内容	「図書館サービス概論」内容を確認しておくこと。学校図書館活動に関する新聞・雑誌記事を読んでおく こと。				
テキスト、 参考文献	・ 最初の授業で参考資料 ストを嗣布する				
評価方法	評価方法 授業内でのプレゼンテーション(30%)、小レポート(20%)、小課題(20%)、小テスト(30%)				

12 年度以降	図書・図書館史			担当者	小黒 浩司	
講義目的、講	義概要	<u>;</u>	授業計画			
○ 講義の目的	的		1. 授業の	ガイ:	ダンス・歴史	的図書館建築
図書館の情	報資》	原と図書館の歴史について発展的に学	2. 図書館(の源え	流	
習し、理解を活	深める	0.0	3. 紙以前の記録媒体			
			4. 神の発見	明とī	西伝	
○ 講義の概要	要		5. 図書の	形態」	史	
図書をはじる	めとす	る各種図書館情報資源の形態、生産、	6. 図書館	の発	幸	
印刷、普及、汽	流通な	どの歴史を概説する。また、図書館の	7. 印刷の	歷史		
歴史的発展に	ついて	解説する。	8. 印刷技行	析のi	進歩	
			9. 大量印刷	削の間	時代	
			10. 公共図書館の誕生			
			11. 雑誌・新聞の歴史			
			12. マスメディアの誕生			
			13. 記録媒体の多様化			
			14. 近代公共図書館の発展			
			15. まとめ			
到達目標	図書お	よび図書館の歴史について知識を習得し	、図書の歴史	中や	情報変遷史、	時代や社会の変化に連動した
到连口惊	図書館	iの変遷について分析のうえ、見解を提示	そできるよう(こす	る。	
事前・事後 学修の内容 テキストの該当ユニットを読んでおくことが望ましい。						
テキスト、	テキスト: 小黒浩司編著『図書・図書館史』(日本図書館協会、2013 年、JLA 図書館情報学テキストシ			A 図書館情報学テキストシリ		
A						
評価方法	期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における参加度(20%)も評価対象とする。					

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

シラバス 免許課程

2017年4月1日発行 獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 電 話 048-946-1663



学科	斗	学年	氏	名
	学科	年		